

県営圃場整備事業に伴う
埋蔵文化財確認調査・工事立会概要報告書

－平成 21～23 年度緊急雇用創出事業に係わる整理作業報告書－

2012. 3

栃木県教育委員会
（財）とちぎ未来づくり財団

序

栃木県教育委員会では、平成21年度から23年度までの3年間、国の交付金を活用した国の緊急雇用創出事業により、収蔵遺物の再整理及び収納、実測図や写真など記録類の再整理及び収納、出土遺物等の資料化を実施してまいりました。

本書は、このうち出土遺物等資料化の事業をまとめたもので、これまで栃木県教育委員会が実施した確認調査・工事立会などにおいて出土した遺物・遺構図面・写真について資料化したものです。遺物は洗浄から注記・接合・復元・図化までおこないましたが、膨大な量があり、今回掲載できた資料は、その中の一部に過ぎません。これまで概要のみで報告書として公表されなかったこれらの資料のなかには、発掘調査の資料同様貴重なものもあり、これを機会に、今後活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、事業に係わっていただいた方をはじめ、整理作業から報告書作成に至るまで、ご理解・ご協力いただきました関係機関・関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成24年3月

栃木県教育委員会
教育長 須藤 稔

例 言

1. 本書は、平成 21 ～ 23 年度に栃木県が実施した緊急雇用創出事業に係わる埋蔵文化財確認調査・工事立会の概要報告書である。各遺跡の調査概要については埋蔵文化財センター年報、栃木県埋蔵文化財保護行政年報で報告されているが、調査内容・成果については本書が優先となる。但し、記録類の不備や遺物整理未了な部分もあることから、概要報告の扱いとし、別途不備などを補うこととする。
2. 本書には、主に大きく 3 地区の県営園場整備事業（赤津南部地区、石橋南部地区・江川・五千石地区）に係る埋蔵文化財調査についての報告をまとめた。遺跡の所在・内容等については、本文中に記載してある。
3. 発掘調査は栃木県教育委員会文化財課が直接行った確認調査・工事立会と、(財)とちぎ生涯学習文化財団(現(財)とちぎ未来づくり財団)が栃木県から委託を受けて実施した県営園場整備事業確認調査の事業とがある。後者が実施した確認調査は平成 17 年度及び 18 年度の事業が該当する。
4. 財団における県営園場整備確認調査は以下の担当者・期間により実施された。

平成 17 年度 担当：中山晋、高野欽也、事業地：石橋南部地区（82,700 m²、11 月 7 日～12 月 9 日）

事業地：江川・五千石地区（637,000 m²、12 月 19 日～3 月 24 日）

平成 18 年度 担当：中山晋、高野欽也、

事業地：江川・五千石地区（199,500 m²、11 月 20 日～12 月 15 日）

5. 文化財課における確認調査・工事立会は以下の担当者により実施された。

平成 7 年度 担当：田熊清彦、田代隆、齋藤恒夫

事業地：赤津南部地区（7 月 5 日～8 月 31 日）

平成 17 ～ 20 年度 担当：田熊清彦、手塚達弥、齋藤恒夫、武川夏樹

事業地：石橋南部地区（平成 17 年度）

江川・五千石地区（平成 18 ～ 20 年度）

6. 本書の作成・執筆・編集は江原英、大野淳史が行った。

7. 緊急雇用創出事業による整理作業参加者は以下の通りである。

嘱託調査員：中山真理、村田沙織、大野淳史

整理補助員：飯田律子、熊谷早苗、小島恒夫、佐藤玲子、田中宏彰、橋本品江、丸山雅美、高橋正恵、阿久津祐介、石口優子、河又智美、高橋麻理恵、坪山さわか、野中渉、畠山浩美、唐崎育美、蛭川千尋、松沼靖子、宗像誠、湯沢孝祐、稲葉順子、太田由美、岸布美子、古川喜美、高野昇一郎、田崎訓子、戸辺康則、北條聖子、本田智恵子、増田嵩久、渡辺佳明、五十嵐寿子、塚田幸枝、斗沢史子、樋口由美子、米野裕子、神原美奈、高山洋美、松沼佐智枝、小野佑佳、柏木玲子、菖蒲谷麻衣、田口里美、田中一孝、保坂葉子

8. 本報告書掲載遺跡の出土遺物・資料類は、栃木県埋蔵文化財センターで保管している。

9. 遺跡の略号は下記の通りである。

木村古墳群（赤津南部地区）：TG-AK

岩渡遺跡：IB-IW 前川原遺跡：IB-MK 前川原西遺跡：IB-MN 石橋南部関係 SM-IBS

車口北遺跡：SM-KR

田中下文挾遺跡横町鶴巻地区 A 地点：SMTS-YTA (SM-TS-TN)

田中下文挾遺跡横町鶴巻地区 C 地点：SMTS-YTC

田中下文挾遺跡久保田地区：SM-TS-KB または SMK B (SM-IN=稲荷前遺跡で注記遺物あり)

田中下文挟遺跡反田地区：SMTS-TD 稲荷前遺跡SM-IN

葉師寺稲荷台遺跡：SM-YK

町田中里遺跡SM-MN 西の島遺跡SM-NS

新規散布地A：新A 新規散布地C：新C

10. 遺構遺物の掲載

遺構名：略号は住居跡をSI、溝をSD、土坑をSK、掘立柱建物跡をSB、その他性格不明遺構などをSXとした。遺構図の縮尺は、それぞれ図中にスケールで示した。逐一の凡例は示さないが、トレンチ内・カマド・焼土部分など、適宜網掛けにて示した部分がある。

観察表中の遺物の計測値は復元値残存値なども示した。縮尺は原則1/3とした。色調は『新版 標準土色帖』をもとに示した。胎土・焼成・調整手法など観察結果を表中に示す。

目 次

第1章 再整理・資料化事業の経緯と概要	
第1節 調査に至る経緯	1
第2章 報告遺跡の概要	
第1節 木村古墳群の概要	3
(1) 調査の概要	3
(2) 遺構と遺物	7
第2節 石橋南部地区遺跡の概要	19
(1) 調査の概要	19
(2) 文化財課工事立会の遺構と遺物	23
A. 岩渡遺跡	23
B. 前川原遺跡	26
C. 前川原西遺跡	26
(3) 埋蔵文化財センター確認調査の遺構と遺物	28
A. 車口北遺跡	30
第3節 江川・五千石地区遺跡の概要	36
(1) 調査の概要	36
(2) 文化財課工事立会の遺構と遺物	38
A. 田中下文扶遺跡横町鶴巻地区	40
B. 田中下文扶遺跡久保田地区	48
C. 薬師寺稲荷台遺跡・西の島遺跡・新規散布地A	59
(3) 埋蔵文化財センター確認調査の遺構と遺物	59
第3章 まとめ	67

挿図目次

第1図	木村古墳群位置図	3
第2図	木村古墳群全体図	4
第3図	S I O 1出土遺物	5
第4図	S I O 2出土遺物	6
第5図	S I O 3出土遺物 (1)	8
第6図	S I O 3出土遺物 (2)	9
第7図	S I O 4出土遺物 (1)	10
第8図	S I O 4出土遺物 (2)	11
第9図	S I O 4出土遺物 (3)	12
第10図	遺構外出土遺物 (1 縄文・弥生時代)	17
第11図	遺構外出土遺物 (2 古墳時代)	18
第12図	石橋南部開運道跡位置図	19
第13図	岩渡遺跡・前川原道跡調査区	20
第14図	岩渡遺跡トレンチ配置図	21
第15図	岩渡遺跡S D O 1平面図	22
第16図	岩渡遺跡S D O 1土層断面図	23
第17図	岩渡遺跡出土遺物	24
第18図	前川原道跡T 1平面図	26
第19図	前川原道跡トレンチ配置図	26
第20図	前川原道跡出土遺物 (1)	27
第21図	前川原道跡出土遺物 (2)	28
第22図	前川原道跡位置図	30
第23図	前川原道跡T 1平面図	30
第24図	前川原道跡出土遺物	31
第25図	車口北道跡トレンチ図	33
第26図	車口北道跡T 7	33
第27図	石橋南部・車口北道跡出土遺物	34
第28図	江川・五千石開運道跡位置図	36
第29図	田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区A地点	38
第30図	田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区A地点遺構図	39
第31図	田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区C地点遺構図2	40
第32図	横町鶴巻地区A地点S I O 1出土遺物出土状況	40
第33図	田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区A地点遺物	41
第34図	田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区C地点	43
第35図	田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区C地点S I O 1	44
第36図	田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区南側確認トレンチ	44
第37図	田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区確認T I 1	45
第38図	田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区D地点トレンチ	45
第39図	田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区C地点遺物	46
第40図	田中下文扶遺跡 久保田地区全体図	48
第41図	田中下文扶遺跡 久保田地区住居跡集成図 (1)	49
第42図	田中下文扶遺跡 久保田地区出土遺物 (1)	50
第43図	田中下文扶遺跡 久保田地区出土遺物 (2)	51
第44図	田中下文扶遺跡 久保田地区住居跡集成図 (2)	52
第45図	田中下文扶遺跡 久保田地区出土遺物 (3)	52

第46図	田中下文扶遺跡 久保田地区確認調査出土遺物 1	56
第47図	田中下文扶遺跡 久保田地区確認調査出土遺物 2	57
第48図	稲荷前道跡確認調査トレンチ配置図	58
第49図	久保田地区確認調査トレンチ	58
第50図	薬師寺稲荷台道跡トレンチ配置図	59
第51図	薬師寺稲荷台道跡T 8	60
第52図	西の島道跡確認調査トレンチ配置図	60
第53図	西の島道跡立会調査トレンチ配置図	60
第54図	薬師寺稲荷台道跡出土遺物	61
第55図	町田道跡中里地区トレンチ配置図	61
第56図	新規敷布地Cトレンチ配置図	61
第57図	町田道跡中里地区・西の島道跡出土遺物	62
第58図	田中下文扶遺跡 横町・鶴巻地区A地点・新規C等遺物	62
第59図	田中下文扶遺跡反田地区出土遺物	64
第60図	田中下文扶遺跡反田地区H17確認調査トレンチ配置図	66
第61図	新規敷布地Aトレンチ配置図	66

表目次

第1表	確認調査・工事立会遺物一覧	2
第2表	S I O 1出土遺物観察表	6
第3表	S I O 2出土遺物観察表	7
第4表	S I O 3出土遺物観察表	13
第5表	S I O 4出土遺物観察表	15
第6表	遺構外古墳時代出土遺物観察表	18
第7表	岩渡遺跡出土遺物観察表	25
第8表	前川原道跡出土遺物観察表	29
第9表	前川原道跡出土遺物観察表	32
第10表	石橋南部開運道出土遺物観察表	35
第11表	車口北道跡出土遺物観察表	35
第12表	江川・五千石地区工事立会一覧表	37
第13表	田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区A地点出土遺物観察表	42
第14表	田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区C地点出土遺物観察表	47
第15表	田中下文扶遺跡 久保田地区出土遺物観察表	53
第16表	田中下文扶遺跡 久保田地区確認調査出土遺物観察表	57
第17表	田中下文扶遺跡 久保田地区確認調査出土遺物観察表	58
第18表	薬師寺稲荷台道跡出土遺物観察表	61
第19表	町田道跡中里地区出土遺物観察表	63
第20表	西の島道跡出土遺物観察表	63
第21表	鶴巻A・新規C等遺物観察表	63
第22表	田中下文扶遺跡反田地区出土遺物観察表	65

第1章 再整理・資料化事業の経緯と概要

第1節 整理に至る経緯

今回の再整理・資料化事業に際しては、まず栃木県埋蔵文化財センター収蔵庫に収納されている未整理遺物について確認することからはじめた。報告書刊行済みの遺物についても、収納用の再整理を緊急雇用創出事業の中で進めたが、ここでの「再整理」は、報告書未刊行の遺物整理である。但し、これらの遺物の中には、別地点の報告書や概要報告が刊行済みだが、別地点・別事業のため未整理の部分がある例や、今後報告書作成作業の事業化が予定されているもの等もある。それぞれの遺跡によって、経緯は異なるが、現地での発掘調査は完了だが正式報告にむけての整理作業が事業化されていないもの、未整理の文化財課の確認調査・工事立会、埋蔵文化財センターに委託された県営園場整備事業の確認調査の遺物等がある。これらの多くは、現時点で報告できる可能性の低い遺物であるが、いうまでもなく発掘調査の成果であり、今後公にしてゆく必要がある。

収蔵庫内の未整理遺物を確認した結果は第1表のとおりで、県営園場整備関連の事業が目立つ。県から埋蔵文化財センターに委託される形で継続的に行っている県営園場整備事業関連の確認調査、また文化財課の確認調査、工事立会例については、その後の協議により現状保存された遺跡や、一部の工事立会のみとなった遺跡も多い。これらの資料についての再整理資料化事業について、埋蔵文化財センター・文化財課で継続的に協議を行いながら、整理報告する遺物の優先順位を決めつつ、整理作業を進めていった。

この3年間の中で、整理を進めた遺跡は10遺跡である。水洗・注記を行った遺跡を略記すると、①栃木市吹上東部地区榑窪地区（2箱）、②足利市中妻中之内遺跡（2箱）、③佐野市寺之後遺跡（2箱）、④大田原市金田北部関係〈船山遺跡〉（70箱）、⑤下野市江川・五千石関係（42箱）、⑥下野市石橋南部関係（13箱）、⑦那須塩原市井口遺跡（39箱）、⑧宇都宮市下上遺跡（旧本田遺跡、20箱）、となる。このうち④の船山遺跡については接合及び一部分類まで行った。また⑤⑥については接合・実測を行い、今回報告とした。また既に注記まで行われていたもので、接合・実測を進めた遺跡として、⑨下野市下野国分寺跡（古墳時代以前）、⑩栃木市赤津南部地区（木村古墳群）がある。遺物整理が終了した後者⑩については今回報告する。事業としては県土整備部関係の③及び教育委員会関係の⑨を除き、県営園場整備事業に係わるものである。これらの中で遺物量の多いのは船山遺跡及び下上遺跡で、いずれも縄紋時代中・後期のいわゆる大きな集落跡と推定され、報告が必要と考え準備を進めたが、整理途上となっている。

今回の報告では、古墳時代後期～古代にかけての良好な資料となる、栃木市都賀町所在の木村古墳群、下野市石橋南部地区内、同市江川・五千石地区内の遺跡の3事業について主に報告する。いずれも県文化財課による確認調査・工事立会資料であるが、後二者については埋蔵文化財センターによる確認調査資料も含まれている。現時点において、これらもすべてを資料化できたわけではなく、また記録類が確認できなかったものもある。極めて不十分な報告となるが、貴重な発掘調査資料としてその成果を公表すべきものであることから、ここで報告を行う。

なお資料化の進行状況と遺構数・遺物量等をもとに、文化財課と埋蔵文化財センターで協議を進めた結果、報告書作成業務は平成23年度に行うこととした。平成23年4月1日付けで「平成23年度緊急雇用創出事業…の委託契約の締結について」を締結した契約内で行っている。委託契約金額は平成21年度 23,694,000 円、平成22年度 23,837,000 円、平成23年度 23,700,000 円である。

第1表 収蔵庫内の確認調査・工事立会遺物一覧

遺跡名	船名	整理状況	調査年	調査原因	調査種別	備考
井口	194	未定、洋記、復元	H1	県立総合整備事業	埋土確認調査	縄文土器遺物多数
瑞雲、大宮タテヤ	1	未定	H6, 5?	県立総合整備事業確認調査関係?		牛込遺跡調査か
船山遺跡	42	洋記済み	H13	県立総合整備事業金田北2期	埋土確認調査	縄文土器
船山遺跡・船山西遺跡	28	洋記、一部復元	H21	経営体育成基盤整備事業金田北3期	埋土確認調査	縄文土器
船山田	1	未定	561	県立総合整備事業	埋土確認調査	土器、古墳時代遺物等
作内	43	未定済み	H7	県立総合整備事業山内南地区	埋土確認調査	堀谷町、平安時代集落
山内遺跡	4	未定	H7	県立総合整備事業山内南地区	埋土確認調査	堀谷町
横間田等(1-373)	93	未定		県立総合整備事業津波調査関係等		遺跡複数
船山	4	未定	H21	県立総合整備事業山内南地区	埋土確認調査	高岡市
横間 南遺跡	2	未定済み	H12	県立総合整備事業大田地区	文化財調査	高岡市
上三田、下新田	4	未定済み				
竹川屋	1	未定済み			文化財調査	新本市
川地北	6	未定済み	H7	県立総合整備事業山内上平地区	埋土確認調査	堀谷町、平安・近世
木村古墳群	21	未定済み	H7	県立総合整備事業津波調査関係	文化財調査	古墳時代集落・古墳、本報告
船山 平良	1	未定済み	H6	県立総合整備事業		
横木	9	未定済み	H9	県立総合整備事業荒瀬野南地区	埋土確認調査	宇都宮市、縄文土器
横谷製鉄跡・横谷、中ノ目等	2	未定済み	H9	県立総合整備事業三和地区	埋土確認調査	宇都宮市、鎌倉・室町・土器
横谷	9	未定済み	H9	県立総合整備事業三和地区	埋土確認調査	宇都宮市、鎌倉・室町・土器
西沢C	2	未定済み	H9	主要地方道黒川線利根木線	文化財調査	みまき
桑の川	3	未定済み	H19	県立総合整備事業小貝川西地区	埋土確認調査	高岡市
井ノ前	1	未定済み	H11	県立総合整備事業三和地区	文化財調査	大田原市
伏上東部地区・津波地区	2	未定済み	H11	県立総合整備事業津波調査関係	埋土確認調査	新本市
松原田	2	未定済み	H14	県立総合整備事業金田北2期地区	文化財調査	大田原市
井ノ上、西野地、西中道	2	未定済み	H15	県立総合整備事業新本市	埋土確認調査	70-1N, 70-2N, 70-3N
江川南部開通	14	未定済み	H14, 15, 16	県立総合整備事業江川南部1地区 県立総合整備事業江川南部2地区	埋土確認調査	本調査あり、遺物等、古墳時代 ～古代集落等
東乙郷、白沢久保	2	未定済み	H15	東乙郷：国道4号バイパス 白沢久保：経営体育成基盤整備事業下田南地区	文化財調査	東乙郷：新本市 白沢久保：宇都宮市
仁土地、井ノ口等小貝川沿岸	4	未定済み	H19	経営体育成基盤整備事業小貝川沿岸2期	埋土確認調査	本調査あり、古墳時代遺物等
横谷津波地区 新坂	2	未定済み	H21	経営体育成基盤整備事業津波津地区	文化財調査	高岡市
温泉神社北	2	未定済み	H22	国道294号	文化財調査	新田町
鉢形	2	未定済み	H10	県道脇良羽川線バイパス	埋土確認調査	小山市、本調査あり
U-10	1	洋記済み	H9		埋土確認調査	小山市、本調査あり
笠原、笠原、小泉、和泉	2	未定済み	H9	県立総合整備事業津波津地区	文化財調査	高岡市
木田上遺跡	20	未定済み	H10	県立総合整備事業津波津地区	埋土確認調査	縄文土器、本調査あり
中田中ノ目	1	洋記済み	H3	県立総合整備事業	埋土確認調査	堀谷町、中・近世
横間、下田原南地区	6	洋記済み	H15, 16	経営体育成基盤整備事業下田原南地区	文化財調査	宇都宮市
新本市西部地区	2	洋記済み	H16	県立総合整備事業新本市西部地区	文化財調査	埋土確認調査あり、古墳・奈良・平安・中・近世
桑の川A、西野地、青龍潭等	5	洋記済み	H16	県立総合整備事業	文化財調査	高岡市
(桑の川A)				経営体育成基盤整備事業小貝川西地区	文化財調査	高岡市
(西野地)				経営体育成基盤整備事業新本市西部地区	文化財調査	新本市
(青龍潭)				経営体育成基盤整備事業津波津地区	埋土確認調査	土器、本調査あり
石橋南開通、幸口北等	13	洋記済み、接合	H17	県立総合整備事業石橋南地区	文化財調査	埋土確認調査あり、本報告
SV-KY, SV-HI, SV-HY, SN-ID	1	洋記済み	H17		不明	佐野市
大明神、橋本	1	洋記済み	H19		文化財調査	高岡市
(大明神)			H19	大明神：県道側生田田原線	文化財調査	宇都宮市
(橋本)			H19	経営体育成基盤整備事業小貝川沿岸2期	文化財調査	市見町
西田、重富東田	1	洋記済み	H20	重富東田：科学技術高校建設	文化財調査	宇都宮市
(西田)				中山間地域総合整備事業重富東田地区	文化財調査	高岡市
長手西	2	洋記済み			文化財調査	大田原市
坂中	2	接合済み	H19	県道4号国道建設?		宇都宮市山崎?
小川	2	接合済み	H13	県立総合整備事業小貝川西地区	埋土確認調査	高岡市、古墳時代集落
小貝川沿岸1期	1	洋記済み	H16	経営体育成基盤整備事業小貝川沿岸1期	文化財調査	市見町
門前	1	接合済み	H17	県立総合整備事業津波津地区	文化財調査	宇都宮市
寺野東(第1・V、第2、第VI附区)	4	接合済み	H12, 17, 18	小山東部工業団地	文化財調査	小山市 本調査関係地
峠崎	7	接合済み	H18	経営体育成基盤整備事業小貝川沿岸1期	文化財調査	市見町
分堀内	2	接合済み	H18	経営体育成基盤整備事業小貝川沿岸1期	文化財調査	市見町
小口小南	1	接合済み	H20	県道小砂小口線	文化財調査	堀谷町
河内	6	接合済み	H21	県道佐野川線	文化財調査	新本市
江川・五石地区開通	42	洋記済み	H18, 19, 20	県立総合整備事業江川五石地区	文化財調査	埋土確認調査あり、本報告
西郷ノ木遺跡		未定済み	H14	県立総合整備事業五石地区	埋土確認調査	堀谷町、縄文土器、古代

※そのほか、報告書作成済みの遺跡として小貝川沿岸1期、藤川A遺跡の2、下野国府跡1箇所がある。

第2章 報告遺跡の概要

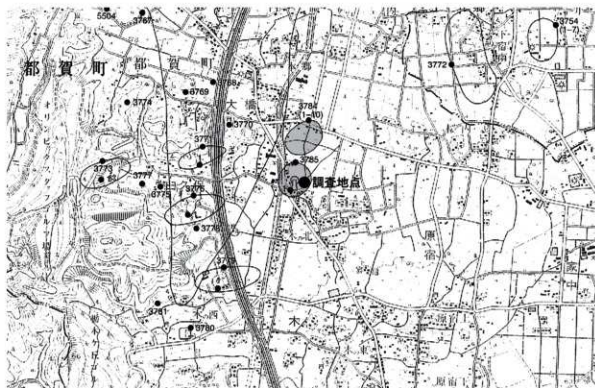
第1節 木村古墳群の概要

(1) 調査の概要

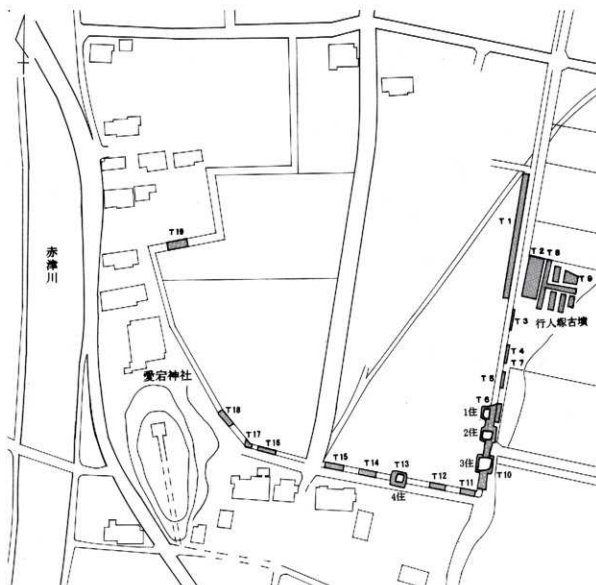
経緯と遺跡の概要

栃木県教育委員会文化課(現文化財課)では、県営土地改良総合整備事業赤津南部地区に所在する都賀町(現栃木市)木村古墳群(周知の遺跡、県登録番号No.3784)の取扱いについて、県農務部農村整備課(現農政部農地整備課)と、掘削深が表土厚を越えない計画により工事を行うことで協議を進めていた。ところが、農業用水路部分及び一部については掘削深が表土厚を越えることが避けられないこととなり、文化財課で工事立会を実施することとなった。調査の実施日は平成7年7月5日、7月28日、8月7～8日、8月29～31日である。立会調査結果の報告及び工事の実施について差し支えない旨の回答については、平成7年9月に教育委員会事務局文化課長から農村整備課長あてに文書が提出されている。

確認された遺構は竪穴住居跡4軒で、併せて地区除外で現状保存とされた行人塚古墳の周溝を確認している。木村古墳群は、愛宕台古墳の北東200mのところに円墳が散在していたとされる古墳群であるが、現存確認されているのは1基のみとされている。字名では大字木字愛宕前ほかとなる。県遺跡地図(H9)では、10基の円墳が登録されている。愛宕台古墳(No.3785)は、愛宕神社のまつられているところにある古墳で、旧都賀町唯一の前方後円墳とされているが、正式な調査は不明である。『都賀町史』によれば、全長90m、高さ3～8mで、西側裾が道路で切断されているが、この工事の際に埴輪の出土があったとされている。



第1図 木村古墳群位置図 (S=1/25,000)



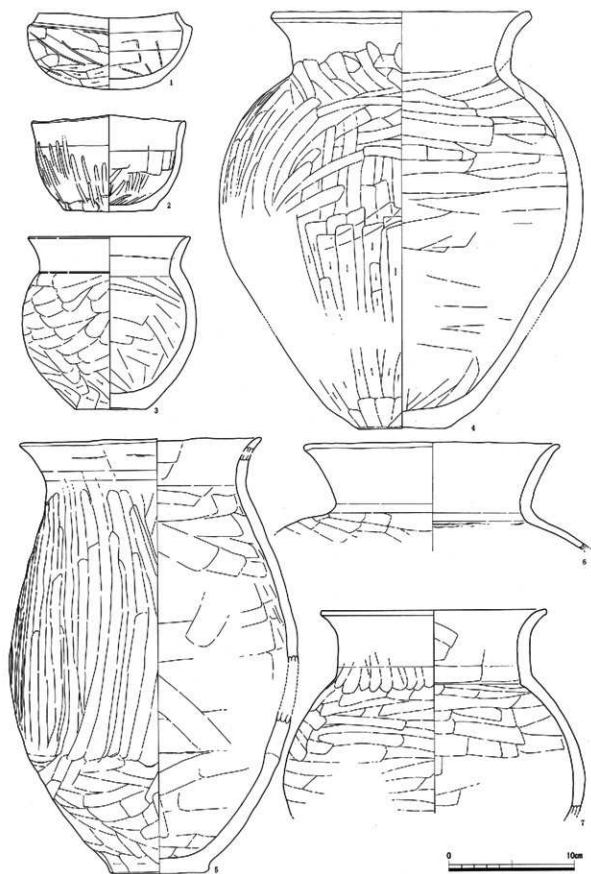
第2図 木村古墳群全体図

西500mより西側は鹿沼市～栃木市西側の丘陵地帯となり、この丘陵端部に、幾つかの遺跡が認められている。現赤津川より東側は水田が広がる沖積地となるが、本古墳群周辺も含め、微高地の存在も認められる。幾つかの遺跡の所在は確認されているものの、発掘調査の事例は乏しく、旧都賀町域の古墳時代～古代の様相については、不明な点が多い。

調査の概要

既述の経緯で調査を行うこととなったため、基本的には水路部分について、トレンチを設定して重機による掘り下げを行った。この過程で、遺構が確認されたところについて、トレンチ調査範囲を拡張して遺構全体が把握できるようにした。確認された遺構部分は調査を行い、遺構が確認できなかったトレンチも含め、記録作成後に水路部分について調査終了とした。

今回報告する遺物は、この4軒の住居跡覆土から出土したものを主とする。また古墳周囲の確認も行ってい

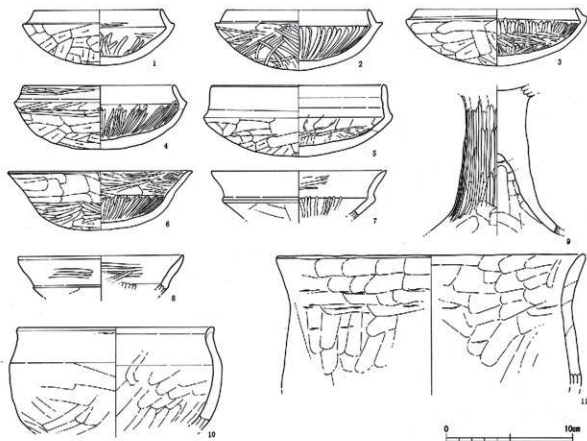


第3図 S101出土遺物

第2表 SIO1出土遺物観察表

():推定値 []:残存率

番号 種類 器種	大きさ (cm・g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 杯	口 11.0 高 6.1	外面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後にヘラナデ、調整は粗い。内面はヘラナデ後口縁部一帯部上半ヨコナデ。一部に指頭圧痕見られる。内外面にスス付着。	(外)7.5YR に近い褐 (内)10YR2/5 灰黄褐 小礫・砂粒多量 焼成:良好	60% No.17
2 土師器 鉢	口(12.2) 高 7.7 底 7.1	外面は口縁部ヨコナデ、体部、縦位のミガキ、底部付近に指オサエによる整形。器面摩擦有り。底面は一定方向でヘラケズリにより作り出す。スス付着。	(外)7.5YR 6/7 橙 (内)10YR8/4 浅黄褐 小礫多量 焼成:良好	50% No.5
3 土師器 小型甕	口 12.8 高 13.7 底 5.6	外面の底部は横一斜方向のヘラケズリ、胴部ナデ、口縁部ヨコナデ。底面は不定のヘラケズリ。内面は口縁部ヨコナデ(輪痕直横する)、胴部ヘラナデ。	(外)7.5YR 5/4 に近い橙 (内)5YR6/6 橙 2~3mmの砂粒、小礫、雲母、石英含む 焼成:良好	完形 No.15
4 土師器 甕	口(20.8) 高 33.0 底(7.0)	外面の口縁部はヨコナデ、頸部下半斜方向のナデ、胴部上半一帯位は横方向一斜方向ヘラナデ、胴部中位上から下縦方向のヘラケズリ、胴部下半下から上に縦方向のヘラケズリ、底面縦方向のナデ。底面は不定方向のヘラケズリ。内面の口縁部はヨコナデ、胴部は横方向のヘラナデ、底部は斜め方向のヘラナデ。	(外)2.5YR 4/8 赤褐 (内)口縁部2.5Y7/3 浅黄 底部一帯 胴部2.5Y6/2灰黄 小礫、砂粒含む 焼成:やや不良	口縁部一胴部 下半分欠 底部は残 No.14
5 土師器 甕 (長胴)	口(18.6) 高 34.4 底 7.8	外面は頸部から胴部下縦方向の丁寧なヘラナデ。胴部下一帯増殖なナデ。底部周縁横方向のケズリ。内面は縦一帯横方向のヘラナデ、部分的に斜めのヘラナデ。特に胴部最大径付近は斜め多い。口縁部ヨコナデ。全面にスス付着。	(外)7.5YR 6/6 橙 (内)7.5Y3/1 オリーブ黒 小礫、砂粒含む 焼成:良好	75% 口縁部、胴部 一部欠 No.14
6 土師器 甕	口 20.3 高(18.3)	外面は口縁部ヨコナデ、肩部ヘラナデ。内面は口縁部ヨコナデ、肩部ナデ、頸部下2段の輪痕み微。内外面口縁部の一部に赤変。	(外)10YR 6/6 赤黄褐 (内)10YR 6/4 に近い黄橙 1cm程度の小礫、砂粒含む 焼成:良好	口縁部1/5欠 口縁部全周
7 土師器 甕	口(18.0) 高(11.0)	外面は口縁部ヨコナデ、胴部縦方向のナデ、胴部横方向のナデ。内面は口縁部ヨコナデ後一部斜、横のヘラナデを施す。胴部と胴部の境明確。胴部横方向のヘラナデ。内外面とも黒変有り。	(外)10YR 6/2 灰黄褐 (内)2.5Y 6/2 灰黄 小礫多量 焼成:良好	口縁部半分 胴部上半1/4下半 完全に欠



第4図 SIO2出土遺物

第3表 SIO2出土遺物観察表

():推定値 [] :残存値

番号 種類 図番	大きさ (cm/g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 坪	□ 10.3 高 4.3	外面は口縁部ヨコナデ、体部上半ヘラナデ。体部一底部ケズリ。 内面は口縁部ヨコナデ後ミガキ、体部上半ヘラナデ後ミガキ。体部一底部ミガキ。内面の器面は剥離、摩滅が激しい。外面のほぼ全面に黒底有り。	(外)10YR4/2 灰黄褐色 (内)7.5YR4/2 灰褐色 小礫含む 焼成:良好	95%(口縁部欠) No.9
2 土師器 坪	□ 11.4 高 4.8	外面は口縁部ヨコナデ、体部一底部ケズリ後ミガキ。 内面は口縁部ヨコナデ、体部ミガキ。内外底部中心に黒底有り。	(内外)2.5YR6/8 褐色 小礫、白色細粒含む 焼成:良好	完形 No.5
3 土師器 坪	□ 12.8 高 4.5	内外面ともに器面粗い。外面は口縁部ヨコナデ、体部上半ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面は口縁部ヨコナデ、体部ミガキ。	(内外)5YR3/1 オリーブ黒 小礫多量に含む 焼成:良好	ほぼ完形 (口辺部欠) No.4
4 土師器 坪	□ 12.0 高 5.1	外面は口縁部ヨコナデ後上半ミガキ、体部ヘラケズリ後ヘラナデ。上半に輪模み痕が残る。底部ヘラケズリ。内面は口縁部ヨコナデ、体部放射状ミガキ。	(外)6YR6/8 褐色 (内)5YR4/4 にぶい赤褐色 焼成:良好	完形 No.2
5 土師器 坪	□ 13.7 高 5.6	外面は口縁部以外全体的に摩滅している。口縁部一頸部ヨコナデ、体部ヘラナデ。輪模み痕が残る。底部ヘラケズリ。内面は口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ後一部指オサエによる整形。底部ミガキ(うっすら残る程度) 外面スス付着。	(内外)7.5YR6/6 褐色 小礫含む 焼成:良好	完形 No.3
6 土師器 坪	□ 14.4 高 4.7	外面は口縁部ヘラナデ、体部ナデ後に粗いミガキ、体部下半一底部ヘラケズリ。内面は口縁部ナデ後にミガキ、底部一腰部に放射状のミガキ。	(口縁部)体部上半2.5YR5/6明赤褐色 底部10YR7/4にぶい黄褐色 (内)2.5YR5/6 明赤褐色 焼成:良好	完形 No.6
7 土師器 坪	□ (13.8) 高[3.9]	外面は口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面は口縁部ヨコナデ後ミガキ、体部ナデ後ミガキ。	(内外)2.5YR5/6 明赤褐色 密着 焼成:良好	口縁部一腰部 破片
8 土師器 坪	□ (13.0) 高[3.1]	外面は口縁部ヨコナデ後ミガキ、体部ナデ。内面は口縁部ヨコナデ後ミガキ、体部放射状ミガキ。	(内外)2.5YR5/6 明赤褐色 密着 焼成:良好	口縁部一腰部 破片
9 土師器 高坪	高[11.7]	外面は脚部と坪部の境に縦方向のナデ、裾部に斜一横方向のナデを施した後、脚部縦方向のミガキ。内面は坪部底面にミガキ。脚部に2段の横方向のナデの後、縦方向にナデ。裾部は横方向のナデの後、斜一縦方向のナデ。	(内外)5YR6/6 褐色 赤色細粒多量に含む 焼成:良好	30%(坪部 裾部欠) No.1
10 土師器 鉢	□ (15.4) 高[8.0]	内外面とも口縁部ヨコナデ、体部ナデ。外面に赤変、黒変。内面に赤変有り。	(外)10YR6/4 にぶい黄褐色 (内)10YR7/4 にぶい黄褐色 小礫、砂粒含む 焼成:良好	口縁部1/6残 体部1/5残 底部完欠
11 土師器 甕	□ (24.4) 高[10.4]	外面は粗いつくり。口縁部一胴部ナデ。内面は口縁部一胴部ナデ。	(外)10YR7/4 にぶい黄褐色 (内)10YR7/4 にぶい黄褐色 小礫、砂粒多量に含む 焼成:良好	口縁部1/5破片 No.7

るが、記録が確認できず不明である。他の遺構についても、現時点で調査の記録(図面類・記録のメモ類等)が確認できないことから、遺構の形態把握・出土状態のチェックをなしえず、極めて不十分な報告とならざるをえない。遺跡の様相把握には問題を残すが、確認され次第報告することとした。

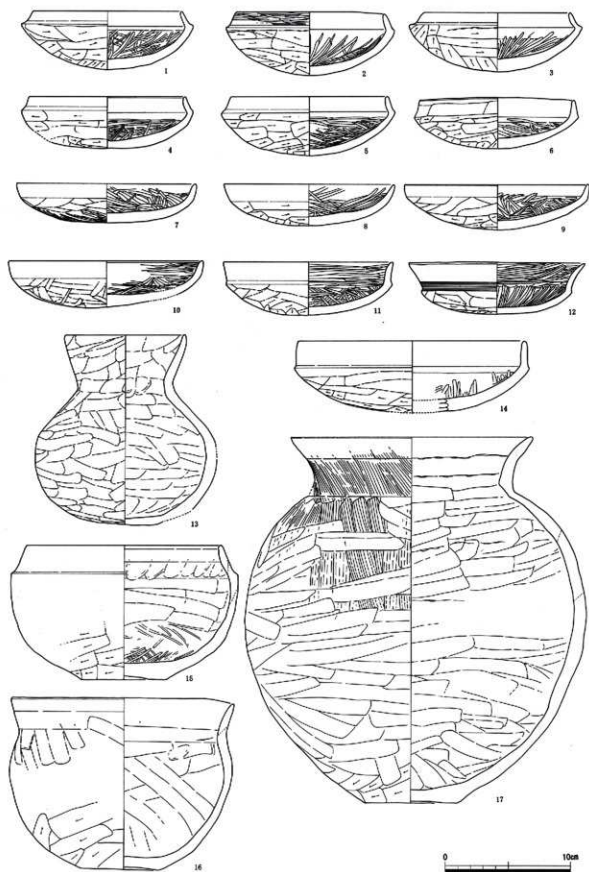
(2) 遺構と遺物

SIO1:T6で確認された住居跡で、トレンチを拡張して方形プランをとらえている。北側にカマドを備える住居跡で、床面・壁ともローム面のようなものである。遺物は土器器等多数出土した。図示した以外では土器器表5点、高坪2点、土師器小破片約30点が認められる。

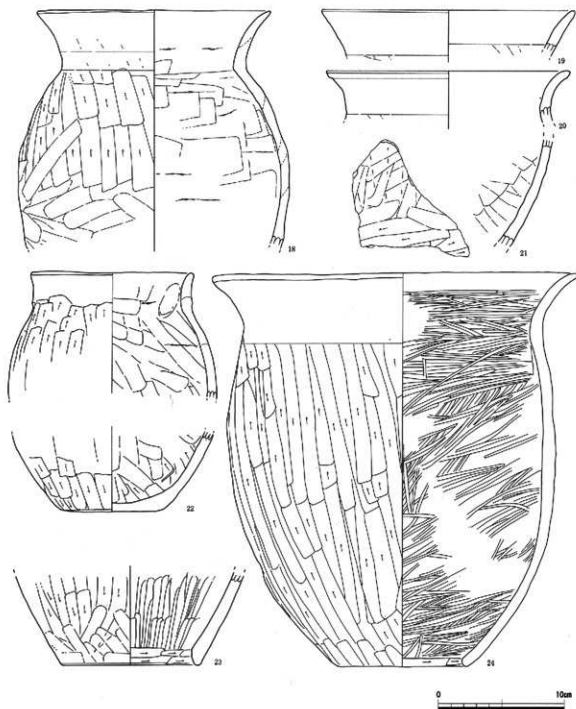
SIO2:T7で確認された住居跡で、東側の壁は不明だがほぼ方形のプランを呈する。北側にカマドを備え



木村古墳群 SIO2

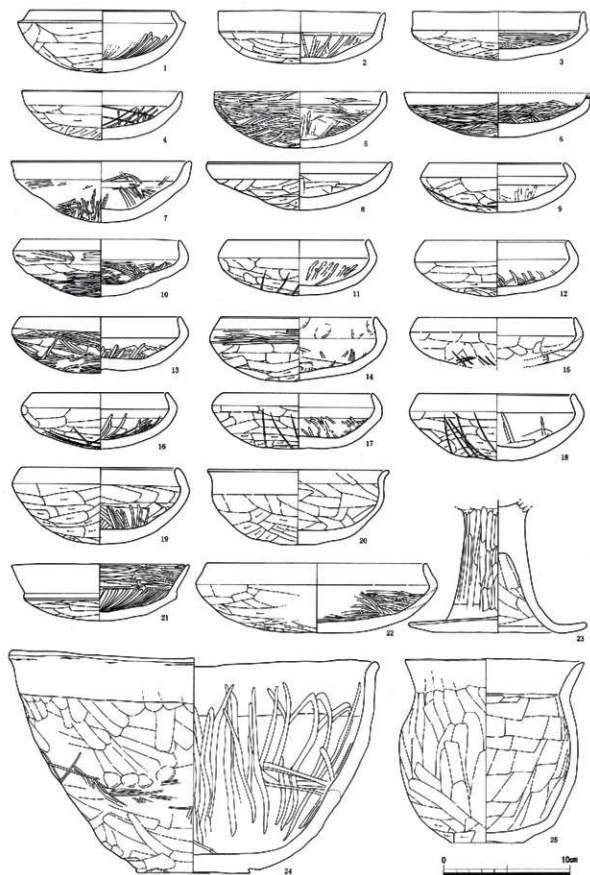


第5図 S103出土遺物(1)

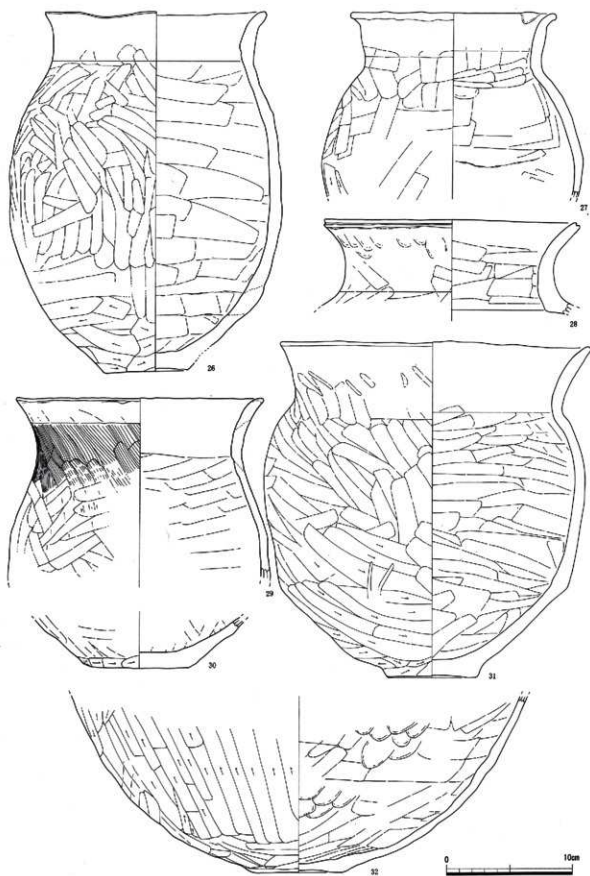


第6図 S103出土遺物(2)

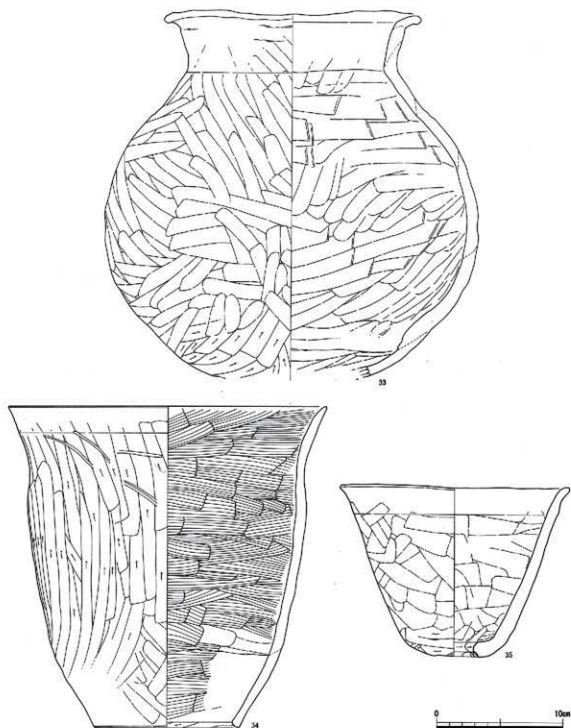
る他、南東側・北東コーナーに土坑がある。南東側の穴がやや深く、貯蔵穴と推定される。この穴より完形の土師器坏数点が出土している。床面・壁ともローム面のように、確認面から床面の深さはS101より浅いようである。遺物は土師器等多数出土した。図示した以外では土師器の甕1点、小破片4点が認められている。



第7図 SIO4出土遺物(1)



第8図 S104出土遺物(2)



第9図 S104出土遺物(3)

S103:T9で確認された住居跡で、方形のプランが確認されているようだが、記録がほとんど無くはつきりしない。床面・カマド・貯蔵穴・柱穴などの状態も不明である。遺物は土師器等多数の出土が認められている。図示した以外では土師器の坏破片9点、斐破片15点、編物石5点がある(写真図版九)。また炭化物がビニール袋で6袋分ある。

第4表 SIO3出土遺物観察表

():推定値 [] :残存値

番号 種類 器種	大きさ (cm/g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または原料)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 杯	口 11.8 高 4.6	外面は底部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ(光沢有り)。内面は口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。内外面黒底有り。	(外) 7.5YR5/3 にぶい褐 (内) 7.5YR5/3 にぶい褐 砂粒、雲母含む 焼成: 良好	完形 No.26
2 土師器 杯	口 11.8 高 5.0	外面は口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ。内面は口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ(概ね放射状)。内外面にも赤変、外面にスス付着。	(外) 10YR6/3 にぶい黄褐色 (内) 2.5YR5/6 明赤褐 小礫、砂粒含む 焼成: 良好	口縁部一部欠 No.2
3 土師器 杯	口 11.8 高 4.7	外面は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面は口縁部、底部上半ヨコナデ後放射状ヘラミガキ。外面に黒色の付着物有り。内面に赤変有り。	(外) 10YR6/4 にぶい黄褐色→10YR4/2 灰褐 (内) 5YR6/6 橙 砂粒含む 焼成: 良好	完形 No.23
4 土師器 杯	口 12.4 高 4.1	外面は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面は口縁部一部上半ヨコナデ後ヘラミガキ。内外面ともスス付着。	(外) 10YR5/4 にぶい黄褐色 (内) 10YR2/1 黒 小礫、砂粒含む 焼成: 良好	口縁部一部欠 No.24
5 土師器 杯	口 12.6 高 4.7	外面は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面は口縁部ヨコナデ、底部ミガキ。内面に剥離有り。外面に黒底有り。内外面とも一部にスス付着。	(外) 10YR5/3 にぶい黄褐色 (内) 7.5YR4/3 褐 小礫含む 焼成: 良好	口縁部1/2 底部一部欠 No.22
6 土師器 杯	口 11.4 高 4.1	外面は口縁部ヘラナデ、底部ケズリ後一部ナデ。内面は口縁部一部上半ヨコナデ後底部にミガキ。	(外) 2.5YR5/6明赤褐→2.5YR4/6赤褐 (内) 2.5YR4/3 にぶい赤褐 小礫、砂粒含む 焼成: 良好	口縁部わずかに欠 No.25
7 土師器 杯	口 14.2 高 3.1	外面は底部ヘラケズリ、底部上半ナデ、口縁部ヨコナデ。内面は口縁部ヨコナデ後ミガキ。内外面ともに黒底有り。	(外) 5YR5/4 にぶい赤褐 (内) 5YR5/4 にぶい赤褐 小礫少量含む 焼成: 良好	口縁部一部1/4 程度欠 No.28
8 土師器 杯	口 13.4 高 3.3	外面は底部ヘラケズリ後に口縁部ヨコナデ。内面は口縁部ヨコナデ後に口縁部一部ヘラミガキ。内外面ともに黒底有り。	(外) 7.5YR4/2 灰褐 (内) 7.5YR5/4 にぶい褐 砂粒、白色細粒多量に含む 焼成: 良好	ほぼ完形 口縁部一部欠 No.28
9 土師器 高杯	口 14.8 高 3.5	外面の底部一部下半ヘラケズリ、底部上半ナデ、口縁部ヨコナデ。内面は口縁部ヨコナデ後ミガキ。外面にスス付着。	(外) 2.5YR4/6 赤褐 (内) 5YR5/4 にぶい黄褐色 砂粒、雲母含む 焼成: 良好	ほぼ完形 口縁部一部欠 No.27
10 土師器 杯	口 15.4 高 3.6	外面は底部ヘラケズリ後にナデ(ヘラケズリの跡がほとんど見られず)。その後、底部を中心にミガキを施す。口縁部ヨコナデ。内面は口縁部ヨコナデ後に前面ミガキ。内外面とも黒底有り。	(外) 5YR3/3 暗赤褐 (内) 5YR4/3 にぶい赤褐 鉄滓 焼成: 良好	口縁部、底部半分 以下欠 No.32
11 土師器 杯	口 13.6 高 4.2	外面の底部一部中部ヘラケズリ、底部上半ナデ、口縁部ヨコナデ前面剥離有り。内面は底部ヘラナデ、口縁部ヨコナデ後全面ミガキ。内外面ともスス付着。	(外) 7.5YR4/1 褐灰 (内) 7.5YR4/2 灰褐 小礫少量含む 焼成: 良好	ほぼ完形 口縁部、底部欠 No.3
12 土師器 杯	口 14.0 高 4.1	外面は光沢のあるヨコナデ後半にハケ、底部ナデ、底部ケズリ。内面は口縁部に横一斜方向のミガキ後、底部放射状のミガキ。外部底面に黒底。	(外) 2.5YR4/6 赤褐 (内) 2.5YR4/8 赤褐 鉄滓 焼成: 良好	口縁部、底部の 一部欠
13 土師器 埴	口 9.6 高 5.0	外面は丁寧なナデ、頸部と底部の境を後からナデている。光沢があるが、はつきりとしたミガキは確認できず。内面は口縁部一部ナデ、頸部と底部の境に指オケ。それより下半はヘラナデ、口縁部は外面と比べ作りが粗い。外面は赤変、底面に黒底有り。	(外) 2.5YR5/8 明赤褐 (内) 2.5YR6/6 橙 砂粒含む 焼成: やや不良	完形 ただし外面、底部 剥離有り No.31
14 土師器 鉢	口(18.2) 高(15.6)	外面は底部一部下半ヘラケズリ、底部上半ヘラナデ、口縁部ヨコナデ。内面は口縁部ヨコナデ、口縁部一部ナデ後ヘラミガキ。内外面ともスス付着。	(外) 2.5YR4/4 にぶい赤褐 (内) 2.5YR3/3 暗赤褐 鉄滓 焼成: 良好	底部半 口縁部5/6欠 No.5
15 土師器 鉢	口(13.4) 高 6.8 底 10.6	外面の口縁部はヨコナデ、底部は表面の荒れが激しく調整不明瞭。ナデか。下半ヘラケズリ。底面は凹状にヘラケズリ。内面は頸部を指オケにより横い腹曲をつくり、口縁部をヨコナデ、底部ヘラナデ、底部付近ヘラミガキ。外面は放射状赤変、一部スス付着。内面は底部以外スス付着。	(外) 5YR5/6 明赤褐 (内) 7.5YR5/2 灰褐 1cm程度の礫、砂粒多量に含む 焼成: やや不良	底部完形 口縁部 1/3欠 No.9
16 土師器 鉢	口(17.6) 高 13.5 底 13.5	外面の口縁部は縦線より調整不明瞭。底部上半頸部縦方向のナデ。その後口縁部ヨコナデ(一部ヨコナデ後ナデ有り)。底部は斜めのミガキ後、底部中位はナデか。内面は口縁部ヨコナデ、底部一部斜方向のヘラナデ、頸部下半横方向のヘラナデ。内外面ともスス付着。	(外) 2.5YR5/6 明赤褐 (内) 10YR6/3 にぶい黄褐色 5-10mmの小礫、砂粒含む 焼成: 良好	口縁部、底部の 一部欠
17 土師器 鉢	口 19.3 高 28.9 底 7.6	外面の頸部は斜め方向のハケ、頸部上半は縦方向のハケ後ヘラナデ。口縁部一部はヨコナデを施すが粗くハケ残る。底部斜めのヘラケズリ。内面は口縁部に横い腹曲をつくり、頸部は全面にヘラナデ、底部付近に部分的なヘラミガキ残る。外面の口縁部にスス付着。頸部に黒底、赤変有り。	(外) 10YR6/4 にぶい黄褐色 (内) 10YR5/2 灰黄褐 小礫、砂粒含む 焼成: 良好	頸部等一部欠 ほぼ完形 No.4
18 土師器 甕	口 18.4 高(19.8)	外面の口縁部、頸部にヨコナデ。胴部縦方向のヘラケズリ。一部その後ナデ(特に胴部中位)。内面は口縁部ヨコナデ胴部縦方向のヘラナデ。内外面に輪模が残る。内外面、口縁部、胴部にスス付着。	(外) 10YR6/3 にぶい黄褐色 (内) 10YR5/3 にぶい黄褐色 小礫、砂粒含む 焼成: 良好	50% 底、胴部半欠 No.20
19 土師器 甕	口(10.0) 高(13.6)	外面は口縁部ヨコナデ、胴部上半ナデ。内面は口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	(内外) 10YR6/4 にぶい黄褐色 雲母、砂粒含む 焼成: 良好	口縁部1/10破片 No.21

20 土師器 甕	口(9.6) 高(4.0)	外面は胴部上半ナデ、口縁部一頭部ヨコナデ。内面はヨコナデ。底面有り。	(外)10YR4/1 褐色 (内)10YR5/3 にぶい黄褐色 小礫、砂粒含む 焼成：良好	口縁部1/10破片
21 土師器 甕	高[9.2]	外面の胴部下半に横方向のケズリ。胴部中に縦方向のケズリ後ナデ。内面はナデ(ヘラナデ含む)。外面に黒炭有り。	(外)10YR7/3 にぶい黄褐色 (内)10YR5/2 灰黄褐色 小礫、砂粒含む 焼成：良好	胴部中一下位破片
22 土師器 小型甕	口 12.8 (底 16.0) 底 8.0	底部と胴部は接合せず。外面の表面は摩滅が激しい。口縁部ヨコナデか。胴部一底部に縦方向のヘラケズリ。内面は口縁部ヨコナデ後に横方向のヘラナデ。胴部上半一中部は斜方向のヘラナデ(一部横方向)。底部はヘラケズリ後ヘラナデ。外面の底部以外はスス付着。	(外)2.5YR6/6 褐色 (内)7.5YR7/4 にぶい黄褐色 小礫、砂粒、赤色顔料、雲母を含む 焼成：良好	胴部欠 No6 No5
23 土師器 甕	口(10.8) 高[7.1]	外面の胴部下半は上から下のヘラケズリ後ナデ。内面は胴部下半ミガキ、底部横方向のケズリ後ナデ。外面に黒炭有り。	(外)5YR6/6 褐色 (内)5YR6/4 にぶい黄褐色 砂粒少量含む 焼成：良好	胴部下半一底部 1/8程度の破片
24 土師器 甕	口 29.1 高 31.1 底 10.0	外面は口縁部一頭部ヨコナデ、胴部下横ナデ、胴部縦方向のヘラケズリ。底部ヘラケズリ。内面は口縁部ヨコナデ、胴部横方向のヘラナデ後、胴部全体に斜めから横のヘラミガキ。内外面ともスス付着。	(外)10YR7/4 にぶい黄褐色 (内)2.5YR6/3 にぶい黄褐色 小礫、多量に含む 焼成：良好	口縁部一頭部 一部欠 胴部一部欠

S104:T13 で確認された住居跡で、今回報告の住居跡の中ではやや離れた南西側に位置する。遺構確認状態の写真からは黒色土の方形プランが明瞭に認められるが(P18 左上の写真)、掘り下げ後の記録が無く、形態等不詳である。遺物は土師器の坏をはじめとして多数が出土している。図示した以外では土師器の甕2点、小破片30点程度が認められる。

最後に遺構外の出土遺物について示す。縄紋・弥生時代の遺物について第10図に、古墳時代の遺物について第11図に示した。いずれも出土位置は不明である。

縄紋時代の遺物は28点出土しており、すべてを図示した。中期中葉～後期前半の遺物が認められている。1～8が中期で加曽利EⅠ式及び前後のものである。6、7は若干新しく加曽利EⅡ式か。8は浅鉢。9～20が後期の有文土器。称名寺式及び加曽利E系の土器で占められる。18は薄手で繊細な縄紋が2本沈線間に施されるもので、異質な感がある。異系統の可能性もあろうか。19、20は堀之内Ⅰ式期と推定されるもの。21～28は縄紋のみ施されるもので、詳細な時期は特定できないが、加曽利E式または称名寺式と推定される。29、30は弥生土器で恐らく後期の土器であろう。

また遺構外からは古墳時代のものもあり、埴輪片を図示したが、これ以外では土師器の小破片10点と埴輪片1点の出土が確認されている。埴輪片については、古墳周溝確認調査での出土とも推定されるが、現時点では記録が無く不明である。



木村古墳群S102



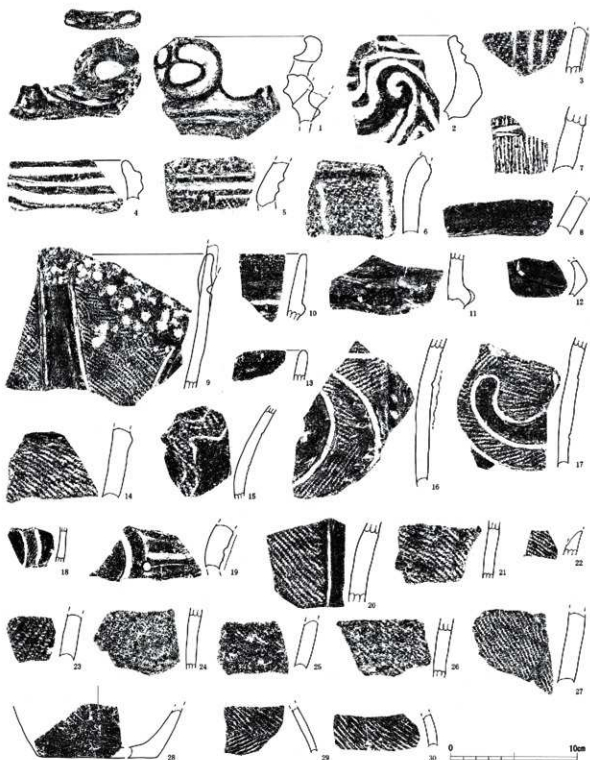
S102貯蔵穴遺物出土状況

第5表 SIO4出土遺物観察表

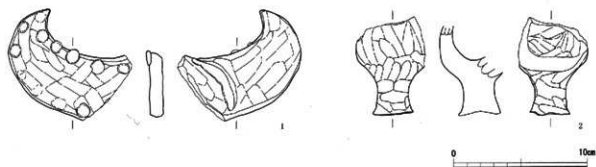
() : 推定値 () : 残存数

番号 種類 器	大きさ (cm: g)	特 徴	色 調 胎土・装成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 杯	口 11.4 高 4.9	外面は底部ヘラケズリ、上半ナデ、口縁部ヨコナデ。内面は器面割離有り。口縁部一部上半ヨコナデ後、底部に放射状のヘラミガキ。内外面黒底有り。	(外) 2.5YR4/3 に近い赤褐色 (内) 2.5YR3/1 増赤沢 砂粒少量含む 焼成: 良好	ほぼ完全 器面一部欠 No.11
2 土師器 杯	口 13.1 高 4.1	外面は底部一部中位ヘラケズリ、体部上位ナデ、口縁部ヨコナデ。口縁部と体部の境に軽微なヘラミガキ。器面割離有り。内外面ともスス付着。	(外) 7.5YR5/3 に近い黄褐色 (内) 5YR7/6 褐色 緑青 焼成: 良好	完形 No.16
3 土師器 杯	口 13.6 高 3.9	外面は底部一部上半ヘラケズリ後体部上半ナデ、口縁部ヨコナデ。内面はヨコナデ、体部ヘラミガキ。内外面ともスス付着。	(外) 2.5YR5/4 に近い赤褐色 (内) 2.5YR5/6 明赤褐色 小礫少量含む 焼成: 良好	完形 No.28
4 土師器 杯	口 12.6 高 3.9	外面は底部一部上半ヘラケズリ後体部上半ナデ、口縁部ヨコナデ。同方向に器面を3本施す。外面は体部ヘラナデ、口縁部ヨコナデ後、ヘラミガキを施し器面。内外面口縁部にスス付着。	(外) 2.5Y5/3 暗灰黄 (内) 2.5YR5/2 灰黄 小礫少量含む 焼成: 良好	ほぼ完全 口縁部一部欠
5 土師器 杯	口 13.6 高 4.5	外面はナゲカケズリ後に全面ミガキが施されており、他の器形像は不明瞭。ミガキの前段部の指オサエが一部脱落。内面は口縁部ヨコナデ後ミガキ。底状割離有り。内外面とも黒底有り。	(外) 5YR5/3 に近い赤褐色 (内) 5YR4/4 に近い赤褐色 緑青 焼成: 良好	口縁部一部欠 No.22
6 土師器 杯	口 14.8 高 3.5	外面は体部ヘラケズリ後に口縁部ヨコナデ後、体部にヘラミガキ。底状割離有り。内面は体部ナデ、口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。底状割離有り。内外面とも黒底有り。	(外) 7.5YR3/2 黒褐色 (内) 5YR3/2 暗赤褐色 緑青 焼成: 良好	口唇部半分以上欠 No.14
7 土師器 杯	口 14.2 高 4.9	内外面ともに器面に割離有り。外面は体部ヘラケズリ後ミガキ、口縁部ヨコナデ。内面ミガキが体部にうっすら残る。口縁部ヨコナデ。内外面ともに黒底有り。	(外) 10YR4/3 に近い黄褐色 (内) 10YR4/3 に近い黄褐色 小礫少量含む 焼成: 良好	ほぼ完全 口縁部一部欠
8 土師器 杯	口 14.6 高 3.8	外面は底部一部中位ヘラケズリ、体部上位ナデ、口縁部ヨコナデ。粗面つくりで彫が歪む。内面は体部ヘラナデ、口縁部ヨコナデ。外面の口縁部一部に黒底有り。内面の口縁部一部上半黒底有り。	(外) 10YR6/4 に近い黄褐色 (内) 10YR6/4 に近い黄褐色 小礫少量含む 焼成: 良好	ほぼ完全 口縁部一部欠
9 土師器 高杯	口 10.8 高 3.9	外面の底部一部下半ヘラケズリ、体部上半ナデ、口縁部ヨコナデ。縁刻5本、6本が同方向に施される。黄褐色の粗い。内面は器面割離有り。器面外面は黒い。体部わずかにヘラミガキが施される。口縁部ヨコナデ。外面は全体的にスス付着。内面は口縁部にスス付着。	(外) 10YR7/4 に近い黄褐色 (内) 10YR6/3 に近い黄褐色 小礫少量含む 焼成: 良好	完形 No.33
10 土師器 杯	口 12.6 高 4.6	粗いつくり。体部下半ケズリの後にナデナデ。体部上半ナデ、口縁部ヨコナデ後にヘラミガキ。縁刻5本ある。内面はほぼ完全。他はほぼ平行。内面は体部下半ヘラナデ、口縁部一部ヨコナデ後ヘラミガキ。外面にスス付着。	(外) 10YR6/3 に近い黄褐色 (内) 10YR5/2 灰黄褐色 小礫少量含む 焼成: 良好	完形 No.15
11 土師器 杯	口 11.4 高 4.4	外面は底部一部下半ヘラケズリ、体部上半ナデ、口縁部ヨコナデ。底部に縁刻5本の斜刻(同方向)。内面は底状割離にわずかな黄褐色不明瞭(特に底部)。口縁部一部中位ヨコナデ後放射状ヘラミガキ。外面に口縁部を除き黒底。内面にわずかに黒底有り。	(外) 2.5Y5/2 暗灰黄 (内) 2.5YR5/2 灰黄 小礫含む 焼成: 良好	ほぼ半分欠 No.23
12 土師器 杯	口 14.0 高 4.1	外面は底部一部下半ヘラケズリ、体部中上ナデ、口縁部ヨコナデ。内面は体部ナデ、口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。内外面にスス付着。	(外) 10YR6/2 灰黄褐色 (内) 10YR6/2 灰黄褐色 砂粒、小礫含む 焼成: 良好	完形 No.9
13 土師器 杯	口 12.8 高 4.5	外面は体部下半一部ヘラケズリ、体部上半ヘラナデ、口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。縁刻が4本、ほぼ平行に施される。内面はヘラナデ、口縁部ヨコナデ後、不定方向のヘラミガキ。内外面とも黒底有り。	(外) 10YR6/4 に近い黄褐色 (内) 2.5YR5/2 灰黄 小礫少量含む 焼成: 良好	完形 No.30
14 土師器 杯	口 12.4 高 5.1	外面は底部ヘラケズリ、体部中位ナデ、体部上半ヘラミガキ、口縁部ヨコナデ。縁刻7本。内面は底状割離の黄褐色不明瞭。体部ヘラナデ後ミガキ、口縁部指オサエを器面ヨコナデ。内外面大部分に黒底有り。	(外) 10YR6/3 に近い黄褐色 (内) 10YR6/3 に近い黄褐色 小礫、砂粒少量含む 焼成: 良好	完形 No.12
15 土師器 杯	口 12.6 高 3.7	外面は口縁部ヨコナデ、体部ナデ。縁刻6本。内面は口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	(外) 10YR4/1 褐灰 (内) 10YR6/1 褐灰 砂粒少量含む 焼成: 良好	口縁部一部下半1/6程度
16 土師器 杯	口 10.8 高 4.5	外面は底部一部下半ヘラケズリ、体部上半ヘラナデ、口縁部ヨコナデ。底部に縁刻が5本施され、4本が中心部で交差する。内面は口縁部一部中位ヨコナデ、体部一部中位ヘラナデ後にほぼ放射状のヘラミガキ。外面に黒底有り。	(外) 2.5Y5/2 暗灰黄 (内) 2.5Y5/2 暗灰黄 砂粒少量含む 焼成: 良好	完形 No.13
17 土師器 杯	口 12.0 高 4.4	外面は底部一部中位ヘラケズリ、体部上半ナデ、口縁部ヨコナデ。縁刻3本。内面は口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。底部に縁刻が7本、平行に施される。内外面ともほぼ全体に黒底有り。	(外) 10YR5/3 に近い黄褐色 (内) 10YR4/3 に近い黄褐色 小礫含む 焼成: 良好	完形 No.9
18 土師器 杯	口 12.6 高 5.3	外面は底部一部中位ヘラケズリ、体部上位ナデ、口縁部ヨコナデ。縁刻1本。内面は器面割離。体部ヘラナデ後ヘラミガキ、口縁部ヨコナデ。縁刻2本。外面の底部に黒底有り。	(外) 10YR4/2 灰黄褐色 (内) 10YR4/3 に近い黄褐色 小礫含む 焼成: 良好	完形 No.6
19 土師器 杯	口 12.5 高 6.0	外面は体部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ。内面は体部一部ヘラナデ、ナゲ、口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。外面に黒底、赤底有り。内面に黒底有り。	(外) 10YR6/4 に近い黄褐色 (内) 7.5YR6/4 に近い黄褐色 小礫含む 焼成: 良好	ほぼ完全 口縁部一部欠 No.7

20 土師 土師 土師	口(14.4) 高 5.9	外面は底部一部中位ヘラズリ、体部上ナゲ、口縁部ヨコナデ。内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナゲ。外面に黒底有り。	(外)2.5YR6/3 に近い黄 (内)7.5YR2/1 黒 小礫多量を含む 焼成：良好	口縁部一部下半分 以上欠 №3
21 土師 土師 土師	口 14.0 高 4.5	外面は体部ヘラナゲ。体部と口縁部の境に一糸の沈着有り。口縁部ヨコナデ。内面は側面にヘラミガキ、体部は放射状、口縁部は横位のミガキ。内外面とも黒底有り。	(外)2.5YR5/6 明赤褐 (内)2.5YR5/6 明赤褐 緻密 焼成：良好	口縁部一部欠 №21
22 土師 土師 土師	口(17.6) 高 5.5	外面は体部上ナゲ、体部中位一部ヘラズリ、口縁部ヨコナデ。内面は器面割離有り。体部ナゲ、口縁部一部ヨコナデ後、体部ヘラミガキ。外面に赤底有り。内外面ともスス付着。	(外)10YR6/4 に近い黄緑 (内)2.5YR6/2 灰黄 白色細粒、雲母、小礫含む 焼成：良好	口縁部3/4欠 №2
23 土師 土師 土師	口 14.2 高(10.4)	裾部が反る器形。外面の脚部は縦方向の幅広いミガキ。脚部下端から裾部ヨコナデ。内面は縦き取り後ナゲ、裾付近ヨコナデ。	(内外)5YR6/8 橙 緻密 焼成：良好	底部一部欠 裾部一部欠
24 土師 土師 土師	口 19.2 高 17.7 底 9.0	成形粗い。外面の口縁部は縦一斜方向のナゲ後ヨコナデ。体部斜方向のナゲ、体部中半に指サエ後ヘラミガキ、体部下ナゲ。底面と体部下半との境を明確にするために一部カキトリ有り。内面はヘラナゲ後、口縁部ヨコナデ、縦方向のヘラミガキ。内外面とも黒底有り。	(内外)10YR7/4 黄緑 小礫、砂粒少量含む 焼成：良好	ほぼ完形 口縁部、底部の 一部欠 №27
25 土師 土師 土師	口 14.2 高 14.6 底 5.6	外面は口縁部ヨコナデ、頸部一部縦方向ヘラナゲ(下半は斜め)。胴部下端横方向ナゲ。内面は口縁部ヨコナデ、胴部横方向ヘラナゲ、下半一部縦方向ヘラナゲナデ。内外面ともスス付着。	(外)2.5YR6/2 灰黄-10YR6/4 に近い 黄緑 (内)5Y4/1 灰 黄、砂粒含む 焼成：良好	ほぼ完形 口縁部少し欠 №31
26 土師 土師 土師	口 17.5 高 29.6 底 6.7	器面荒れ。外面は胴部上から中半ヘラナゲ、下半ナゲ、口縁部ヨコナデ。底面は一定方向のヘラズリ。内面は口縁部粗いヨコナデ、胴部横のヘラナゲ。外面は胴部上半一部底部にスス付着。内面は底部にスス付着。	(外)2.5YR6/2 灰黄 (内)2.5Y5/3 黄褐 礫多量を含む 焼成：良好	胴部下半 中位一部欠 ほぼ完形 №28
27 土師 土師 土師	口(10.4) 高(14.6)	外面は口縁部ヘラナゲ(横方向)、頸部ナゲともに粗く、胴部上半ヘラナゲ。中半縦方向のナゲ、縦き取り後、内面は口縁部ヨコナデ、胴部下半ヘラナゲ後、縁やかなナゲ。胴部ヘラナゲ、輪縁み底を整形する縁やかなナゲが見られる。底状割離、底面割離。口縁部粘土塊底有り。	(外)7.5YR6/6 橙 (内)10YR6/2 灰黄 1cm程度の小礫多量を含む 焼成：良好	40% 底部欠 №4
28 土師 土師 土師	口 20.0 高(17.4)	外面は口縁部一部ヨコナデ後ヘラナゲ、底部形段縁の指圧痕がある。内面は口縁部に一定方向のヘラミガキ、ミガキが施される部分がある。外面に赤底面所有り、内面はススが全体的に付着。	(外)7.5YR6/4 に近い橙 (内)7.5YR4/3 橙 砂粒、赤色細粒含む 焼成：良好	口縁部一部欠 №25
29 土師 土師 土師	口(19.4) 高(14.5)	つくりが粗い。外面は口縁部ヨコナデ、頸部一部縦方向ヘラナゲ、胴部ナゲ。内面は割離が激しく調整不明瞭。口縁部一部ナゲ後ヨコナデ、胴部ナゲ。外面に黒底有り。	(外)10YR6/3 に近い黄緑 (内)2.5Y4/1 黄灰 小礫、砂粒、白色細粒多量含む 焼成：良好	口縁部1/4弱 胴部1/8弱 №5
30 土師 土師 土師	口(4.0) 高(4.1)	底状割離が顕著で調整不明瞭。外面は胴部上半ナゲ、底面周縁ナゲ。内面は底状割離の調整不明瞭、ナゲか、外面は黒底有り。	(外)10YR6/4 に近い黄褐 (内)10YR7/3 に近い黄褐 小礫、砂粒、赤色細粒多量含む 焼成：良好	底部完 胴部下半1/6弱 他同一個体有り №25
31 土師 土師 土師	口 24.7 高 26.5 底 7.2	外面は口縁部一部ヨコナデ後、頸部の一部に縦方向のヘラナゲと細いヘラナゲ。胴部中位、縦一斜方向のヘラナゲ、中半に斜方向、下半に斜一横方向のヘラズリ。内面は口縁部ヨコナデ、胴部横方向のヘラナゲ。底状割離が著しい。	(外)5YR6/6 橙 一部10YR6/4に 近い黄緑 (内)10YR6/4 に近い黄緑 1cm程度の小礫多量を含む 焼成：良好	完形 №26
32 土師 土師 土師	口 7.0 高 14.0	外面は底部一部下半横方向のナゲ、胴部下半中位したから上へのヘラズリ。底面一定方向のヘラズリ。内面は割離のため調整不明瞭。ヘラナゲ、一部指サエ、ナゲ含む。外面に黒底有り、内外面ともスス付着。	(外)10YR6/3 に近い黄緑 (内)10YR7/3 に近い黄緑 砂粒少量含む 焼成：良好	底部一部胴部の中 のみ №26
33 土師 土師 土師	口(20.4) 高(29.1)	粗いつくり。外面は器面磨耗のため調整不明瞭。胴部下半ナゲ、胴部下半一部ナゲ、口縁部ヨコナデ。内面は胴部ヘラナゲ、ナゲ。胴部一部口縁部ヨコナデ。外面は胴部中心に黒底有り。	(外)10YR6/2 灰黄褐 (内)10YR6/2 灰黄褐 1mm程度の小礫、砂粒含む 焼成：良好	底部金 胴部中半 2/3 口縁部から 胴部上半欠 №20
34 土師 土師 土師	口 25.2 高 25.3 底 10.4	外面は胴部下半斜方向のナゲ、胴部一部縦方向のヘラズリ、口縁部ヨコナデ。胴部上半にわずかに斜方向のヘラミガキ。内面は横方向のナゲ、口縁部はヨコナデ、胴部下半の粘土塊縁み底付近にナゲが残る。底部ヘラズリ。外面は全体的にスス付着し、内面は口縁部にスス付着。	(外)10YR6/4 に近い黄褐 (内)10YR7/4 に近い黄褐 小礫、砂粒少量含む 焼成：良好	ほぼ半分欠 №5
35 土師 土師 土師	口 18.3 高 13.5	外面は底部周縁ヘラズリ、胴部ナゲ、口縁部ヨコナデ。内面は横方向のヘラナゲ、口縁部ヨコナデ。底面は横方向のヘラズリ。指き取り痕が認められる。内外面ともスス付着。	(外)10YR7/4 に近い黄緑 (内)10YR7/4 に近い黄緑 小礫、白色細粒少量含む 焼成：良好	口縁部1/4と胴部 の一部欠 №1 №5



第10図 遺構外出土遺物 (1 縄紋・弥生時代)



第11図 遺構外出土遺物(2 古墳時代)

第6表 遺構外古墳時代出土遺物観察表

():推定値 []:残存値

番号 種類 器種	大きさ (cm・g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 埴輪 形象 馬	全長[9.2] 幅 4.8	鏡板の部分か。外面はナデ後、顔止め部分。小円板状に貼りつけ。鏡板部分のみ赤彩(一部残る程度)。内面はナデ後、粘土貼りつけ。	(外)赤彩2.5TR4/8 赤褐 それ以外5TR6/8 橙 (内)5TR6/8 橙 砂粒僅少含む 焼成:良好	破片
2 埴輪 形象 馬	全長[7.2]	翼珠あるいは翼繁の一部か。外面はナデ。赤彩一部に残る。内面は横きとり後ナデ。	(外)赤彩2.5TR4/4 に近い赤褐 それ以外5TR5/6 明赤褐 (内)5TR6/8 橙 砂粒 赤色細粒少量含む 焼成:良好	破片



木村古墳群S104



木村古墳群S102カマド



木村古墳群トレンチ調査状況



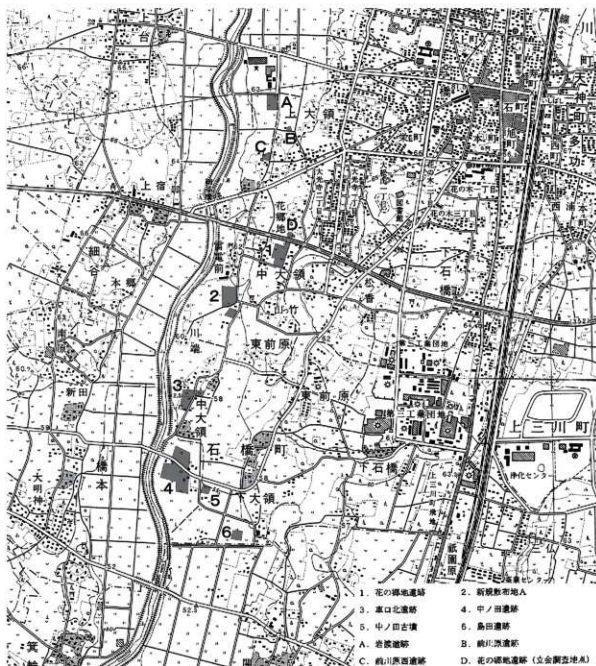
木村古墳群S101・02

第2節 石橋南部地区遺跡の概要

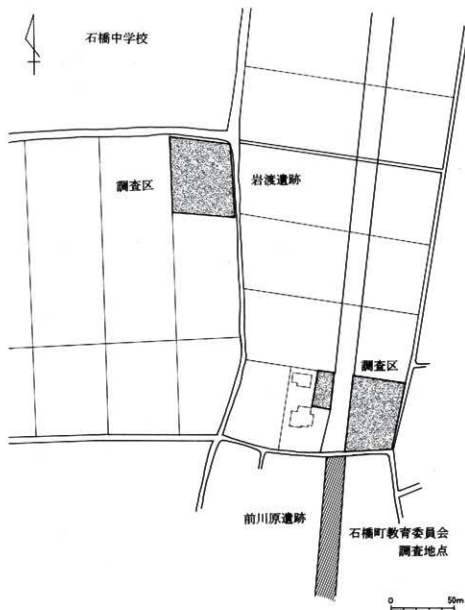
(1) 調査の概要

経緯と遺跡の概要

経営体育成基盤整備事業石橋南部地区は、旧石橋町の南側で、姿川左岸の沖積平野部分が当該区域となる。字名では、中大領・上大領などで、小字名では花郷地などが相当する。事業は129ha、平成16年度から20年度の事業として計画された。事業地は広範囲にわたり、南側は旧国分寺町との境近くまで、北端は国道352号線より北側まで、南北にやや長い。北側では旧石橋町市街地～西側の住宅地・工場などの近年の開発区域にもやや近い。基本的には沖積低地だが、現在の集落地などで、微高地が認められる。事業計画の協議をうけた平成15年度の文化財課による所在調査、旧石橋町の分布調査などから、事業地内には遺跡が点在することが明



第12図 石橋南部関連遺跡位置図



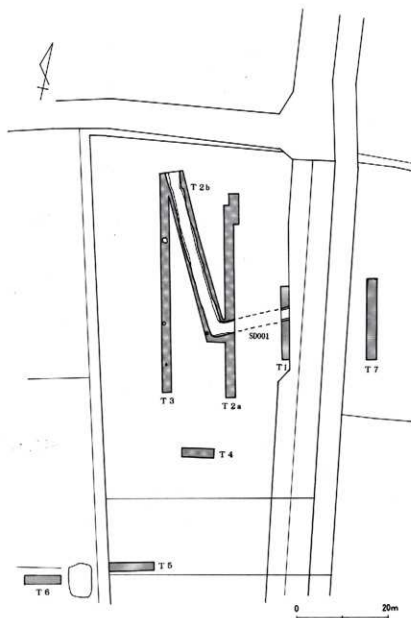
第13図 岩渡遺跡・前川原遺跡調査区

らかとされ、この取扱いについて、文化財課・農地整備課・下都賀農業振興事務所・石橋町で協議を進めていた。

また、平成17年度には、計画地内全体の遺構の有無・状況について調べる必要があることから、埋蔵文化財センターの受託事業として、広範囲の確認調査を行うこととなった。さらに、工事の進捗に伴い、平成17年度中に工事が予定される遺跡について、該当部分の確認調査及び、掘削が避けられない部分についての工事立会調査を県教育委員会文化財課が直接行うこととなった。

事業地周囲の遺跡・環境

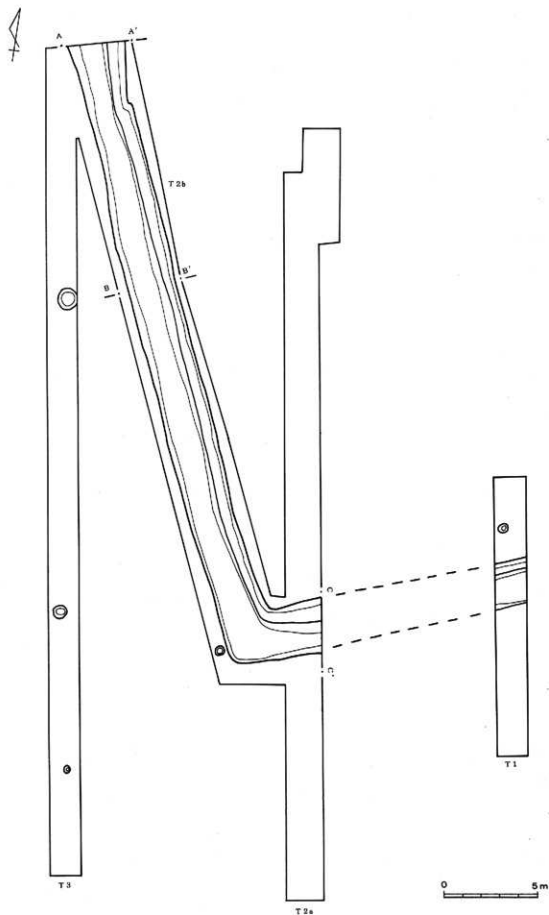
岩渡遺跡・前川原遺跡・花の郷地遺跡は、事業地内でも北側にある。花の郷地遺跡の東側0.4kmのところには、国道352号線建設に先立って調査された松香遺跡があるほか、道路建設などに伴って、旧石橋町教育委員会が前川原遺跡の調査を行っている。またより南側の、国道4号線・東北新幹線東側の位置には、自治医科大学周辺開発の遺跡群が、またその北側には多功南原遺跡などが位置している。姿川を越えた西側は、沖積低地の西側、



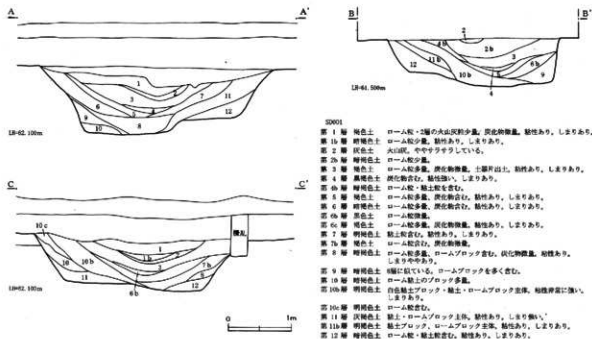
第14図 岩渡遺跡トレンチ配置図

壬生町の台地に至ると多くの遺跡が確認されているが、沖積低地内の遺跡分布・所在については明らかとされていない。なお事業地付近の古墳としては前川原遺跡の東側に上大領東原古墳（2基、消滅）、稲荷塚古墳、また岩渡遺跡の北側300mの位置（現孝謙天皇神社地）に弁財天塚古墳（消滅）があったとされる。比較的大きな古墳としては、旧石橋中学校部分に所在していた横塚古墳（前方後円墳、全長52m、消滅、岩渡遺跡の北東800m）、下石橋愛宕塚古墳（円墳、径50m、岩渡遺跡の東南東1700m）、また姿川を挟んだ位置となるが、星宮神社古墳（円墳、径50m、岩渡遺跡の南西約1km）などがある。前川原遺跡の東側大光寺西遺跡では耕作中出土の灰釉陶器長頸瓶が『石橋町史』に掲載されている。

今回報告で示す遺跡のうち、前川原遺跡（縄文、古墳～中世、集落跡県No.4263）、車口北遺跡（古墳～平安、散布地県No.5326）などは、『石橋町史』刊行時より周知となっていた埋蔵文化財包蔵地であるが、岩渡遺跡及び「新規散布地A」については、今回のこの事業にかかる所在調査・確認調査の過程で明らかとなったものである。



第15図 岩凌遺跡SDO1平面図



第16図 岩波遺跡S D O 1土層断面図

前川原遺跡の北側隣接地についても、周知の包蔵地範囲の外側部分であるが、ここで示す文化財課の工事立会調査によって、その範囲が北側へ広がることが明らかとなった。

センター確認調査で比較的多くの遺物が確認された車口北遺跡及び、文化財課調査の岩波遺跡、前川原遺跡、前川原西遺跡について、今回ここで報告する。

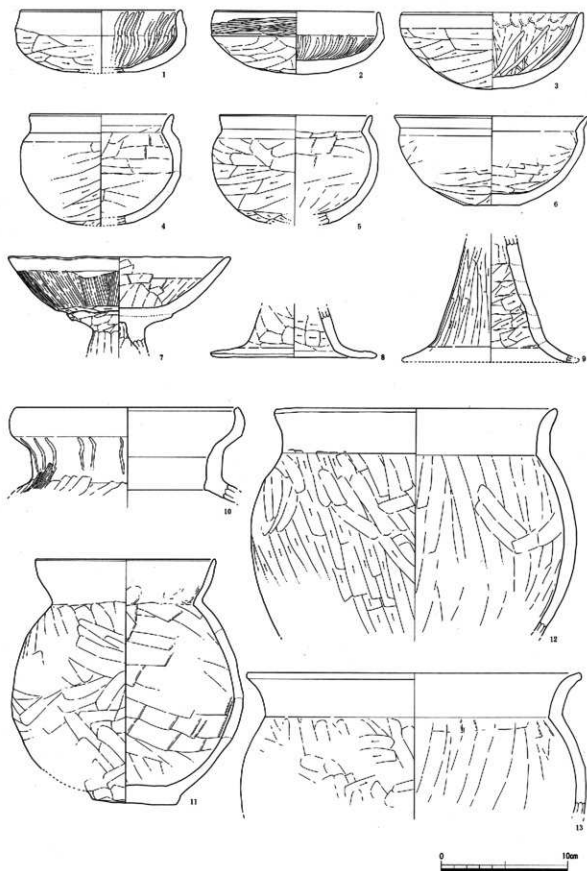
(2) 文化財課工事立会の遺構と遺物

A. 岩波遺跡

調査期日は平成17年11月7～10日である。当初埋蔵文化財包蔵地範囲外であり、「新規散布地」として扱っていた。畑地として高く残されていた部分で、幅1.8mのトレンチ8箇所を設定し調査を行った。トレンチ掘り下げは重機による。遺構が確認された部分では一部拡張しての調査区としている。T1、T2 A、T2 Bでは古墳時代の溝状遺構とビット、T3で土坑2基、ビット1基を確認した。T4～T8では遺構遺物の確認はなかった。遺構確認部分については、不十分だが、図面写真等の記録作成も含め調査を行って、記録保存の対応をとった。

この溝状遺構はT2 Bとした調査区の大部分を占める。幅2.7～3.6mで、深さは0.6～1.1m、トレンチ北端から37mほど北北西～南南東方向に直線的に延びているが、T2 B南端近くで直角・L字状に折れ、東北東方向に続いている。T1でこの溝の一部が確認され、少なくともこの間、T2 A～T1の部分は溝が続いているものと推定される。T1より東側については、現排水路があり、恐らく遺構は残されていない。またこの東側の延長部分を確認するために設定したT7では溝・遺構は確認されていない。また北側についても、現石橋中学校敷地内となるため、不明である。過去の開発により、周辺はすべて破壊されてしまったと考えられる。

溝の底面・壁面ともローム面で、ローム層を掘り込んで作られている。恐らくローム面より上位からの掘り込みであろうが、耕作による削平を受けているようで、確認できる掘り込みはローム面からである。底面から上端にかけては概ね斜めに傾斜しているが、一部垂直に近いところもある。平面図・断面図にも示しているよ



第17図 岩液遺跡出土遺物

第7表 岩波遺跡出土遺物観察表

():推定値 []:残存率

番号 種類 器種	大きさ (cm/g)	特 徴	色 調 胎土・完成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 坏	口(12.6) 高[4.9]	外面は口縁部ナデ、体部ケズリ。内面は体部ナデ、口縁部ヨコナデ後、体部ミガキ。	(内外)5YR5/6 明赤褐色 砂粒、小礫中量含む 焼成:良好	20% SD-1 6区
2 土師器 坏	口 13.0 高 5.0	外面は体部ナデ、口縁部ヨコナデ後、横方向のミガキ。内面は体部ナデ、口縁部ヨコナデ後、体部に放射状のミガキ。	(内外)5YR6/6 褐色 白色細粒少量含む 焼成:良好	80% SD-1 トレンゾ1
3 土師器 坏	口 14.2 高 5.1	外面は体部ケズリ、口縁部ヨコナデ。内面は体部底から口縁部ヘケズリ、口縁部指オサエ後、体部ミガキ。	(内外)10YR7/4 に近い黄褐色 赤色細粒中量、白色細粒、 砂粒少量含む 焼成:良好	80% SD-1 1~3区 SD-1 中ガタ
4 土師器 椀	口(11.2) 高[1.7]	外面は体部中位一下半ケズリ、上半ナデ、口縁部一頭部ヨコナデ。内面は口縁部ヨコナデ、頸部一頭部ヘナデ。体部下半は器面摩滅のため調整不明瞭。	(外)10YR6/2 灰黄褐色 (内)10YR6/3 に近い黄褐色 砂粒、赤色細粒少量含む 焼成:良好	40% SD-1 1~3区
5 土師器 椀	口(12.0) 高[8.7]	外面は体部下半ケズリ、上半ナデ、口縁部一頭部ヨコナデ。内面は口縁部ヨコナデ、頸部一頭部ヘナデ。体部下半は器面摩滅のため調整不明瞭。	(内外)10YR6/4 に近い黄褐色 小礫、赤色細粒少量含む 焼成:良好	40% SD-1 3区
6 土師器 椀	口(15.4) 底 4.4 高 7.1	外面は体部下半ケズリ、上半ナデ、口縁部ヨコナデ。底面ケズリ。内面は体部ヘナデ、口縁部ヨコナデ。外面に黒底有り。	(外)5YR7/6 褐色 (内)5YR5/6 明赤褐色 白色細粒多量、赤色細粒、 砂粒中量含む 焼成:良好	50% SD-1 5区
7 土師器 高坏	口 17.4 高[7.5]	外面の頸部は体部ヘナデ後口縁部ヨコナデ。体部下半部と接合後ケズリとナデ。外面の脚部は上半ナデ、指オサエ、脚部ナデ。内面の頸部はヘナデ後、口縁部ヨコナデ。一部その後にもヘナデ。内面の脚部は掻き取り後ナデ。外面は黒底有り。	(外)5YR6/6 褐色 (内)5YR7/8 褐色 砂粒少量含む 焼成:良好	60% SD-1 トレンゾ1
8 土師器 高坏	底(13.1) 高[3.9]	外面は脚部ナデ、頸部ヨコナデ。内面は脚部ケズリ、頸部ヨコナデ。	(内外)5YR5/6 明赤褐色 白色細粒、赤色細粒、 黒雲母中量含む 焼成:良好	10% SD-1 トレンゾ1
9 土師器 高坏	高[9.8]	外面は脚部ケズリ、頸部ヨコナデ。内面は脚部上半ナデ、中位一下半ケズリ、頸部ヨコナデ。	(外)5YR6/6 褐色 (内)5YR5/6 明赤褐色 一5YR4/1焼灰 小礫、砂粒、赤色細粒 少量含む 焼成:良好	20% SD-1 トレンゾ1
10 土師器 甕	口 17.8 高[6.4]	内外ともに調整不明瞭。外面は口縁部一頭部ヨコナデ後、頸部下位一頭部にハケ、ナデ、その後頸部にミガキ。内面は口縁部ヨコナデ、頸部ハケ、胴部ヘナデナデ。	(内外)7.5YR6/4 に近い褐色 小礫、砂粒、石英少量含む 焼成:良好	10% SD-1 1~3区
11 土師器 甕	口 14.2 底 6.5 高 20.2	外面は口縁部一頭部ヨコナデ、頸部下方のヘナデ後、胴部ナデ。底面はナデを施すが平坦をなさない。内面は口縁部指オサエ後ヨコナデ。胴部ヘナデ。	(内外)10YR7/3 に近い黄褐色 砂粒、赤色細粒少量含む 焼成:良好	70% SD-1 1~3区 SD-1 中ガタ
12 土師器 甕	口 12.3 高[18.0]	外面は胴部縦方向のケズリ後、上半ナデ、口縁部ヨコナデ。内面は胴部ヘナデ、ナデ、口縁部ヨコナデ。外面に黒底有り。	(内外)10YR7/4 に近い黄褐色 砂粒、白色細粒中量含む 焼成:良好	60% SD-1 1~3区
13 土師器 甕	口(26.2) 高 11.0	内外ともに器面摩滅のため調整不明瞭。外面は口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、一部ケズリ後ナデ。内面は口縁部ヨコナデ、胴部は胴部下に横方向のヘナデ後、縦方向のヘナデ。外面は黒底有り。	(外)10YR6/3 に近い黄褐色 (内)10YR7/3 に近い黄褐色 黒色細粒、砂粒含む 焼成:良好	10% SD-1 1~3区

うに、底面に段差があり、東側～北側がテラス状に一部高くなっている。溝の覆土は 1～12 層に分けられ、両側から自然に流れ込むような、レンズ状の堆積と観察される。砂層の堆積はなく、豊富な水の流れがあったとは考えにくい。上位の第2層が火山灰層で、分析を経っていないものの、H r - F A と推定した。従って、少なくとも F A 堆積以前に作られた溝と判断でき、遺物の検討も必要となるが、調査時の所見を踏襲し「古墳時代中期の溝状遺構」としておく。なおこの溝の周囲で幾つかピットの確認が為されている。径 10～30 cm、深さ 10～55 cm 程度で、時期の特定や、溝との関係などは判断難しいものの、同時期の遺構である可能性も残されている。T2 b 南側、SD 0 1 コーナー部近くのピットは 55 cm の深さがあり、覆土も溝に近い。

遺物については比較的多く出土し、古墳時代の土師器が主体となる。代表的な遺物に限り図示した。図示以外の土師器では、高坏 7 点、椀 4 点、坏 5 点、甕 7 点のほか、小テンバコ 2 箱分の小破片が認められる。遺物の詳細な出土位置を記録していないが、古墳時代火山灰層直下の 2 b・3 層から大半が出土していることを確認しており、当該期の遺構である可能性は高いであろう。

B. 前川原遺跡

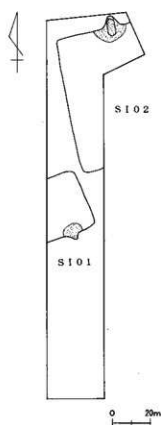
平成17年11月7～10日に工事立会調査を行った。調査地点は周知の埋蔵文化財包蔵地の北側で、当初は「前川原遺跡北側隣接地」として扱っていたが、調査結果及びその後の旧石橋町教育委員会との協議などにより、この範囲も前川原遺跡として扱うこととなった。

調査は幅1.8mのトレンチ6箇所を設定し、重機により確認面＝黄褐色ローム層または黄褐色粘土層まで掘り下げて調査した。T1で古墳時代の住居跡2軒を確認したが、残るトレンチでは遺構が確認できなかった。遺構が確認されたT1については、事業による掘削が遺構面まで及ばないこととなったこと、東側のトレンチ5本部分（町道予定地東側）については遺構の確認が無かったことから、事業の着手について問題ないと判断した。

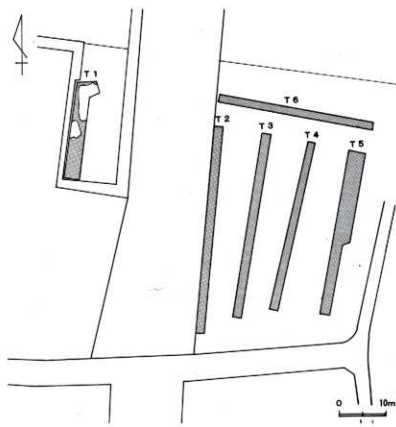
遺物については、確認時に露出した土器を回収したもので、復元し得た個体はすべて図示した（第20,21図）。図示した以外では、土器器壁破片6点が確認されている。

C. 前川原西遺跡

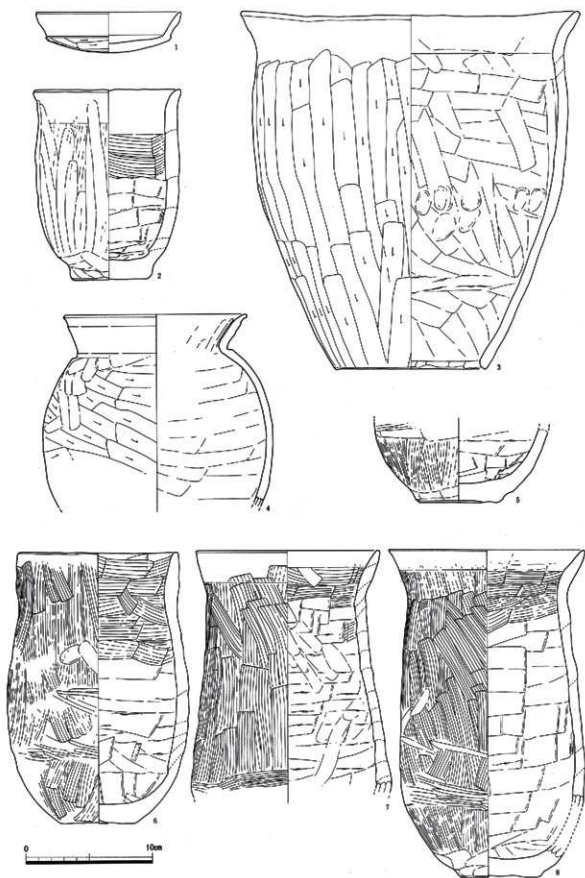
平成17年6月23・24日に、工事施工に伴って調査を行った。幅1.5mのトレンチを2箇所設定し、遺構の調査を行った。T1では住居跡3軒が確認され、可能な限りトレンチ調査区を拡張して調査を行った。トレンチ内では抜根による攪乱が著しく、遺構内にも広く及んでおり、全体の遺存状態は悪い。S103は覆土・掘り込みを15cm程度確認できたが、残る2軒では5cm程度の覆土の厚さしか確認できていない。現況観察などから、周辺も大きく遺構が破壊されていることが推定され、この3軒の記録保存調査の後、工事に着手して差し支え



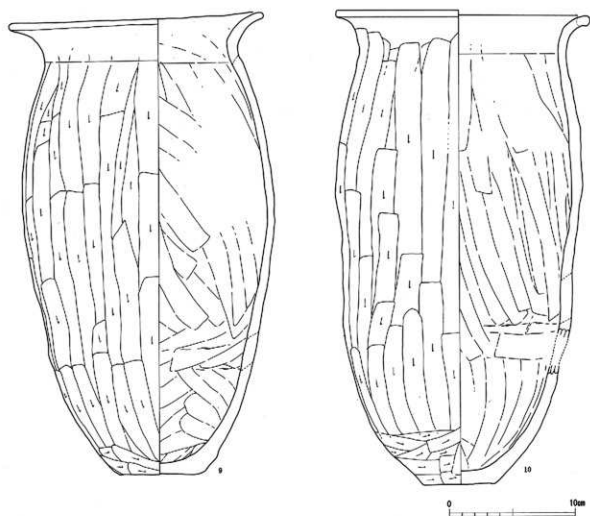
第18図 前川原遺跡T1平面図



第19図 前川原遺跡トレンチ配置図



第20図 前川原遺跡出土遺物(1)



第21図 前川原遺跡出土遺物（2）

ない旨の判断をした。

遺物については概ね図示した（第24図）。図示した以外では、S I 0 2より土師器甕1点及び破片2点、S I 0 3より土師器甕破片9点と陶磁器1点が認められる。概ね古墳時代の集落跡が展開していると言えよう。

なお前川原西遺跡と同じ調査日に花の郷地遺跡についてもトレンチ1本を設定し調査を行った。遺構は確認されなかった。

（3）埋蔵文化財センター確認調査の遺構と遺物

石橋南部地区では、大きく6箇所の遺跡（地点）について、17年度下半期の10～11月に調査を行い、12月に若干の整理を行った。調査は基本的に重機によるトレンチ掘り下げ後、手作業で精査しての遺構確認である。

車口北遺跡では、トレンチ8本の調査を行った。0.3～0.7mで確認面（ローム層または粘質土層）に至り、

第8表 前川原遺跡出土土物観察表

() : 推定値 | : 残存率

番号 種類 器種	大きさ (cm: g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 杯	口 11.4 底 3.2	外面は口縁部ヨコナデ、腰部ケズリ。内面はヨコナデ、底面付近ナデ。	(内外) 10YR8/3 淡黄褐色 黒色細粒多量を含む 焼成: 良好	40% 1トレ SI-1.2
2 土師器 小形甕	口 11.4 底 6.0 高 14.8	外面は胴部一口縁付近まで縦方向のヘラケ後、口縁部ヨコナデ、その後に縦方向のナデを施す。内面は口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケ、中位一下半ヘラナデ。底面は一定方向のケズリ後、周縁をケズリ。	(外) 7.5YR6/4 に近い黄褐色 (内) 7.5YR6/4 に近い黄褐色→7.5YR6/2 灰オリーブ 小礫、砂粒少量含む 焼成: 良好	完形 SI-1 カマド
3 土師器 甕	口 26.8 底 12.0 高 28.2	外面は口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ。内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、胴部中位指オサエ。底部ナデ。外面にスス付着。	(外) 2.5YR6/4 に近い黄褐色 (内) 7.5YR7/4 に近い黄褐色 小礫、砂粒、白色細粒含む 焼成: 良好	70% SI-1 №1 カマド
4 土師器 甕	口 14.2 高 15.0	胴部と胴部の境に段を有す。内外面、器面摩滅箇所有り。外面は口縁部一部ヨコナデ、肩部と胴部の境の段にナデを施し、段が滑んでいる部分がある。胴部ケズリ後、上半を中心にナデ。内面は口縁部一部ヨコナデナデ、指オサエが一部に見られる。胴部と胴部の境はそれほど明瞭な境線が確認出来ない。胴部ヘラナデ。但し胴部不明瞭。外面に黒斑有り。	(外) 5YR6/6 褐色 (内) 7.5YR6/3 に近い黄褐色 赤色細粒、砂粒、黒雲母少量含む 焼成: 良好	40% SI-1 カマド
5 土師器 土甕	底 3.3 高 6.5	胴部が短い。外面は胴部下半ハケ、粘土輪襷周辺ナデ後ミガキ。底面木炭痕有り。周縁にナデを施している。内面はヘラナデ。	(外) 7.5YR6/3 に近い黄褐色 (内) 2.5YR6/3 に近い黄褐色 緻密 焼成: 良好	10% SI-1 カマド
6 土師器 甕	口 12.8 底 5.9 高 26.5	内外面ともに変形が粗く、特に内面の胴部下半は輪襷のみ痕が明瞭に残る。外面は口縁部ヨコナデ、胴部ナデ後、縦方向のヘラケ。胴部中位にミガキ。底面は下平ナデ。僅1.2cm程度の部分有り。貫通はせず。内面はヘラナデ後、胴部上半一口縁部ヘラケ。	(外) 7.5YR6/6 褐色 (内) 5YR6/6 明赤褐色 砂粒極少量含む 焼成: 良好	70% SI-1 №1 カマド
7 土師器 甕	口 14.3 高 19.2	外面は胴部縦方向のヘラケ、口縁部ヨコナデ後、胴部下半にミガキ。内面は胴部ヘラナデ、胴部ハケ(一部ナデ)、口縁部ヨコナデ。輪襷のみ痕明瞭に残る。内外面ともにスス付着。黒斑有り。	(内外) 5YR6/8 褐色 小礫、白色細粒少量含む 焼成: 良好	60% SI-1 カマド
8 土師器 甕	口 15.4 底 6.2 高 25.7	外面は胴部ハケ、胴部下半ナデ、口縁部ヨコナデ後、胴部下半部分ミガキ。底面ナデ。内面は胴部ヘラナデ、口縁部一部ハケ後、口縁部ヨコナデ、底部ナデ。内外面ともにスス付着。	(外) 5YR6/8 褐色 (内) 5YR6/6 褐色 小礫、砂粒極少量含む 焼成: 良好	70% SI-1 №1 カマド
9 土師器 甕	口 20.1 底 6.4 高 36.5	外面は胴部縦方向のヘラケズリ。底部付近縦方向のヘラケズリ、口縁部ヨコナデ。底面一定方向にヘラケズリ後、周縁をヘラケズリ。内面は底部一部ナデ、胴部中位一下半ヘラナデ、口縁部ヘラナデ後ヨコナデ。胴部上半は丁寧に仕上げられている。内外面ともにスス付着。黒斑有り。	(外) 10YR6/3 に近い黄褐色 (内) 10YR6/6 明黄褐色 砂粒多量を含む 焼成: 良好	80% SI-1 №2
10 土師器 甕	口 20.6 底 5.5 高 37.6	外面は口縁部ヨコナデ後、胴部一部縦方向のヘラケズリ。胴部下半斜一横方向のヘラケズリ。底面一定方向のヘラケズリ。内面は胴部縦方向のヘラナデ、口縁部ヨコナデ。	(外) 10YR6/6 明黄褐色 (内) 10YR6/4 に近い黄褐色 小礫、砂粒多量を含む 焼成: 良好	80% SI-1 №2

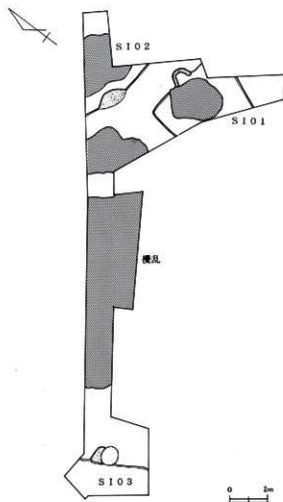
またこのうち T5・T7 で遺構確認 (ピット・土坑など) があった。

T7 では一部サブトレンチによる掘り下げでの調査も行い、性格は不明のままであったが遺構の確認を行っている (第26図)。遺物の出土もあり、今回一部を報告する (第27図)。

中の田遺跡では、トレンチ 12 本を設定し、うち 10 本の掘り下げを行っている。0.5～0.7m で確認面の粘質土層に達している。いずれのトレンチからも遺構の確認はない。遺物は T1、T5、T8 での出土があり、いずれも小破片で土師器が多く、須恵器・陶磁器片も少数認められた。中の田古墳では 2 本のトレンチ、島田遺跡では 2 本のトレンチを設定し掘り下げたが、遺構・遺物の確認はない。「新規散布地 A」では、12 本のトレンチを設定し、うち 8 本のトレンチ掘り下げを行った。0.3～0.7m で暗褐色土・粘質土等遺構確認面に至っている。T3 等でピットの確認があるほか、T6 では住居跡と推定される遺構の確認がなされた。花の郷地遺跡では T3、T4、T12 で遺物の出土がある。T3 からは陶磁器 1 点、T4 から内耳土器片 1 点、T12 から土師器破片 2 点である。



第22図 前川原西遺跡位置図



第23図 前川原西遺跡T1平面図

A. 車口北遺跡

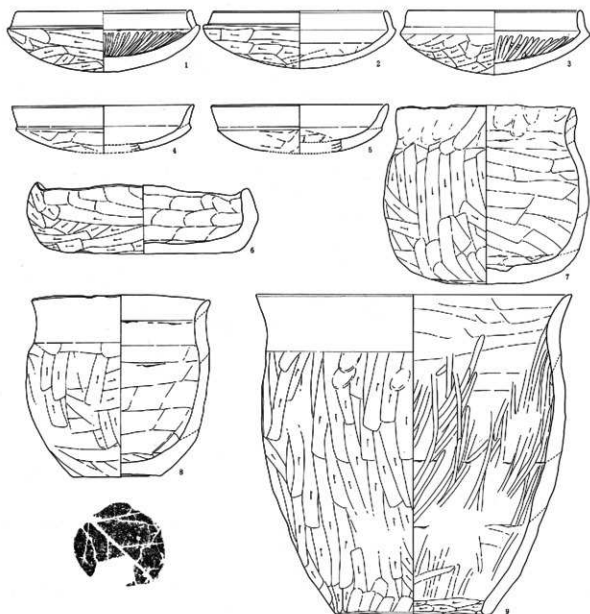
車口北遺跡は、石橋南部地区圃場整備事業区域内では中央やや南寄りの場所で、現姿川の流路に比較的近い位置にある。周囲はやや多くの人家がある所で、字中大領とされる場所である。沖積地内の他の場所と比べれば、若干高いところということもでき、一部のトレンチ調査ではローム面が確認されている。遺物はT1～3, T5, T7, T8で出土している。これらでは、土師器・須恵器の小破片、陶磁器や内耳土器の破片が認められる。

遺物について整理し、図示したものは第27図で、車口北遺跡T7出土である。ここでは、確認面レベル

でローム部分は少なく、遺構覆土と推定される黒色土が多くを占めていた(第26図)。トレンチ際にサブトレンチを設定し掘り下げたところ、遺物も多く出土し、中には完形またはこれに近いものも認められた。

ここでは土師器・須恵器・瓦について示す。図示以外では平安時代の土師器破片3点、甕破片6点、須恵器の破片6点、小破片10点が認められた。これ以外に「石橋南部T7SD-1」として取り上げている遺物があり、これには土師器9点、須恵器4点、瓦2点がある。また「石橋南部T7SK1～3」として取り上げられているものでは、土師器・須恵器の小破片が数点出土している。

遺構は、当初SXで発番し、その後溝1条及び土坑3基と推定することとなった。但し、広く黒色土が分布する部分について土坑の重複と捉えたものの、調査範囲で平面形態が明らかになった訳ではなく、土層観察と一部の掘り下げからの推定である。他の遺構となる可能性もあるが、調査範囲の限定があり、判断は難しい。遺物の詳細な出土状態の記録もとりに得ていないが、古代の遺構が



第24図 前川原西遺跡出土遺物



第9表 前川原西遺跡出土遺物観察表

():推定量 [] :残存量

番号 種類 器種	大きさ (cm・g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 杯	口 13.8 高 4.8	外面は口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後体部上半部ナデ。内面は口縁部ヨコナデ、体部ミガキ。	(外)10YR5/3 にぶい黄褐色 (内)10YR5/4 にぶい黄褐色 黒雲母、砂粒微量量を含む 焼成:良好	95% 口縁部一部欠 SI-2 №2
2 土師器 杯	口 13.7 高 4.6	外面は口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面は体部ナデ後、口縁部一部上半ヨコナデ。	(外)10YR5/3 にぶい黄褐色 (内)10YR5/3 にぶい黄褐色 赤色細粒中量、砂粒少量含む 焼成:良好	70% SI-2
3 土師器 杯	口 13.6 高 5.1	外面は口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後、上半のみナデ。内面は口縁部一部ヨコナデ後、体部ミガキ。外面に黒斑有り。	(外)5YR5/4 にぶい赤褐色 (内)5YR5/3 にぶい赤褐色 黒雲母多量、砂粒、白色細粒、赤色細粒中量含む 焼成:良好	70% SI-2 №3
4 土師器 杯	口(14.2) 高(3.6)	外面は体部ナデ、口縁部ヨコナデ。内面は口縁部ヨコナデ、体部器面摩滅の為、調整不明瞭、ナデム。	(外)10YR5/4 にぶい黄褐色 (内)7.5YR5/6 橙 砂粒、赤色細粒少量含む 焼成:良好	20% SI-2 №8
5 土師器 杯	口(14.0) 高(3.7)	外面は体部ナデ、口縁部ヨコナデ。内面は体部ヘラナデ、口縁部ヨコナデ。	(内外)10YR5/4 にぶい黄褐色 焼成:良好	10% SI-2 №8
6 土師器 鉢	口 16.5 底 15.3 高 5.7	全体的に粗く、厚みがある。口辺部の整形が特に粗く、波を打ったよう、厚さが均一でない。外面は体部一ヨコナデ後ケズリ後、口縁部一部ナデ。底面は一定方向のケズリ後周縁をケズリ。内面は口縁部一部粗いナデ。底面ケズリ。内外面に黒斑有り。	(外)10YR5/4 にぶい黄褐色 (内)10YR7/4 にぶい黄褐色 赤色細粒、黒雲母、砂粒中量含む 焼成:良好	完形 SI-2 №5
7 土師器 小形甕	口 7.0 底 10.2 高 14.1	完全に平坦な底面を成形していない。外面は口縁部指オサエ後ヨコナデ、一部ナデ。胴部縦方向のケズリ後下半ナデ。底面不定方向のヘラケズリ。内面は口縁部指オサエ後ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底面指オサエ後ナデ。外面は胴部中位より下スス付着。底面に赤雲母所有り。	(内外)7.5YR7/6 橙 砂粒、赤色細粒少量含む 焼成:良好	70% SI-2 №8
8 土師器 鉢	口 14.1 底 7.0 高 14.4	外面は胴部下半ナデ。胴部上半一中心部方向のケズリ後、縦方向のケズリ。胴部下半ナデ後、口縁部ヨコナデ。底面は木炭痕有り。外面は全体的にススけている。黒斑有り。	(外)10YR5/3 にぶい黄褐色 (内)10YR5/2 灰黄褐色 赤色細粒大量、砂粒少量含む 焼成:良好	80% SI-2 №8
9 土師器 甕	口 25.0 底 12.4 高 25.3	外面は胴部縦方向のケズリ後、胴部下半ナデ。頸部一部指オサエ、口縁部ヨコナデ。内面は口縁部一胴部ナデ、あるいはヘラナデ後ミガキ、底面ケズリ。外面は黒斑有り。	(外)10YR7/3 にぶい黄褐色 (内)10YR7/2 にぶい黄褐色 白色細粒、砂粒微量含む 焼成:良好	60% SI-2 №7



岩波 17-11



岩波 17-12

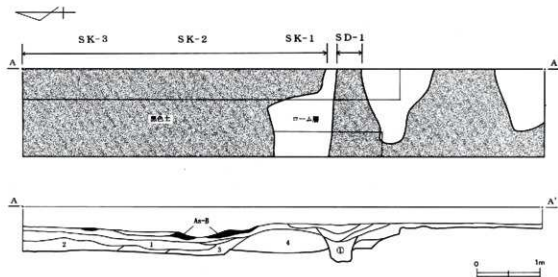


岩波 20-2

複数重なっているとの推定はできようか。なお、この車口北遺跡については、事業施工に当たって遺構面に掘削が及ばない形となるよう、協議がなされた。



第25図 車口北遺跡トレンチ図



- 第1層 暗褐色土 ロームブロック少量。ローム粒微量。
 第2層 暗褐色土 ロームブロックあり。ローム粒あり。
 第3層 暗褐色土 ローム粒少量。ロームブロック微量。2よりローム粒は縁がややが全層にわたる。
 第4層 暗褐色土 SK-1層より。ロームブロック多量。
 第5層 暗褐色土 SD-1層土。ローム粒少量。ロームブロックやや多量。灰土も上層にあり。

第26図 車口北遺跡T7



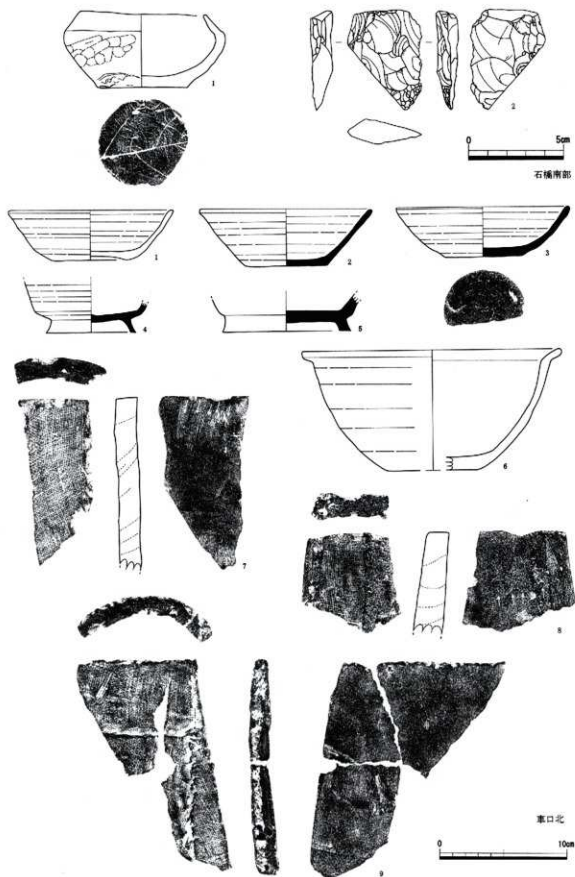
岩波 17-2



岩波 17-3



岩波 24-6



第 27 図 石橋南部・車口北遺跡出土遺物

第10表 石橋南部関連出土遺物観察表

():推定値 [] :残存値

番号 種類 器種	大きさ (cm・g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 杯	口 9.9 高 6.1 底 7.1	外面の口縁部ヨコナデ、胴部指ナデ、底部本築地有り。内面はヨコナデ。	(内外)2.5YR5/6 橙 白色粒子微量 焼成：良好	完形 前川原西遺跡 SI-02
2 石器	長 5.3 幅 3.9 厚 1.2	使用痕のある剥片。縦長素材の上縁～右側縁に微少の剥離痕有り。刃部として使用可。	石材：メノウ	3619 黒口北 T-7 SD-1

第11表 車口北遺跡出土遺物観察表

():推定値 [] :残存値

番号 種類 器種	大きさ (cm・g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 杯	口 12.9 高 4.0 底 6.0	外面はロクロ調整。底部糸切り痕あり。内面はロクロ調整。	(内外)2.5YR5/3 淡黄 焼成：良好	100% B下層
2 須恵器 杯	口 13.4 高 4.6 底 6.4	内外面ともロクロ整形。	(内外)84/ 灰 焼成：やや良好	80% SX-1 B層下
3 須恵器 杯	口(13.6) 高 4.0 底 6.0	内外面ともにロクロ整形。底部糸切り痕有り。	(内外)84/灰 焼成：やや良好	20% SX-1 B層下
4 須恵器 杯	高[4.1] 底 7.0	外面はロクロ整形、高台貼り付け。内面はロクロナデ。	(内外)68/1 黄灰 白色粒子量 焼成：良好	トレンチ7表土
5 須恵器 盃	高[2.6] 底 10.1	外面はロクロ整形、高台貼り付け。底面に軸溝付着。内面はロクロナデ。底面に軸溝付着。	(外)10Y5/1 灰 (内)10Y6/1 灰 白色粒子量含む 焼成：やや良好	トレンチ7表土
6 土師器 鉢	口(20.6) 高 9.5 底(6.8)	内外面ともロクロナデ。	(内外)5Y8/1 灰白 黒粒やや少量 焼成：良好	33% トレンチ7表土 SX-1
7 瓦	長[13.8] 幅[7.1] 厚 1.7	表面は布目痕有り。裏面はケズリ(矢印方向へ)。	2.5YR5/2 灰黄色 表面 上部2.5YR5/1 黄灰色 白色粒子少量含む 焼成：良好	
8 瓦	長[8.0] 幅[6.0] 厚[2.3]	表面は布目痕有り。裏面はケズリ、工具圧痕有り。(矢印方向へ)	(外)2.5YR5/1 黄灰色 砂粒少量含む 焼成：良好	トレンチ7 B層下SX
9 瓦	長[13.8] 幅[7.2] 厚 1.7	表面は布目痕有り。裏面はケズリ(矢印方向へ)。	(表)7.5YR/4 淡黄緑 (裏)5YR5/4 に5Y11橙 赤粒微量。土師質 焼成：良好	トレンチ7 SX-1 B下



前川原西 S102



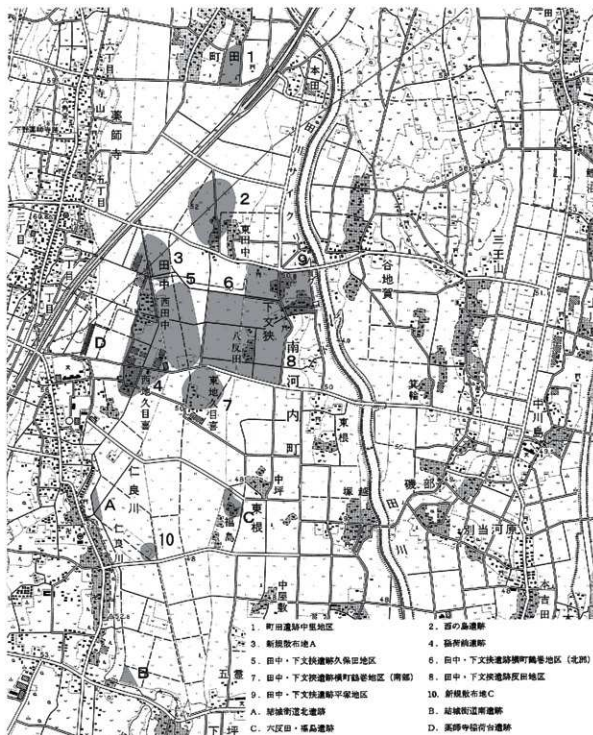
岩瀬 17-10

第3節 江川・五千石地区遺跡の概要

(1) 調査の概要

経緯と遺跡の概要

県営圃場整備事業江川・五千石地区は、旧南河内町（現下野市）の南側で、字名では仁良川地内、田中地内となり、田川の右岸の沖積平野部分が当該区域となる。事業は305ha、17年度から23年度の事業として計画された。事業地は広範囲にわたり、東側は田川にほど近いところ、西側は現新4号国道西側まで及ぶ。西側の



第28図 江川・五千石関連遺跡位置図

第12表 江川・五千石地区工事立会一覧表

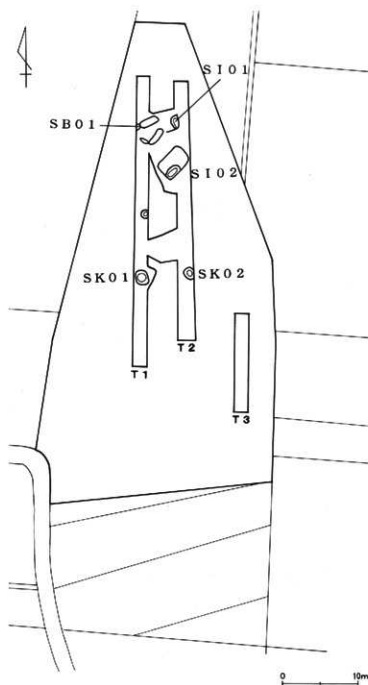
遺 跡 名	地点名	トレンチ	確認された遺構	対 応	調査日
結城街道北遺跡		1～2	なし	工事可	H18. 11. 21
結城街道南遺跡		1～6	なし	工事可	
新規散布地C		1～4	溝5、道路1、土坑2	現状保存	H18. 12. 7
		1～5	溝1、土坑1、道路1	記録保存 工事可	
稲荷前遺跡		1	なし	工事可	H19. 11. 8～11. 20
六反田・福島遺跡		1～4	なし	工事可	
田中・下文挾遺跡反田地区	A地点	1～	なし	工事可	
	B地点	1～3	なし	工事可	
田中・下文挾遺跡横町・鶴巻地区(北側)	A地点	1～3	堅穴住居2、土坑2、建物跡1、ピット1	記録保存 工事可	
	B地点	1	なし	工事可	
田中・下文挾遺跡横町・鶴巻地区(南側)	C地点	1～5	堅穴住居11、溝1、土坑2	記録保存 工事可	
	D地点	1～4	ピット、溝	記録保存 工事可	
田中・下文挾遺跡久保田地区		1	堅穴住居11、溝1、土坑2	記録保存 工事可	H20. 2. 7～2. 8
新規散布地A	北側A1	1～7	溝6以上、土坑8、ピット4	記録保存 工事可	H20. 11. 4～11. 6
	南側A2	1～7	大溝1、小溝1	記録保存 工事可	
		1～4	大溝	記録保存 工事可	
		1～7	溝1、土坑2	記録保存 工事可	
西の島遺跡		1～8	溝1、土坑2	記録保存 工事可	
栗師寺稲荷台遺跡		1～8	堅穴住居1	記録保存 工事可	

仁良川～栗師寺にかけてが南北に長い台地の縁で、このほぼ縁近くには県道結城石橋線（通称「多功街道」）が通っている。この台地の西側は窪川低地に臨むところまで広がり、さらにこの内部開析谷に面するところに多くの遺跡がある。下野薬師寺跡をはじめ、多くの遺跡が存在し、また自治医科大学周辺の開発が行われたことなどから、発掘調査事例も多い。それに比べて、この台地の東側、田川までの低地部分については、遺跡の所在判断が難しいこと、開発が少ないこと等から、埋蔵文化財の様相については不明な点が多い。しかし下野市教育委員会（合併前の旧町教育委員会も含め）による詳細な遺跡分布調査が進められ、これらの低地にも遺跡が多く存在することが明らかとされてきた。基本的には沖積低地だが、現在の集落がある所などで、わずかに高い微高地が認められ、これらの場所で遺物の散布が確認される。今回の事業区域内でも、開発計画がなされた時点で周知の埋蔵文化財包蔵地となっていたところも多い。平成16年度には、文化財課により計画地内の所在調査が行われたことによって、「新規散布地」が新たに確認された。これらの事業区域内の遺跡の取扱いについて、事業計画決定後、文化財課・農地整備課・下都賀農業振興事務所・下野市で協議が進められた。

平成17～20年度の工事施工において、遺跡部分の確認調査及び、掘削が避けられない部分についての工事立会調査を県教育委員会文化財課が直接行うこととなった。また、遺構の有無・状況について調べる必要があることから、埋蔵文化財センターの受託事業として、本事業に係る広範囲の確認調査を平成17年度及び18年度の下半期に行うこととなった。

事業地周囲の遺跡・環境

既述のように、沖積低地西側の「宝木台地」では、多くの遺跡があり、内容が明らかとなっていてところも多い。当該地域の地理的・歴史的環境については、既に県教育委員会発行の調査報告等において、幾度も触れられていることから、ここでは多くを触れない。今回示す田中下文挾遺跡のすぐ西側500mのところにあるのが、新4



第29図 田中下文挾遺跡 横町鶴巻地区A地点

号国道建設に伴って調査された薬師寺南遺跡である。古墳時代～古代の集落跡で、ここから北1.2kmに著名な下野薬師寺跡がある。国指定史跡となっており、また数次にわたる発掘調査から、伽藍配置をはじめ多くの点が明らかとなっている。御鷺山古墳・大坂遺跡など、下野薬師寺跡周辺の遺跡にも注目される遺跡が多い。大きな谷を挟んで西側には、自治医科大学周辺開発関連の遺跡群、またその北側では多功南原遺跡、上三川高校地内遺跡、多功遺跡等が位置しており、とりわけ古墳時代・古代・中世に関わる考古学的成果が広く知られているところである。薬師寺南遺跡の南側1.5kmには、弥生時代の遺跡として知られる柴工業団地内遺跡がある。田中下文挾遺跡の東、田川を越えた対岸の台地には、弥生時代～古墳時代初頭の重要な遺跡である三王山古墳群がある。三王山の北側谷地賀地区には上野原古墳群、上野原遺跡等がある。これら「旧南河内町域」では多くの遺跡が所在し、また調査例も比較的多いことから、多くの成果があげられてきているが、田川に面する沖積低地部分の様相は必ずしも明らかにされていない。今回概要的に示す報告や近年の江川・五千石地区における下野市教育委員会による埋蔵文化財の対応などによって、今後より明らかにされていくものと思われる。下野市教育委員会が調査した薬師寺稲荷台遺

跡において、縄文時代草創期の爪形文土器が土坑から出土したこともその一つと言えよう。

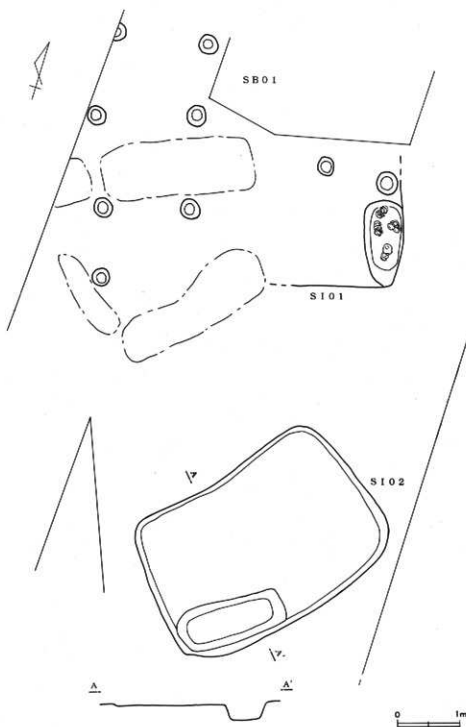
逐一の文献提示もここでは省略し、下記の2つのみ示す。

『南河内町史 資料編考古1』1992 南河内町

『下野市遺跡分布図』2008 下野市教育委員会

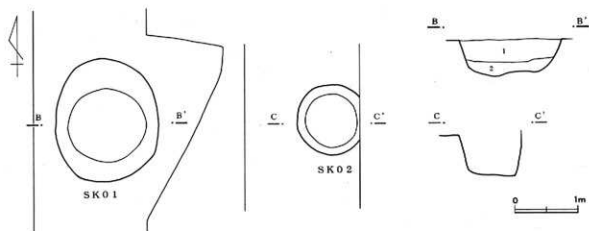
(2) 文化財課工事立会の遺構と遺物

江川・五千石地区の園場整備事業にかかる文化財課の工事立会・確認調査は第12表のとおりである。逐一の



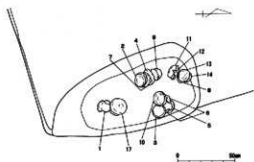
第30図 田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区A地点遺構図

経過は記さないが、それぞれの事業施工計画に対応する形で工事立会等を行っている。原則として、重機による1～2m幅のトレンチを掘削しその後底面壁面を精査して遺構確認を行った。この調査により、遺構遺物とも確認されなかったところについては、工事着工して差し支えない旨の回答をして引き渡している。また確認後、或いは併行して、協議により掘削が遺構面に及ばないことが確認されたところでは「現状保存」との判断をなし協議している（平成18年12月確認の「新規散布地C」など）。



第31図 田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区A地点遺構図2 土坑

平成19年度は、江川・五千石地区の調査が集中的に行われた年で、事業施工に伴う掘削が避けられず、記録保存調査を行った地区が2箇所ある。それが、田中下文扶遺跡横町鶴巻地区（北側）A地点及び同（南側）C地点である。



第32図 横町鶴巻地区A地点S101遺物出土状況

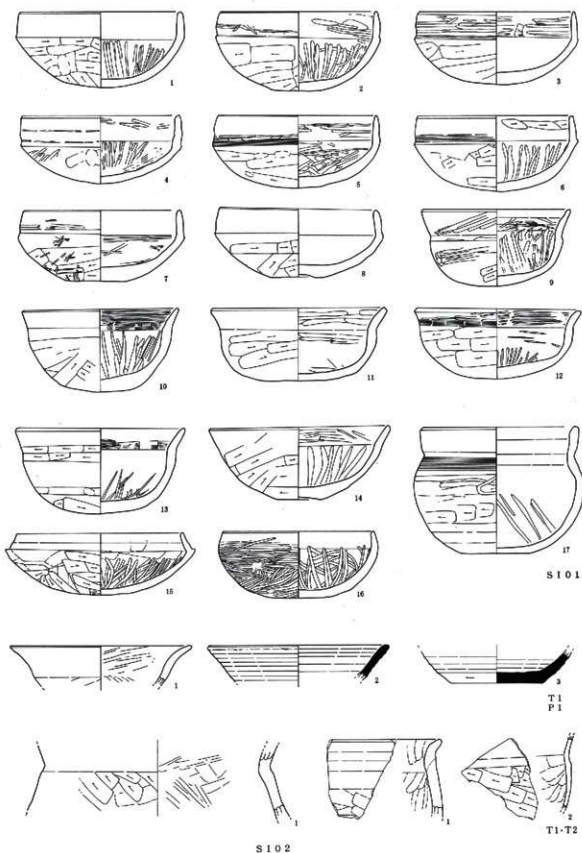
A. 田中下文扶遺跡横町鶴巻地区

横町鶴巻地区A地点

この地点は、田中下文扶遺跡の中でもほぼ中央のところに位置し、現田川からは700～800mほど離れた位置に当たる。西側が同遺跡久保田地区、東側が反田地区となる。現集落（人家）はなく、低平な水田区域である。調査が必要な範囲にトレンチ3本を設定し、遺構が確認されたところは、調査区を拡張して、調査を進めた。遺存状況は必ずしも良好ではないが、住居跡2軒、掘立柱建物跡1棟、土坑2基が確認された。

住居跡の内S101はトレンチ北側にあつて掘立柱建物跡と重複している。掘立柱建物跡は、7本のピットから推定したもので、南北に長い建物となるようである。ピットの深さは20～50cm程度である。S101は、全体の形態は明らかではないが、床面及び東側・南側の壁の一部、南東に位置する長楕円形の土坑（貯蔵穴か）が認められている。この土坑から多くの遺物がまとも出土している。カマドの有無は不明である。遺物は多く、図示できたものでも17点がある（第33図）。古墳時代中～後期の遺構と判断される。図示した以外では、土師器片11点及び平安時代の須恵器片1点が認められた。

S102は、やや小さく長方形プランの住居跡で、確認面から床面までの掘り込みは浅い。南西コーナーに長方形の土坑が伴うようである。出土遺物は図示した1点（第33図）のみである。このほかの遺構として土坑2基及びピット1基を調査している。土坑はいずれも平面円形で、やや浅い。SK01からは、第58図に示した3点の土師器（高杯脚部、壺胴部、古墳時代中期）とともに木製品の出土がある。2層黒褐色土の上位から出土した板状の木製品で、山形状に先端加工の痕跡が認められ、注目される（写真図版一〇）。SK02については高台付杯や甕等の平安時代の土師器片10点程度が認められた。ピットP1からは須恵器を含む図示した3点及び土師器片5点がある。トレンチ内一括で取り上げた遺物では、図示した2点以外に、土師器・須恵器・陶磁器の破片約30点がある。これらの調査結果から、横町鶴巻地区A地点では、トレンチ内出土遺物も含め、古墳時代中期～平安時代にかけての集落跡が展開していることが推測される。



第33図 田中下文挟遺跡 横町鶴巻地区A地点遺物

第13表 田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区 A地点遺物観察表

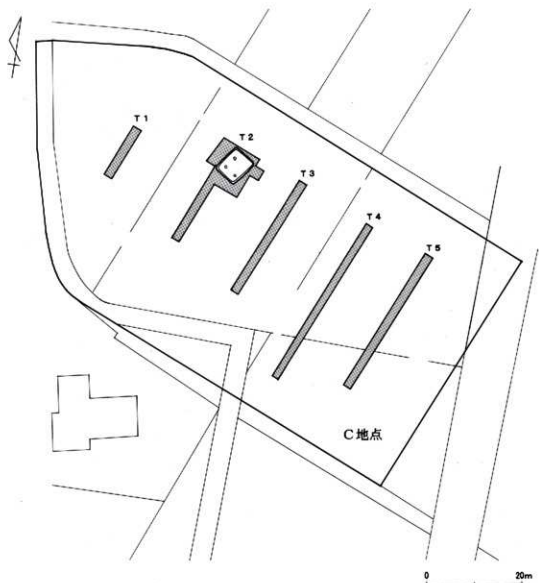
():推定値 [] :保存庫

番号 種類 器種	大きさ (cm・g)	特 徴	色 調 粘土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 杯	口 12.7 高 5.0	外面は口縁部ナデ、胴部から底部ナデ後ミガキ。内面は口縁部ナデ、胴部ナデ。内外面とも黒底有り、口縁部外面の一部黒(黒色)が付着、胴部内面一部黒(黒色)が付着。	(内外) 7.5YR4/3 焼 白色微粒子微量 焼成: 良好	80% S-201Na1 A地点
2 土師器 杯	口 12.4 高 6.3	外面は口縁部ナデ後、一部ミガキ、胴部ナデ。内面は口縁部ナデ後、ミガキ、一部指押さえ痕有り、胴部ナデ後ミガキ。内面の一部に黒底有り(底面)。	(内外) 2.5YR5/8 明赤褐 白色微粒子微量 焼成: 良好	完残 S-201 Na3 A地点
3 土師器 杯	口 12.3 高 5.8	外面は口縁部ヨコナデ後ミガキ、胴部一底部ナデ。内面は口縁部ナデ、胴部ナデ。外面は一部黒底有り、内面は一部ススもしくは黒底付着。	(外) 2.5YR4/6 赤褐 (内) 2.5YR5/8 明赤褐 白色微粒子微量 焼成: 良好	ほぼ完形 S-201 Na8 A地点
4 土師器 杯	口 12.4 高 5.4	外面はナデ後ミガキ。一部指押さえ痕有り。内面はナデ後ミガキ。底部付近一部に黒底有り。	(内外) 2.5YR4/8 赤褐 白色微粒子微量 焼成: 良好	完形 S-201 Na5 A地点
5 土師器 杯	口 12.5 高 5.8	外面は口縁部ヨコナデ後下部ミガキ、ハケメ。胴部から底部ナデ(ナデ後一部指押さえ)。内面は口縁部ヨコナデ後ミガキ、胴部一底部前部ミガキ。外面は1/3黒底有り、内面は1/2黒底有り。	(外) 2.5YR4/8 赤褐 (内) 2.5YR5/8 明赤褐 白色微粒子微量 焼成: 良好	95%(ほぼ完形) S-201 Na11 A地点
6 土師器 杯	口 12.3 高 6.0	外面は口縁部ヨコナデ、一部ハケメ。胴部一底部ナデ。内面は口縁部ヨコナデ後ナデ。胴部から底面ミガキ。外面は1/2黒底有り、内面は一部黒底有り。	(外) 2.5YR4/8 赤褐 (内) 2.5YR5/8 明赤褐 白色微粒子微量 焼成: 良好	95%(ほぼ完形) S-201 Na9.10 A地点
7 土師器 杯	口 12.4 高 5.6	外面は口縁部ナデ後ミガキ、胴部ナデ。内面は口縁部ナデ後ミガキ、胴部ミガキ。	(内外) 2.5YR5/8 明赤褐 砂利微量 焼成: 良好	95% S-201 Na4 A地点
8 土師器 杯	口 12.5 高 5.4	外面は口縁部ヨコナデ、摩耗が激しい。胴部一底部ナデ。やや摩耗している。内面はナデ、摩耗が特に激しい。	(内外) 2.5YR4/8 赤褐 砂利微量 焼成: やや不良	98% S-201 Na15 A地点
9 土師器 丸底鉢	口 11.7 高 6.1	外面はナデ→ミガキ。外面はナデ後ミガキ。口縁部に一部黒底有り、くびれ部より下胴部黒底有り。	(外) 7.5YR4/3 焼 (内) 2.5YR5/8 明赤褐 白色微粒子微量 焼成: 良好	完形 S-201 Na6 A地点
10 土師器 杯	口 12.2 高 6.5	外面は口縁部ヨコナデ、胴部一底部ナデ。内面は口縁部ナデ後ハケメ、胴部一底部ミガキ。外面は50%程度黒底有り。	(外) 10YR3/3 暗褐 (内) 10YR1.7/1 黒 赤色微粒子微量、砂粒少量含む 焼成: 良好	90% S-201 Na7 A地点
11 土師器 杯	口 13.7 高 5.8	外面は口縁部ヨコナデ、胴部一底部ナデ。内面は口縁部ヨコナデ後ミガキ。胴部ヨコナデ後ミガキ(上部)、底部ヘラミガキ。外面の一部に黒底有り。	(内外) 2.5YR4/8 赤褐 砂利微量 焼成: 良好	95%(ほぼ完形) S-201 Na12 A地点
12 土師器 杯	口 13.0 高 5.5	外面は口縁部ヨコナデ後、上位ミガキ、胴部一底部ナデ。口縁部下部ヨコナデ(ハケメ)。内面は口縁部ヨコナデ後ミガキ、胴部上位ヘラミガキ、胴部下部ミガキ。	(外) 10B4/8 赤 (内) 2.5YR4/4 黒にぶい赤褐 (内) 2.5YR4/6 赤褐 白色微粒子微量 焼成: 良好	98%(ほぼ完形) S-201 Na13 A地点
13 土師器 椀	口 13.3 高 6.8	外面は口縁部ヨコナデ後、下位のミガキ。胴部上位(口縁部下)ナデ。胴部中位ナデ。胴部下位ナデ(一部指押さえ痕有り)胴部ナデ後ナデ、指押さえ。内面は口縁部ヨコナデ後、下位のミガキ、ハケメ。胴部から底部ミガキ。	(外) 7.5YR3/3 黒にぶい褐 (内) 10YR5/4 黒にぶい黄褐 白色微粒子微量 焼成: 良好	100% S-201 Na14 A地点
14 土師器 杯	口 14.2 高 5.8	外面は前部ナデ。内面はヨコナデ後ミガキ。外面の一部に黒底有り。	(外) 7.5YR4/3 焼 (内) 7.5YR5/6 明褐 砂利少量含む 焼成: 良好	100% S-201 Na16 A地点
15 土師器 杯	口(13.2) 高 4.9	外面は口縁部ヨコナデ、体部ナデ後ヘラミガキ。内面は体部上半→口縁部ナデ後口縁部ヨコナデ。体部ナデ後ヘラミガキ。	(外) 10YR5/2 灰黄褐 (内) 7.5YR6/6 赤褐 砂粒、白色細粒、赤色細粒含む 焼成: 良好	口縁部2/3 体部上半 半欠
16 土師器 杯	口(12.0) 高 5.3	外面は口縁部ヨコナデ後、体部ナデ後に概ね横方向のヘラミガキ。内面は口縁部ヨコナデ、体部ナデ後横方向→放射状のヘラミガキ。内外とも底部に黒底有り。	(外) 5YR5/8 明赤褐 (内) 2.5YR6/6 橙 赤褐 焼成: 良好	口縁部一底部 半欠
17 土師器 盃	口 12.3 高 10.0	外面は口縁部ナデ、くびれ部ナデ、胴部下部から底面ミガキ。内面は口縁部ナデ、胴部ナデ後ミガキ(胴部上位)。	(内外) 7.5YR7/6 褐 白色微粒子少量、赤色微粒子少量 焼成: 良好	完残 S-201 Na2 A地点
1 土師器 杯	口(14.4) 高[3.2]	外面は口縁部ヨコナデ、体部ナデ、口辺部赤彩。内面はナデ後ミガキ。全体に赤彩。	(外) 10YR7/3 にぶい黄褐 (内) 2.5YR4/8 赤褐 白色・赤色細粒、砂粒極少量含む 焼成: 良好	破片 トレンチ1 ピット1 A地点
2 土師器 杯	口(14.2) 高[3.2]	外面は口縁部ナデ、口縁部下輪軸のみ有り。内面は口縁部ナデ。	(内外) 2.5Y7/1 灰白 微赤 焼成: 良好	口縁部一底部中 位1/3のみ トレンチ1 ピット1 A地点

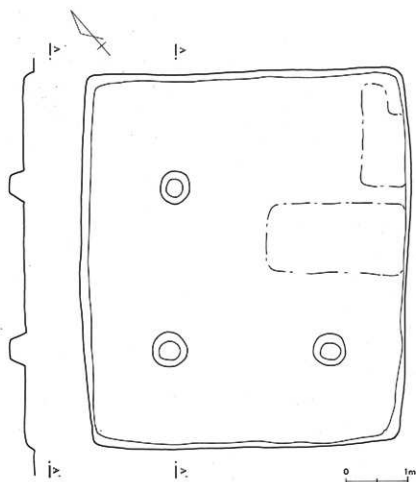
3 須恵器 杯	口(7.2) 高[2.6]	外面はヘラケズリ、体部下半回転ヘラケズリ、体部コロナデ。内面はコロナデ。	(内外)2.5Y7/1 灰白 砂粒、白色細粒少量含む 焼成：良好	底部一体部中位 1/4のみ トレンチ1 ピット1 A地点
1 土師器 甕	高[5.1]	外面は頸部コロナデ、胴部ナデ後ケズリ。内面はナデ後ミガキ。	(内外)2.5Y8/8 橙 白色・赤色細粒、砂粒、黒雲母、 石英含む 焼成：良好	破片 SI-2 A地点
1 土師器 甕	口(11.1) 高[6.2]	外面は口縁部一頭部コロナデ、胴部上半ナデ。内面は口縁部コロナデ後ナデ。胴部上半ナデ。	(外)10YR7/3 にぶい黄橙 (内)5Y8/1 灰 砂粒、白色細粒含む 焼成：良好	口縁部一頭部上 半 破片 トレンチ1・2 一拵 A地点
2 土師器 甕	高[5.9]	外面は口縁部コロナデ、胴部ヘラケズリ、ナデ。内面は頸部コロナデ、胴部ナデ。	(外)10Y8/2 灰黄褐 (内)5Y8/2 灰褐 砂粒含む 焼成：良好	頸部胴部上半破 片 トレンチ1・2 一拵A地点

横町鶴巻地区C・D地点

田中下文挟遺跡横町鶴巻地区C地点は、同A地点や同遺跡久保田地区の南側に位置し、小字名では「東地久目暮」で、数軒の民家がややまとまっているところである。この横町鶴巻地区C地点では、トレンチ5本を設定し、このうちT2から住居跡1軒が確認された(第34,35図)。トレンチを拡張して住居跡の形態を把握し、



第34図 田中下文挟遺跡 横町鶴巻地区C地点トレンチ配置図



第35図 田中下文挾遺跡 横町鶴巻地区C地点SIO1

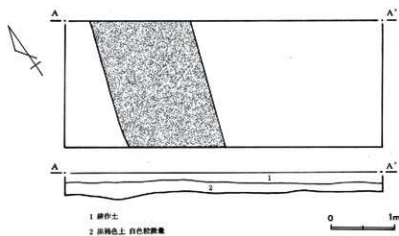


第36図 田中下文挾遺跡 横町鶴巻地区南側確認トレンチ配置図

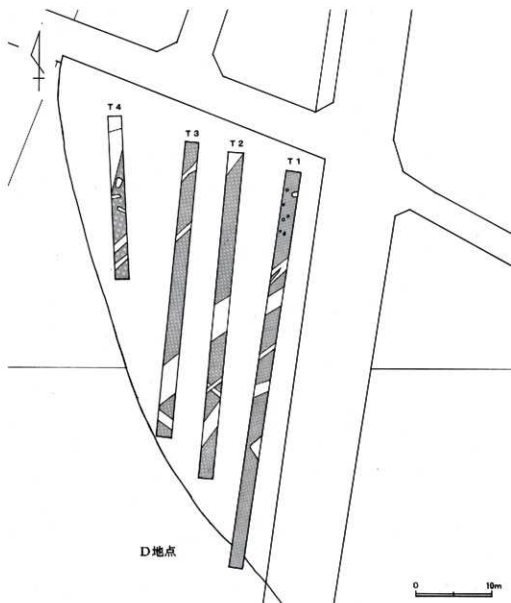
調査を進めた。方形のプランで柱穴3本（深さ25～30cm）も確認されている。炉跡の確認はない。確認面からの深さは15cmで、炭化物及び焼土を多く含む暗褐色土の覆土と観察された。出土遺物は比較的多い（第39図）。図示した以外では、土師器片50点程度が認められ、ハケ調整が施された甕胴部破片が目立っている。

また近接した位置となる埋文センター確認調査のT11でも土師器破片が多い。T11で第39図に示した以外でもハケ調整が施された甕や埴、高坏等の土師器破片約40点が認められた。調査の限定性はあるが、古墳時代前期の集落跡が展開している可能性を示している。

なお、同D地点の調査では、トレンチ



第37図 田中下文挾遺跡 横町鶴巻地区確認トレンチT11



第38図 田中下文挾遺跡 横町鶴巻地区D地点トレンチ配置図

第14表 田中下文挾遺跡 横町鶴巻地区C地点遺物観察表

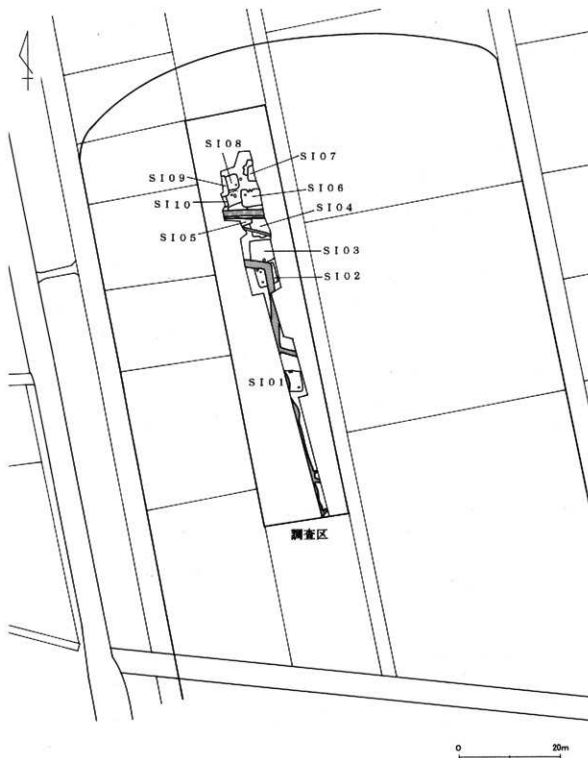
():推定値 [] :残存率

番号 種類 階層	大きさ (cm/g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 高坪	底(19.4) 高(9.2)	外面はナデ後ミガキ。内面は掻き取り、ナデ後ハケ、胴部ヨコナデ。内外面ともに黒斑有り。	(外)7.5YR7/6 黒 (内)7.5YR2/1 黒 砂粒少量含む 焼成:良好	胴部1/3強 トレンチ2 SI-1 C地点
2 土師器 高坪	高(6.0)	外面はケズリ後ミガキ。内面はナデ後ケズリ。	(外)10YR2/1 黒 (内)10YR4/2 灰黄褐 白色粒子少量含む 焼成:良好	30% トレンチ2 SI-1 C地点
3 土師器 器台	口(7.2) 底(11.7) 高(9.0)	外面はミガキ後ハケ(胴部・脚部)、ナデ(口縁部)。中央孔のとなり未貫通あり。内面はナデ後ハケ。	(外)胴部下位7.5YR3/2 黒褐 (外)脚部中央一頭部5YR4/8 赤褐 (内)口縁部5YR4/8 赤褐 (内)2.5YR3/6 明赤褐 白色粒子中量 焼成:良好	90% トレンチ2 SI-1 C地点
4 土師器 甕	口(14.9) 高(3.7)	内外面ともにナデ、摩滅している。	(内外)10YR5/6 赤 白色粒子中量、砂粒微量含む 焼成:やや不良	30% トレンチ2 SI-1 C地点
5 土師器 甕	口(19.3) 高(4.3)	外面は口縁部ヨコナデ後、縦方向のハケ。内面はヨコナデ後横方向のハケ、その後口辺部中心にナデが。内面に黒斑有り。	(外)5YR4/2 灰褐 (内)5YR5/6 明赤褐 砂粒、白色細粒多量を含む 焼成:良好	口縁部一頭部1/6弱 トレンチ2 SI-1 C地点
6 土師器 甕	口(22.8) 高(5.5)	外面は胴部一頭部上を斜縦方向のハケ、口縁部、口部部ヨコナデ。内面は口縁部横方向のハケ、胴部ヘラナデ。	(外)10YR7/3 にぶい黄褐 (内)10YR7/4 にぶい黄褐 砂粒中量含む 焼成:良好	破片 トレンチ2 SI-1 C地点
7 土師器 甕	口(18.2) 高(5.3)	外面は口縁部一頭部ヨコナデ、胴部ハケ後ナデ。内面は口縁部ハケ、胴部ナデ。外面は黒斑有り。	(外)5YR5/4 にぶい赤褐 (内)10YR5/2 灰黄褐 砂粒、白色細粒多量 黒斑微量含む 焼成:良好	口縁部一頭部上 半1/6弱 トレンチ2 SI-1 C地点
8 土師器 甕	底(4.1) 高(7.2)	外面はケズリ後ハケメ(一部)、やや摩滅している。内面はナデ。内面に一部黒斑有り。	(外)10YR3/2 黒褐 (内)10YR6/3 にぶい黄褐 白色粒子中量、砂粒少量含む 焼成:やや不良	30% トレンチ2 SI-1 C地点
9 土師器 台付甕	底(9.6) 高(14.5)	外面はケズリ後ハケメ(全体)内面はナデ、胴部ハケメ。内外面ともに一部黒斑有り。	(内外)10YR5/6 赤 一部7.5YR6/4 にぶい黄褐 自然粒子少量、砂粒微量	30% トレンチ2 SI-1 C地点
10 土師器 台付甕	底(9.4) 高(4.6)	外面は横方向の細かくハケの後、縦・斜方向のハケ。内面は横方向のハケ、ナデ、指オサニの整形痕認められる。内外面ともに、赤斑所有り。	(外)2.5YR7/2 灰黄 (内)2.5YR6/2 灰黄 白色細粒、黒斑、石英、砂粒少量 含む 焼成:良好	台部分1/2弱 トレンチ2 SI-1 C地点
11 土師器 台付甕	口(17.0) 高(24.6)	外面は口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ後ハケメ、胴部ハケメ(全面)。内面は口縁部ヨコナデ後ハケメ、胴部ケズリ。内外面ともに、黒斑有り。	(外)10YR5/8 赤 (内)5YR5/3 にぶい赤褐 白色細粒多量を含む 焼成:やや良好	40% トレンチ2 SI-1 C地点
1 土師器 高坪	高(4.9)	内外面ともに摩滅している為、調整不明瞭。	(外)5YR7/4 にぶい黄 (内)7.5YR7/4 にぶい黄 砂粒中量含む 焼成:やや良好	20% トレンチ11 SX7
2 土師器 甕	口(11.9) 高(3.2)	外面はヘラナデ、胴部ヘラナデ後ハケメ。内面はヘラナデ。内面に一部黒斑有り。	(外)10YR5/8 赤 一部2.5YR6/6 褐 (内)10YR5/2 灰黄褐 砂粒微量含む 焼成:良好	破片 トレンチ11 SX7
3 土師器 甕	口(14.4) 高(5.6)	外面はヘラナデ、胴部から胴部ナデ後ハケメ。内面はヘラナデ、胴部から胴部ナデ。	(外)5YR4/2 灰褐 (内)5YR5/4 にぶい黄 砂粒微量含む 焼成:良好	破片 トレンチ11 SX7
4 土師器 甕	口(18.1) 高(6.3)	外面はくびれ部ナデ後ハケメ。胴部一部ケズリ後ハケメ(一部)。内面はナデ。	(内外)10YR3/2 黒褐 砂粒微量含む 焼成:良好	破片 トレンチ11 SX7
5 土師器 甕	高(4.0)	外面はハケメ、判別。内面はケズリ後ハケメ。	(外)10YR5/1 地灰 (内)2.5Y2/1 黒 砂粒中量含む 焼成:良好	破片 トレンチ11 SX7

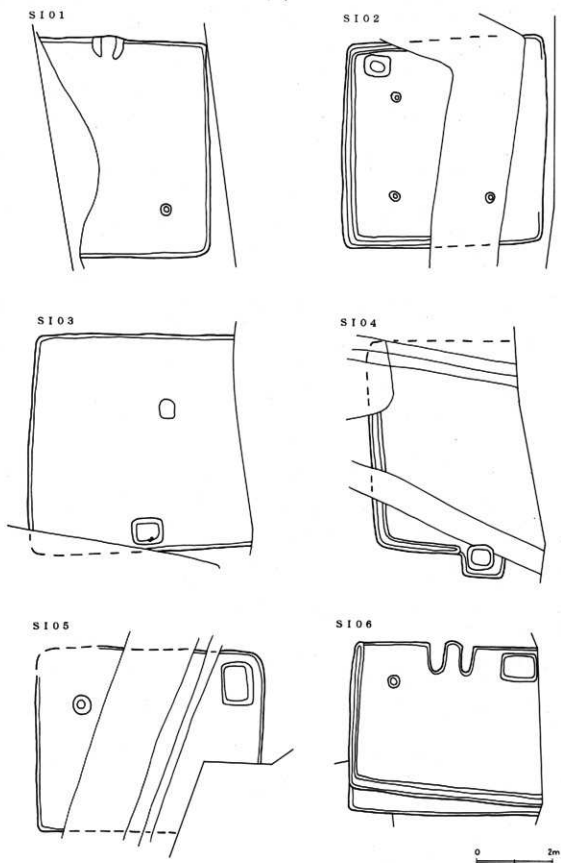
内で多数の溝と柱六穴のプランを確認した。溝は近世以降と推定され、また協議により掘削による影響が及ばない工法による事業施工とのことから、現状保存との判断が為された。確認の平面記録のみここでは示す(第38図)。遺物は、図示していないが、須恵器の長頸壺の頸部片や内耳土器、すり鉢等が認められる。なお、埋蔵文化財センターの確認調査横町鶴巻地区については後述する。

B. 田中下文挟遺跡久保田地区

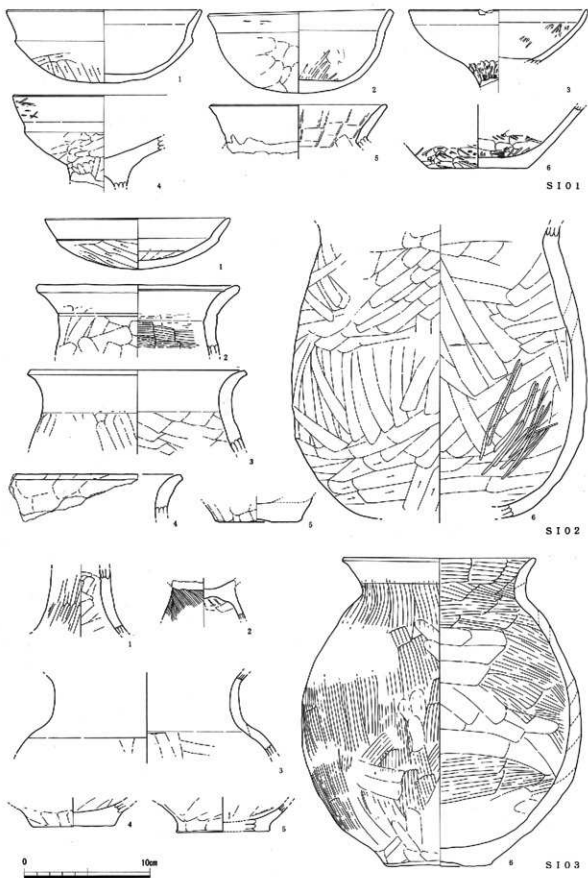
この地点は稲荷前遺跡の東側に隣接、田中下文挟遺跡の西側に隣接する。平成20年2月に文化財課が工事立会を行った。掘削が避けられず調査が必要となった地点は、稲荷前遺跡範囲で現集落のある東側である。幅2mのトレンチを設定し、必要に応じてトレンチを拡張した。古墳時代の住居跡11軒（うち1軒は痕跡のみ）、土坑2基、溝状遺構を確認した。確認面までは約50cm。調査終了後、調査を行った部分については工事着手差し



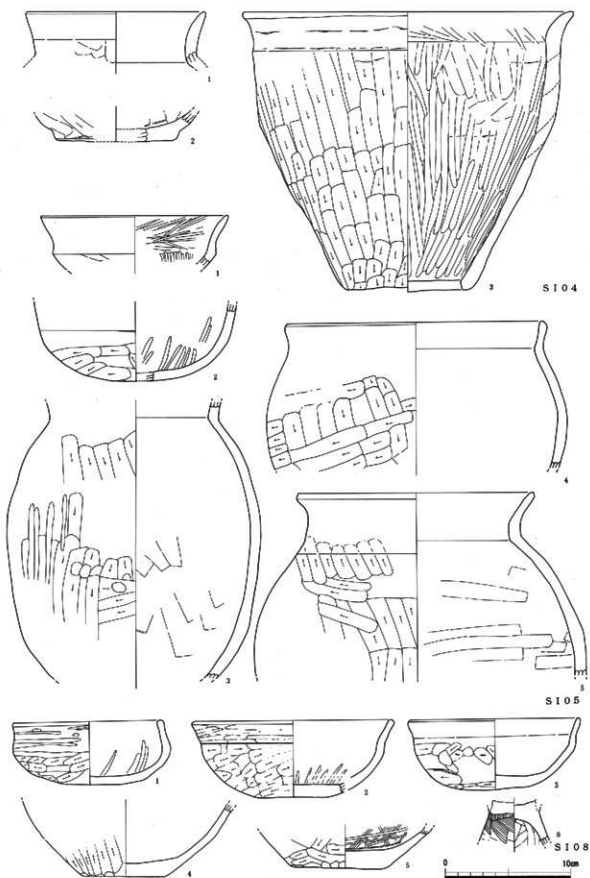
第40図 田中下文挟遺跡 久保田地区全体図



第41図 田中下文挟遺跡 久保田地区住居跡集成図(1)



第42図 田中下文挾遺跡 久保田地区出土遺物(1)



第43図 田中下文挟遺跡 久保田地区出土遺物(2)

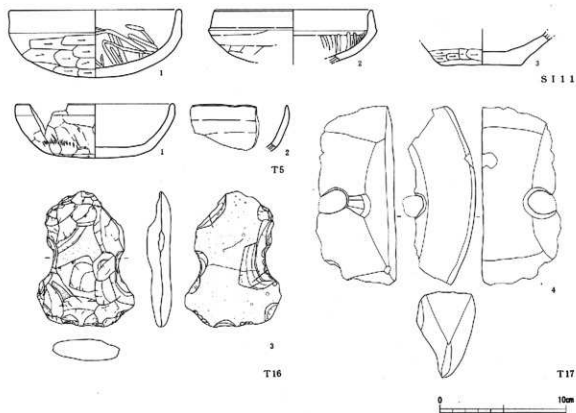
S107

S108

S111

S109

第44図 田中下文挟遺跡 久保田地区住居跡集成図(2)



第45図 田中下文挟遺跡 久保田地区・稲荷前遺跡出土遺物(3)

支えない旨、回答している。

遺構はかなり密集している。溝は住居跡を切る形で南北または東西方向に認められている。S102を切る溝の深さは40cm。住居跡の上面が削平されて掘り込みが浅いこともあり、覆土・断面の記録をとり得ず、また柱穴・カマド等附属する施設の調査も十分ではないが、柱穴が確認できたもの、壁溝のあるもの(S108)、貯蔵穴と推定できる穴のあるもの(S102、05、06)、入り口または貯蔵施設と推定できる突出部・掘り込みの認められるS104(深さ50cm)、S103(深さ35cm)などがある。貯蔵穴の深さは、S102が30cm、

第15表 田中下文挾遺跡 久保田地区出土遺物観察表

久保田地区 SIO1

():推定値 []:残存値

番号 種類 器種	大きさ (cm: g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 杯	口(15.4) 高 5.7	外面は口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後ケズリ。内面はヨコナデ。	(外) 2.5YR2/1 赤黒 口縁部 2.5YR4/8 赤褐 (内) 7.5YR5/4 にぶい褐 口縁部 2.5YR4/4 にぶい赤褐 砂粒中量含む 焼成:良好	40% S-01覆土
2 土師器 杯	口(14.7) 高 6.6	外面は口縁部ヨコナデ後ミガキ。体部ケズリ後ミガキ。両部ともミガキがなされているが、磨耗している。内面は口縁部ヨコナデ後ミガキ。体部ケズリ後ミガキ。	(外) 5YR4/8 赤褐 (内) 5YR6/8 褐 砂粒微量含む 焼成:良好	80% S-01覆土
3 土師器 高杯	口(14.3) 高 6.1	外面は口縁部ヨコナデ。体部(胴部付近)ケズリ後ミガキ。内面は口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後ミガキ。	(内外) 5YR5/6 明赤褐 砂粒微量含む 焼成:良好	40% S-01覆土
4 土師器 高杯	高[7.2]	外面は口縁部ヨコナデ後ミガキ。体部ケズリ。内面は口縁部ヨコナデ。体部一底面は表面がはがれてしまっている。(にぶい黄褐色 10YR7/4)	(内外) 5YR6/8 褐 砂粒微量含む 焼成:良好	30% S-01覆土
5 土師器 甕	口 14.0 高[3.9]	外面はヨコナデ。内面はヘラナデ。一部ナデ。	(外) 10YR3/1 黒褐 (内) 10YR3/2 黒褐 砂粒を中量含む 焼成:良好	10% S-01覆土
6 土師器 甕	底 7.9 高[4.9]	内外面ともにヨコナデ後ケズリ。その後ミガキ。	(内外) 7.5YR5/4 にぶい褐 砂粒を少量含む 焼成:良好	5% S-01覆土

久保田地区 SIO2

():推定値 []:残存値

番号 種類 器種	大きさ (cm: g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 杯	口(14.6) 高 5.0	外面は口縁部ヨコナデ。体部ケズリ後ナデ。内面は体部上半口縁部ヨコナデ。底部ナデ。外面底部に黒斑有り。	(外) 口縁部 5YR7/6 褐 体部上半 7.5YR7/3 にぶい褐 (内) 5YR7/6 褐 磨耗 焼成:良好	1/5程度 口唇部はぼろ SI-02覆土
2 土師器 小形甕	口(16.0) 高[5.6]	外面は口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。内面は口縁部一胴部ヨコナデ。胴部一胴部ハケ。	(外) 5YR5/6 明赤褐 (内) 5YR4/6 赤褐 砂粒、白色細粒、赤色細粒含む 焼成:良好	口縁部一胴部 上半1/6程度 SI-02覆土
3 土師器 甕	口(17.2) 高[6.2]	外面は口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。内面は口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面に黒斑有り。	(外) 7.5YR6/6 褐 (内) 10YR6/3 にぶい黄褐色 砂粒多量を含む 焼成:良好	口縁部一胴部 上半1/4弱 SI-02覆土
4 土師器 甕	口(8.6) 高[3.6]	外面は口縁部一胴部ナデ後ヨコナデ。口唇部ナデ。内面はヨコナデ。	(外) 5YR6/6 褐 (内) 10YR1/2 灰黄褐 砂粒多量を含む 焼成:良好	口縁部片 1/6程度 SI-02覆土
5 土師器 甕	底 6.4 高[1.9]	外面はナデ。底面ナデ。内面はヘラナデ。	(外) 2.5YR5/6 明赤褐 (内) 10YR6/4 にぶい黄褐色 砂粒、白色細粒多量を含む 焼成:良好	底部のみ SI-02覆土
6 土師器 甕	高[23.1]	外面は胴部下平ケズリ後ナデ。胴部中位縦方向のナデ。上半斜方向のナデ。内面はナデ後、胴部下半一中位にミガキ。	(内外) 10YR7/3 にぶい黄褐色 砂粒少量、赤色細粒多量を含む 焼成:良好	胴部中位一 下半半分のみ SI-02覆土

久保田地区 SIO3

():推定値 []:残存値

番号 種類 器種	大きさ (cm: g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 高杯	高[5.1]	外面はミガキ。内面はナデ。	(内外) 2.5YR5/6 明赤褐 白色細粒、砂粒多量を含む 焼成:良好	胴部上半1/4弱 SI-03覆土
2 土師器 台付甕	高[3.0]	外面はハケ。内面はヘラナデ後ナデ。	(外) 5YR6/6 褐 (内) 10YR4/1 褐灰 砂粒少量含む 焼成:良好	SI-03覆土
3 土師器 甕	高[6.5]	外面は胴部一胴部上辺ヨコナデ。胴部ナデ。内面は胴部ヨコナデ。胴部ナデ。内外面ともに黒斑有り。	(外) 7.5YR7/6 褐 (内) 10YR7/4 にぶい黄褐色 赤色細粒、砂粒中量含む 焼成:良好	胴部一胴部上辺 破片 SI-03覆土

4 土師器 甕	底(6.4) 高[2.0]	内外面ともにナデ。底面はケズリ後ナデ。内面はス付着。	(外)2.5YR5/6 明赤褐 (内)2.5YR5/4 にぶい赤褐 赤色細粒、白色細粒中量含む 焼成:良好	底部半分のみ SI-03覆土
5 土師器 甕	底(7.4) 高[2.2]	外面はナデ。内面はヘラナデ。底面はケズリ後周縁ナデ。内外面ともに黒斑有り。	(外)7.5YR4/1 褐灰 底面のみ 7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR2/1 黒 白色細粒多量、 砂粒少量含む 焼成:良好	底部半分 SI-03覆土
6 土師器 甕	口15.4 底 8.3 高25.4	外面は口縁部ヨコナデ。胴部一割部ハケ後ナデ。胴部下ナデ。底面ケズリ。内面はハケ後、胴部ナデ。胴部中央部に黒斑有り。	(外)10YR6/3 にぶい黄褐 (内)10YR3/2 黒褐色 白色細粒、 石英、黒雲母少量含む 焼成:良好	90% SI-03覆土

久保田地区 S I O 4

():推定値 [] :残存数

番号 種類 器種	大きさ (cm・g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 甕	口(14.0) 高 3.5	外面は頸部ナデ後、口縁部ヨコナデ。内面は口縁部ヨコナデ。	(内外)5YR5/3 にぶい赤褐 白色細粒、砂粒中量 黒炭少量含む 焼成:良好	破片 SI-04覆土
2 土師器 甕	径(5.2) 高[2.1]	外面はナデ後ヘラケズリ。内面はヘラナデ。底面はヘラケズリ、 雑な仕上げで平にならず。	(外)2.5YR5/6 明赤褐 (内)5YR6/4 にぶい褐 小礫、赤色細粒、白色細粒多量に 含む 焼成:良好	破片 SI-04覆土
3 土師器 甕	口26.2 底 9.1 高22.2	外面は口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ。底部ケズリ後ナデ。内面は 口縁部ヨコナデ、胴部ナデ後ミガキ。一部黒斑有り。	(内外)5YR6/6 褐 赤色細粒多量、砂粒少量含む 焼成:良好	95% SI-04 張り出し ビット

久保田地区 S I O 5

():推定値 [] :残存数

番号 種類 器種	大きさ (cm・g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 甕	口(14.6) 高[4.2]	外面は口縁部ヨコナデ、体部ナデ。内面は口縁部ヨコナデ後、口 縁部横方向、体部放射状にミガキ。	(外)10YR7/3 にぶい黄褐 (内)2.5YR7/2 灰黄 砂粒極少量含む 焼成:良好	口縁部1/4弱 体部わずかの SI-05覆土
2 土師器 甕	高[6.2]	外面は底部から胴部ケズリ。口縁部ナデ。内面はナデ後ミガキ。 口縁部付近の内外面は全体的にやや摩耗している。	(外)胴部 10YR5/4 にぶい黄褐 (外)底部 10YR1.7/1 黒 (内)10YR6/2 灰黄褐 砂粒少量含む 焼成:良好	40% SI-05覆土
3 土師器 甕	口(20.7) 高[11.7]	外面は口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ。内面は口縁部ヨコナデ、胴 部ヘラナデ。	(外)5YR6/6 褐 (内)7.5YR6/6 褐 砂粒少量含む 焼成:良好	25% SI-05貯穴
4 土師器 甕	高[21.8]	外面は胴部ケズリ。内面は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。一部 赤褐色部分有り。	(外)7.5YR5/2 灰褐 一部10YR4/6 赤褐 (内)10YR5/3 にぶい黄褐 一部10YR4/1 褐灰 砂粒中量含む 焼成:やや良好	50% SI-05貯穴 SI-03一筋
5 土師器 甕	口 18.7 高[14.4]	外面は体部から胴部ケズリ。口縁部から頸部ヨコナデ。内面は口 縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。一部外面に黒斑有り。	(外)5YR6/8 褐(内)7.5YR4/2 灰褐 砂粒中量含む 赤褐色粒少量含む 焼成:良好	40% SI-05覆土 SI-05北東貯穴

S I O 5 南東ビットが 50 cm。柱穴では、S I O 5 北東柱穴(70 cm)のように深いものもある。S I O 9 南東ビットは 40 cm、S I O 8 南東ビットは 50 cm。また S I O 8 東側で貼床面一部のみ確認された S I 1 1 推定範囲内に 40 cm の深さのビットがある。住居跡自体の覆土厚は 10 ~ 20 cm 程度。この久保田地区工事立会で出土した遺物の総数はテンバコ 9 箱分である。図示以外の遺物について示すと、S I O 1 では土師器の坏・甕の小破片 40 点、S I O 2 では土師器坏・甕の小破片 67 点及び内耳土器の破片 1 点、S I O 3 では貯蔵穴から土師器の坏破片、覆土から土師器坏・甕の小破片 41 点、S I O 5 では土師器の坏・甕の小破片 20 点、須恵器破片 1 点、S I O 8 では土師器坏・甕・甔の小破片 96 点、S I 1 1 では土師器坏・甕・甔の小破片 16 点が認められる。S I O 4 では図示以外に遺物はない。

久保田地区 S108

():推定値 []:残存値

番号 種類 器種	大きさ (cm/g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 杯	口 11.9 高 5.0	外面は口縁部ヨコナデ後ミガキ。体部ケズリ後、全体的にミガキ。内面は口縁部ヨコナデ。体部ミガキ。	(外)5YR5/8 橙 (内)5YR5/8 橙 10YR7/3 にぶい黄褐色 砂粒微量含む 焼成:良好	90% SI-08層土
2 土師器 杯	口(16.0) 底 5.7 高 6.1	外面は口縁部ヨコナデ後ミガキ。体部ケズリ。内面は口縁部ヨコナデ後ミガキ。体部ヨコナデ後ミガキ。胴部、底部が赤彩。	(外)口縁部 5YR4/8 赤褐 胴部 10YR3/4 暗褐 (内)胴底部 10YR3/6 暗赤 口縁部 5YR4/8 赤褐 砂粒中量含む 焼成:良好	60% SI-08層土
3 土師器 杯	口(13.7) 高 5.6	外面は口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。一部指オサエ。底部ケズリ後、胴部、底部ミガキ。内面は摩耗が激しい。	(内外)10YR5/3 にぶい黄褐色 砂粒を中量含む 焼成:やや良好	70% SI-08層土 SI-11層土
4 土師器 甕	底 6.4 高[5.5]	外面は胴部ケズリ。胴部下端指圧痕有り。内面はヨコナデ。	(内外)10YR2/1 黒 砂粒を少量含む 焼成:良好	20% SI-08層土
5 土師器 甕	底 7.0 高[3.0]	外面は胴部ケズリ。胴部下端指圧痕有り。内面は全面ミガキ。	(外)5YR4/3 にぶい赤褐色 (内)10YR3/1 黒褐色 砂粒中量含む 焼成:良好	20% SI-08層土
6 土師器 台付甕	高[3.0]	外面は体部ナデ後ハケメ。内面はナデ。	(外)2.5YR5/6 明赤褐色 (内)7.5YR4/3 褐 砂粒中量含む 焼成:良好	10% SI-08層土

久保田地区 S111

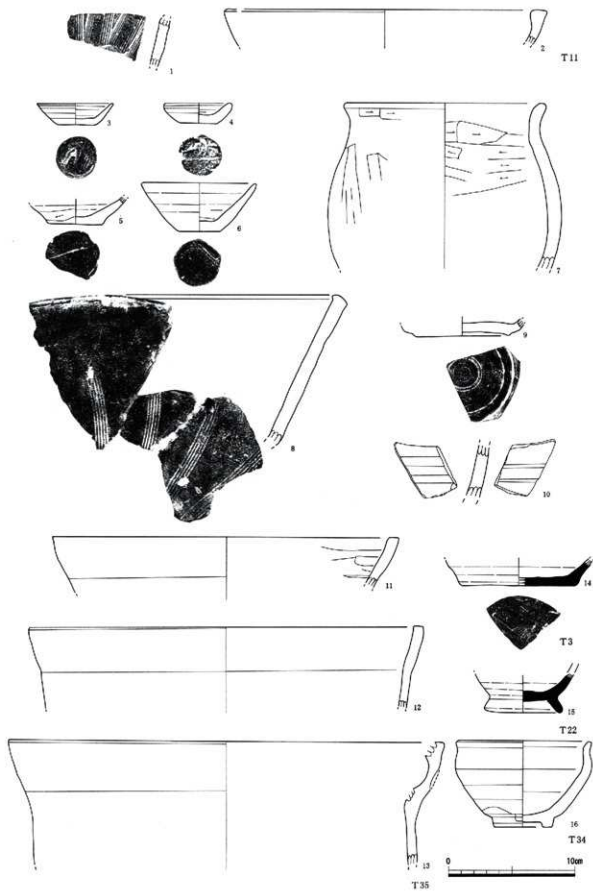
():推定値 []:残存値

番号 種類 器種	大きさ (cm/g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 杯	口(13.6) 高 5.3	外面は口縁部ヨコナデ。摩耗している。胴部ヨコナデ後ケズリ。内面は口縁部ヨコナデ。摩耗している。胴部、底部は全体的にミガキがある。	(内外)7.5YR5/4 にぶい橙 砂粒少量含む 焼成:良好	50% SI-11貯穴一括
2 土師器 杯	口(12.4) 高 4.1	外面は口縁部ヨコナデ。体部全面ヘラケズリ後、体部上半をナデ。内面は口縁部ヨコナデ。体部放射状のヘラミガキ。	(外)5YR6/6 橙 (内)7.5YR6/6 橙 白色細粒、赤色細粒少量含む 焼成:良好	口縁部へ体部 上半1/4のみ SI-11貯穴
3 土師器 甕	底 6.3 高[2.6]	外面は胴部ナデ後ケズリ。内面はヨコナデ。	(外)底部5YR4/4 にぶい赤褐色 (内)5YR4/4にぶい赤褐色 一部5YR1.7/1(炭化面) 砂粒を中量含む 焼成:良好	10% SI-11貯穴

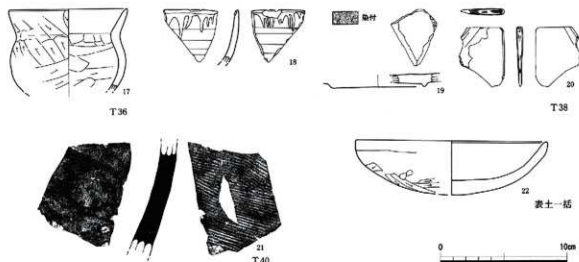
稲荷前遺跡

():推定値 []:残存値

番号 種類 器種	大きさ (cm/g)	特 徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 杯	口(12.6) 高 4.3	外面は底部から胴部ケズリ後ミガキ。口縁部ヨコナデ。内面はナデ。口縁部は炭が付着。	(内)7.5YR7/4 にぶい橙 (外)10YR1/4 褐色 赤色粒子中量、砂粒微量含む 焼成:良好	40% トレンチ5層土
2 土師器 杯	高[3.7]	外面は胴部ケズリ後ミガキ。口縁部ヨコナデ。内面はナデ。	(内外)7.5YR7/4 にぶい橙 赤色粒子中量、砂粒微量含む 焼成:良好	破片 トレンチ5層土
3 打製 石斧	長 10.7 幅 7.6 厚 1.9	両面に自然面を残す。全体的に摩耗している。	(自然面)5YR3/2 淡黄 (剥離面)10YR3/2 灰白	完形 トレンチ16層土
4 石製品 石臼	厚 6.8	上臼の一部分。側面に挽き手穴有り。芯穴有り。摩耗している。	石材:安山岩	20% トレンチ17層土



第46図 田中下文挟遺跡 久保田地区確認調査出土遺物-1



第47図 田中下文挾遺跡 久保田地区確認調査出土遺物-2

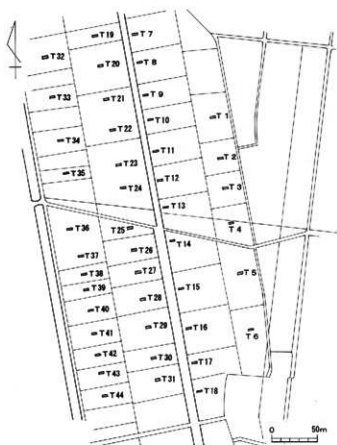
第16表 田中下文挾遺跡 久保田地区確認調査出土遺物観察表-1

():推定値 [] :残存値

番号 種類 器種	大きさ (cm・g)	特徴	色調 新土・焼成 (または素材)	残存状態 注記 出土状態
1 陶磁器 すり鉢	高[3.6]	外面はナデ、内面は指目。	(内外)2.5YR/1 黒褐 砂粒多量 焼成:やや良好	破片 トレンチ11
2 内耳 土器片	口[25.1] 高[2.7]	内外面はナデ。外面は全体的にス付着。	(外)10YR3/1 黒褐 (内)10YR4/2 灰黄褐 金雲母細粒少量 焼成:良好	破片 トレンチ11
3 土師質 土器	口 6.0 高 1.7	内外面ともヨコナデ。	(外)10YR6/2 灰黄褐 (内)10YR7/2 にぶい黄褐 赤色細粒極少量含む 焼成:良好	片形 SD-1
4 土師質 土器	口 6.4 高 1.6	内外面ともヨコナデ。	(内外)7.5YR7/4 にぶい橙 赤色細粒極少量含む 焼成:良好	片形 SD-1
5 土師質 土器	高[2.0] 底 4.3	内外面ともクロ調整。外面は胴部下位ケズリ有り。	(内外)2.5YR/2 灰白 黒粒中量含む 焼成:やや良好	40% トレンチ35
6 土師質 土器	高 3.9 底 3.3	内外面ともにクロ調整。	(内外)10YR7/3 にぶい黄褐 黒粒、赤粒少量含む 焼成:やや良好	40% トレンチ35
7 土師質 土器	口(15.8) 高[13.0]	外面は口縁部ケズリ、胴部ケズリ。一部黒斑有り。内面は口縁部 ヨコナデ、胴部ケズリ。	(表)2.5YR/6 明赤褐 (裏)5YR5/6 明赤褐 白色粒子微量含む 焼成:良好	20% トレンチ35
8 陶磁器 すり鉢	口(36.0) 高[12.8]	外面はナデ。内面は指目。	(内外)7.5YR 明褐 砂粒多量、金雲母多量 焼成:良好	10% トレンチ35
9 陶磁器	高[1.3] 底 7.4	クロ調整。	(内外)5YR/3 オリーブ黄 黒色細粒少量 焼成:良好	破片 トレンチ35
10 陶磁器	高[3.8]	内外面ともにクロ調整。	(外)7.5R3/2 暗赤褐 (内)5YR3/3 暗赤褐 黒色細粒少量含む 焼成:良好	破片 トレンチ35
11 内耳 土器	口(27.2) 高[4.0]	外面はナデ。内面は、ナデ後ケズリ。	(外)10YR3/2 黒褐 (内)5YR4/6 赤褐 焼成:良好	10% トレンチ35
12 内耳 土器	口(31.0) 高[6.5]	外面はナデ。内面はナデ後ケズリ(一部)。	(外)7.5YR/1 褐灰 (内)10YR5/2 にぶい灰黄褐 金雲母中量含む 焼成:やや良好	破片 トレンチ35
13 内耳 土器	口(34.2) 高[9.6]	外面はナデ、一部指圧痕有り。内面は耳部分が破損、ナデ。	(外)2.5YR2/1 黒 (内)5YR4/6 赤褐 焼成:良好	10% 破片 トレンチ35



第48図 稲荷前遺跡確認調査トレンチ配置図

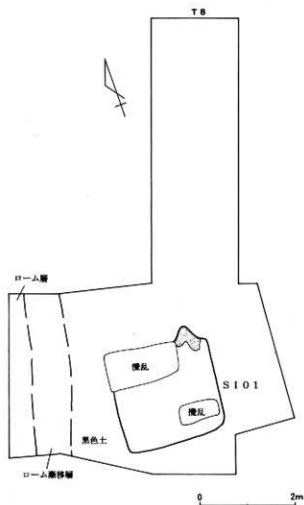


第49図 久保田地区確認調査トレンチ

第17表 田中下文扶遺跡 久保田地区確認調査出土遺物観察表-2

():推定値 []:残存値

番号 種類 器種	大きさ (cm・g)	特徴	色調 胎土・焼成 (または原料)	残存状態 注記 出土状態
14 須恵器 坪	高[2.0] 底(9.0)	内外面ともロクロ調整。底部ヘラ切り。	(内外)10Y6/1灰 白色細粒少量 黒色細粒微量含む 焼成:良好	底部30% トレンチ3
15 須恵器 片	高[3.0] 底(6.1)	外面はロクロ調整、灰色付着物あり。内面はロクロ調整、鉄錆が一部付着。	(内外)10Y5/1灰 白色細粒、黒色細粒微量含む 焼成:良好	底部20% トレンチ22
16 陶磁器 天目碗	口(10.4) 高 6.8	内外面ともロクロ整形。	(内外)7.5YR4/3 褐 (釉薬)金体的にまだら状に黒色 黒色細粒微量含む 焼成:良好	50% トレンチ34
17 土師器 埴	口(9.3) 高(6.6)	外面は頸部指圧痕有り、指オサエカ。口縁部ケズリ、体部ケズリ。内面はナデ後、口縁部ヨコナデ。	(外)10YR5/4 にぶい黄褐色 (内)2.5YR4/8 赤褐色 焼成:良好	30% トレンチ36
18 陶磁器 天目碗	高[4.0]	内外面ともロクロ整形。	(内外)黒やや赤みがかったいる (釉薬)5YR/6 オリーブ 黒色細粒微量含む 焼成:良好	破片 トレンチ38
19 陶磁器	高[1.0]	内外面ともロクロ整形。染付有り。	(内外)2.5Y7/3 浅黄 (染付部分)2.5Y3/3 増オリーブ褐 こげ茶色細粒中量 焼成:良好	破片 トレンチ38
20 石器 砥石	長 4.7 幅 2.9 厚 0.5	表面は切り込み(溝)有り、約2/3が剝離面。表面は切り込み(溝)有り、全面剝離。側面は研いだ痕跡有り。	石材:チャート	光残 トレンチ38
21 須恵器 甕	高[8.8]	外面は平行タタキ。内面はナデ。	(外)N4/ 灰 (内)N5/ 灰 黒細粒、白色細粒微量、砂粒含む 焼成:良好	破片 トレンチ40
22 土師器 坪	口(15.1) 高 4.3	外面はケズリ、指圧痕有り、口縁部(上部)に漆が塗られている。内面はヨコナデ、金体的に漆が塗られている。	(内外)7.5YR8/4 黒色細粒少量 焼成:やや良好	40% 出土位置不明 (表土一箇所)



第51図 薬師寺稲荷台遺跡T8

土層・ローム層等に至り、その面での遺構確認である。T3で土坑2基、T8でピット2基、溝1条、T11で第37図に示した性格不明遺構、T13で溝2条、土坑2基、T15で溝2条、土坑1基、ピット1基、T16で土坑1基、T16で性格不明遺構、T19で溝1条、T20で溝2条の遺構が確認された。T11からの出土遺物は第39図に示した。

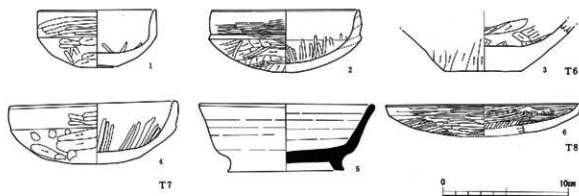
田中下文挟久保田地区では、44本のトレンチを設定した(第49図)。0.2～0.8mで暗褐色粘質土層・黒褐色粘質土層、関東ローム層等の遺構確認面に至っている。T5・T34・T37・T43で溝1条、T23・24・32で溝2条、T35で溝1条・土坑1基、が確認された。T11,34,35等で遺物の出土があり、一部ではあるが図示報告する(第46,47図)。T35で中世遺物の出土が目立っている。また幾つかのトレンチで土師器・須恵器も少量認められている。T2,3,8,11～13,22～25,27,30～38,40,42～44で遺物の出土があるが、これら併せてテンバコ1箱分である。T24,T34～36からの遺物がやや多く、図示した以外では土師器破片約100点、須恵器は



第52図 西の島遺跡確認調査トレンチ配置図



第53図 西の島遺跡工事立会トレンチ配置図



第54図 薬師寺稻荷台遺跡出土遺物

第18表 薬師寺稻荷台遺跡出土遺物観察表

():推定値 [] :残存率

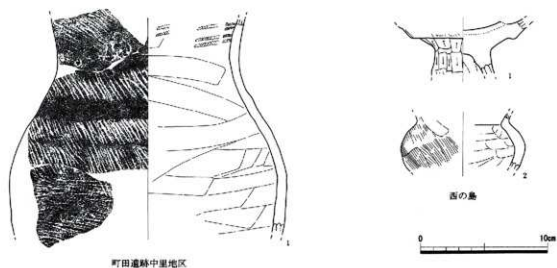
番号 種類 器種	大きさ (cm・g)	特徴	色 調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 杯	口(9.4) 高 4.5	外面は体部ケズリ後ミガキ。口縁部ヨコナデ後ミガキ。内面は口縁部ヨコナデ、体部ミガキ。	(外)7.5YR3/2 黒褐 (内)7.5YR4/2 灰地 砂粒微量 焼成:良好	50% トレンチ6 暗褐色上中
2 土師器 杯	口(11.6) 高(4.9)	外面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ミガキ。内面はヨコナデ後、体部ミガキ。	(内外)5YR6/8 緑 砂粒、赤色細粒多量に含む 焼成:良好	1/6破片 トレンチ6 明褐色上中
3 土師器 杯	高(3.5) 底 6.0	外面は体部ケズリ。内面はヨコナデ後ケズリ。	(外)7.5YR5/6 赤褐 7.5YR4/2 灰地 (内)7.5YR5/4 にぶい地 砂粒中量 焼成:良好	10% トレンチ6 明褐色上
4 土師器 杯	口(13.4) 高 4.9	外面は口縁部ヨコナデ後ミガキ。体部(上端)に指圧痕。体部から底部ケズリ後脰オサエ。内面は口縁部ヨコナデ、体部ミガキ。	(内外)5YR6/8 緑 砂粒微量 焼成:やや良好	20% トレンチ7一括
5 須恵器 杯	口 13.7 高 5.3	外面は口縁部ヨコナデ、底部未切り、高台貼り付け。内面は口縁部ヨコナデ。	(内外)5Y5/1 灰 砂粒中量 焼成:良好	ほぼ完形 トレンチ8内のSI
6 土師器 杯	口(15.6) 高(2.3)	外面はケズリ後ナデ、口縁部ヨコナデ後、全体にミガキ。内面はミガキ(以前にナデか)。	(内外)2.5YR5/6 明赤褐 緻密(白色細粒極少量含む) 焼成:良好	1/4割 破片 底部完欠 トレンチ8内のSI



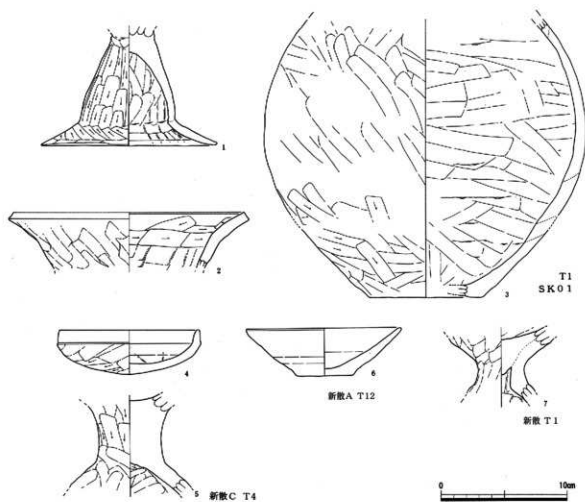
第55図 町田遺跡中里地区トレンチ配置図



第56図 新規散布地Cトレンチ配置図



第 57 図 町田遺跡中里地区・西の島遺跡出土遺物



第 58 図 田中下文挾遺跡 横町・鶴巻地区A地点・新規C等遺物

第19表 町田遺跡中里地区出土遺物観察表

():推定値 []:残存値

番号 種類 器種	大きさ (cm・g)	特徴	色調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 弥生土器 甕	高[17.1]	外面はナデ後に燃焼面。胴部中位より下は糸が横方向、胴部一 部中位は糸が斜方向で3段に施文。内面はヘナダ後、胴部に 浅い横糸を施文。	(外)10YR6/3 にぶい黄橙 (内)2.5Y3/1 黒褐 砂粒含む 焼成:良好	胴部一側部中位 1/3強 トレンチ5

第20表 西の鳥遺跡出土遺物観察表

():推定値 []:残存値

番号 種類 器種	大きさ (cm・g)	特徴	色調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 高杯	高[3.7]	外面は杯部下端、横方向のナデ後ハケ。脚部ケズリ。内面は杯部 底部ケズリ後、丁寧なナデ。脚部大雑把なナキトリ。	(内外)7.5YR6/6 橙 小粒、砂粒、白色細粒含む 焼成:良好	杯部底部一 側部上半 立金 トレンチ5 S62
2 土師器 埴	高[4.4]	外面は杯部上半一中位ナデ後ハケ。内面は横方向のナデ。	(外)7.5YR6/3 にぶい黄橙 5YR5/4 にぶい赤褐 (内)2.5Y3/1 黄灰 砂粒含む 焼成:良好	杯部上半一中位 1/4弱 トレンチ27

第21表 鶴巻A・新規C等遺物観察表

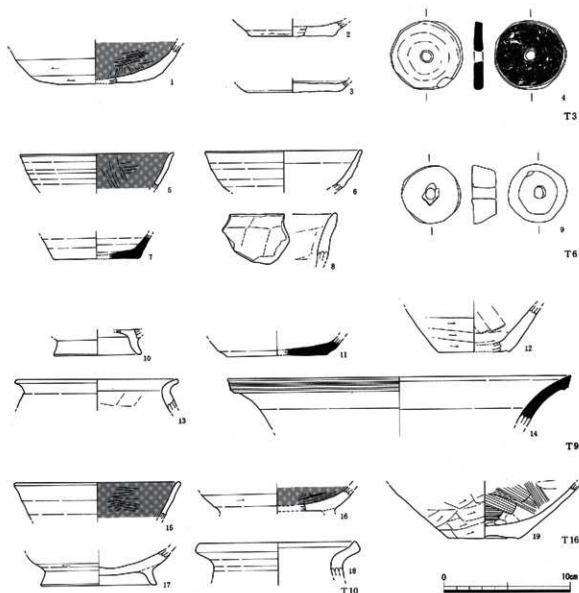
():推定値 []:残存値

番号 種類 器種	大きさ (cm・g)	特徴	色調 胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状態
1 土師器 高杯	底[13.9] 高[19.0]	外面は脚部と杯部の境にナデ後、脚部に縦方向のケズリ。胴部ケ ズリ後、裾の広がりをナデ。内面は脚部掻き取り及びヘナダで 整形後にナデ。底部ヘラナダ後ヨコナデ。	(外)10YR7/2 にぶい黄橙 (内脚)10YR7/8 橙 (内裾)10YR7/4 にぶい黄橙 小濃褐色少量、砂粒、赤色細粒多量に 含む 焼成:良好	杯部全欠 T-S-YT 横町跡等 A T-1 SK01
2 土師器 甕	口 18.2 高 4.5	外面は口縁部一側部ヨコナデ後ナデ。内面はヨコナデ後、胴部ヘ ラナダ。胴部上半一口縁部ケズリ。外面はスス付着。	(外)10YR6/3 にぶい黄橙 (内)10YR6/3 にぶい黄橙 砂粒多量を含む 焼成:良好	口縁部一側部1/2 T-S-YT 横町跡等 A T-1 SK01
3 土師器 甕	底(9.0) 高[22.0]	外面は胴部ナデ。胴部下半ナデ後ヘラケズリ。摩滅有り、ススか なり付着。内面はナデ。	(外)10YR4/2 灰黄褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐 砂粒、石英、白色細粒多量を含む 焼成:良好	底部ほぼ欠 胴部1/4のみ残 T-S-YT 横町跡等 A T-1 SK01
4 土師器 杯	口[11.0] 高 3.5	外面は口縁部ヨコナデ。杯部上半ナデ。底部一側部下半横方向の ケズリ。内面は底部一側部ヘラナダ。口縁部一側部上半ヨコナ デ。	(内外)5YR6/6 橙 密着 焼成:良好	1/4 新規散布地C T-4
5 土師器 高杯	高[7.4]	外面は脚部ケズリ、新部ナデ。内面は杯部底部ヘラナダ。胴部中 央掻き取り、上半一中位ナデ。	(外側内面)5YR6/6 橙 (杯部内面)2.5YR7/5 淡赤褐 砂粒、赤色細粒含む 焼成:良好	杯部全欠 杯部下半全欠 新規散布地C T-4
6 土師器 杯	口[12.2] 底(4.4) 高 3.8	内外面はヨコナデ。底面は回転未切り。	(内外)10YR8/3 浅黄褐 細密 焼成:良好	1/5程度 新規散布地A T-12
7 土師器 高杯	高[4.2]	外面はナデ。内面は杯部底部ナデ。脚部掻き取り、ヘラナデ。	(外)5YR7/6 橙 (内)杯 10YR7/2 にぶい黄橙 (内)脚 7.5YR6/6 橙 砂粒、白色細粒含む 焼成:良好	脚部のみ 新規散布地A T-1

少量で4点のみである。この久保田地区の北側ではこの後文化財課による工事立会調査が行われ住居跡の検出が為されている。

新規散布地Aでは、11本のトレンチ設定、0.3～0.5mで遺構確認面に至る。T1で土坑1基、T10で溝1本の確認である。図示し得る遺物の出土は無い。

横町鶴巻地区北部では、46本のトレンチ設定(T5は未掘削)、0.2～0.5mで遺構確認面。遺構は、T45で土坑1基が確認されたのみである。遺物の出土もない。



第59図 田中下文挾遺跡反田地区出土遺物

田中下文挾遺跡反田地区(第60図)では、60本のトレンチを設定した(T1, 2, 17, 35, 36は未掘削)。0.3～1.0mで遺構確認面だが、黒褐色粘質土層、黒色粘質土層等、ローム以外の土層である。一部を深く掘り下げているトレンチもある。遺構は、T3で住居跡1軒、T7で土坑1基、T9で溝1条、T53で土坑1基、ビット1基が確認されたのみである。遺物は3, 6～11, 13, 14, 22の各トレンチから出土している。特にT3, T9, T10からが顕著で、古代の遺物が目立つ(第59図)。図示し得なかったものは、全体で土師器破片約220点、須恵器片27点がある。

西の島遺跡では、30本のトレンチを設定した(第52図)。深さ0.3～0.7mで、黒褐色粘質土層、暗褐色粘質土層、関東ローム層等の遺構確認面に至る。遺構は、T7で土坑2基、T11で溝1条、T17で土坑1基、ビット1基、T19で溝1条、T21で土坑1基、T28でビット2基が確認されたのみである。遺物はT12, 13, 19, 27から出土し、いずれも土師器小片で、計10点が確認されている。T27出土の土師器のみ第57図2に示した。同図1は文化財課工事立会調査時のものである。

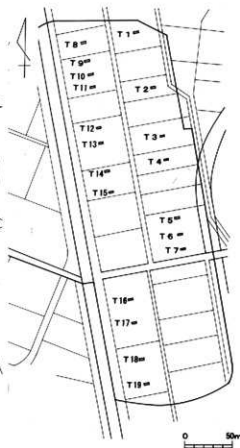
第22表 田中下文氏遺跡跡反田地区出土遺物観察表

():推定値 [] :残存率

番号 種類 図様	大きさ (cm:g)	特 徴	色 調 粘土・焼成 (または素材)	残存状態 注 記 出土状況
1 土師器 坪	高[2.8] 底[5.8]	外面は体部下半回転ヘラケズリ。底面は回転糸切り。内面はミガキ後、黒色処理。外面は黒底有り。	(外)7.5YR6/6 橙 (内)10Y2/1 黒 白色細粒、砂粒多量を含む 焼成：良好	破片 トレンチ3
2 土師器 坪	高[0.9] 底[6.8]	内外面ともにクロコナダ。底面回転ヘラ切り離し。	(外)10YR7/4 にぶい黄褐色 (内)10YR6/4 にぶい黄褐色 黒雲母、赤色細粒含む 焼成：良好	破片 トレンチ3
3 土師器 坪	高[1.3] 底[6.4]	内外面ともにクロコナダ。底面回転ヘラ切り。	(外)10YR6/6 明赤褐色 (内)10YR7/4 にぶい黄褐色 黒雲母、白色細粒含む 焼成：良好	破片 トレンチ3
4 須恵器 紡輪車	径大 5.8 厚大 0.7	表面はクロコナダの痕跡。周縁に線痕が認められる。形は円形であるが、若干角ばっている。須恵器坪の二次転用か。	(表)7.5YR6/1 灰 (裏)7.5Y5/1 灰 白色細粒、小砂少量含む 焼成：良好	完形 トレンチ3
5 土師器 坪	口[12.2] 高[2.8]	外面はクロコナダ。内面はミガキ後、黒色処理。外面は黒底有り。	(外)10YR1.7/1 黒 (内)5Y2/2 黒 黒雲母 焼成：良好	破片 トレンチ6
6 土師器 坪	口[12.4] 高[3.2]	内外面ともにクロコナダ。	(内外)10YR7/4 にぶい黄褐色 赤色細粒、砂粒、少量含む 焼成：良好	破片 トレンチ6
7 土師器 坪	高[1.7] 底[6.6]	内外面ともにクロコナダ。底面ヘラケズリによる調整。	(内外)5Y5/1 灰 砂粒、白色細粒極少量含む 焼成：良好	破片 トレンチ6
8 土師器 壺	高[3.8]	粗いつくり。内外面ともにヘラナダ。	(内外)7.5YR5/3 にぶい橙 白色細粒、黒雲母、砂粒含む 焼成：良好	破片 トレンチ6
9 土製品 紡輪車	径大4.5 厚大1.9	表面、裏面は平坦。裏面より穿孔され、表面に剥離、粘土の盛り上げの痕跡が見られる。スズ平程度の範囲に付着。	(表裏)5YR6/6 橙-2.5Y6/3にぶい黄褐色 焼成：良好	完形 トレンチ6
10 土師器 坪	高[1.9] 底[6.8]	内外面ともにクロコナダ。	(外)7.5YR6/6 橙 (内)2.5Y7/2 灰黄 砂粒極少量含む 焼成：良好	高台破片 トレンチ9
11 須恵器 坪	高[1.5] 底[7.8]	内外面ともにクロコナダ。底面回転糸切り離し。	(内外)5Y6/1 灰 砂粒含む 焼成：良好	破片 トレンチ9
12 土師器 壺	高[3.5] 底[5.6]	外面はケズリ。内面は底部付近ナダ、胴部下半ヘラナダ。外面は黒底有り。	(外)10YR5/3 にぶい黄褐色 (内)7.5YR5/6 明褐色 焼成：良好 砂粒、石英、白色細粒多量を含む	破片 トレンチ9
13 土師器 壺	口[13.0] 高[2.5]	外面は口縁部ヨコナダ、胴部上半ケズリ後ナダ。内面は口縁部ヨコナダ、胴部上半ヘラナダ。	(外)7.5YR7/6 橙 (内)10YR6/3 にぶい黄褐色 砂粒、黒雲母、白色細粒少量含む 焼成：良好	破片 トレンチ9
14 須恵器 坪	口[27.0] 高[4.0]	内外面ともにクロコナダ。口縁部外面沈線4本。	(外)5Y6/1 灰 (内)7.5Y5/1 灰 白色細粒多量を含む 焼成：良好	破片 トレンチ9
15 土師器 坪	口[13.2] 高 2.9	外面はクロコナダ。内面はミガキ後、黒色処理。外面は黒底有り。	(外)5YR6/1 灰 (内)10Y2/1 黒 白色細粒、黒雲母極少量含む 焼成：良好	破片 トレンチ10
16 土師器 坪	高[1.7]	外面は坪回転ヘラケズリ。クロコナダか？。その後、高台を付けてクロコナダ(高台欠損)。底部ヘラ切りか？(糸切り痕はない)。内面はミガキ後、黒色処理。	(外)7.5YR6/6 橙 (内)5Y2/2 オリーブ黒 砂粒少量含む 焼成：良好	破片 トレンチ10
17 土師器 坪	高[2.8] 底[9.0]	外面は坪回転ヘラケズリ。体部下半回転ヘラケズリ後、高台を付けてクロコナダ。底部回転糸切り。内面の調整は単線の為不明瞭。クロコナダか？。	(外)5YR6/6 橙 (内)10YR6/6 明黄褐色 砂粒少量含む 焼成：良好	1/5程度 破片 トレンチ10
18 土師器 壺	口[12.4] 高[2.8]	外面はクロコナダ。内面は調整不明瞭。口唇部をつまみ上げる器形。	(内外)2.5Y 灰黄 緻密 焼成：良好	破片 トレンチ10
19 土師器 壺	高[4.2] 底[5.6]	外面はヘラケズリ。底面中心から周縁ヘラケズリ。内面はハケ後ナダ。	(外)5YR5/3 にぶい黄褐色-2.5Y2/1 黒 (内)10YR5/3 にぶい黄褐色 砂粒少量含む 焼成：良好	底部欠残 胴部下部7割程度 残 トレンチ16



第60図 田中下文挾遺跡反田地区H17確認調査トレンチ配置図



第61図 新規敷布地Aトレンチ配置図

新規敷布地Cでは4本のトレンチを設定し掘り下げた(第56図)。0.2～0.5mで遺構確認面のローム層・褐色土層に至る。遺構はT2でピット4基、T4で道路遺構を確認している。遺物はT3,4で出土し、うちT4出土のものを第58図4.5に示した。これ以外では両トレンチから土師器片102点、須恵器片1点が認められた。この新規敷布地Cでは平成18年度に文化財課工事立会調査も行われており、T3～T5で遺物の出土があるものの、いずれも小片で図示し得なかった。

平成18年度は、大きく5箇所の確認調査を行った。これまでと同様、重機によってトレンチ掘り下げたの確認である。下半期の契約で、11,12月に確認調査、その後若干の整理を行っている。トレンチは基本5×2mの大きさで設定し、状況に応じ延長している。

町田遺跡中里地区では18本のトレンチを設定した(第55図)。0.2～0.6mで遺構確認面に至る。確認面は暗黄褐色土、黒褐色粘質土層、関東ローム層等である。遺構は、T1で溝1条、T4で土坑1基、T5で小ピット1基、T8で溝1条、T15で溝1条、である。遺物はT1,5,8,13,17から出土している。T5出土の弥生土器が注目される(第57図1)。図示した以外の遺物は、土師器の小片20点程度である。

田中・下文挾遺跡平塚地区では、12本のトレンチを設定した。0.3～0.6mで遺構確認面＝暗褐色粘質土層、

褐色砂質土層、黒褐色土層などに至る。遺構はいずれのトレンチからも確認されていないが、土師器小片などの遺物はT5,11,12で確認されている。但し図示し得るものはない。

田中・下文扶遺跡反田地区について、平成18年度は、23本のトレンチを設定した。うち、T1, 2, 12, 15, 16, 18, 19は未掘削である。0.2～0.4mで遺構確認面＝暗褐色粘質土層、褐色粘質土層等に至る。遺構は、T7でビット1基、T9で性格不明遺構1が確認された。この平成18年度の反田地区調査では遺物の出土は認められていない。

新規散布地Aでは、20本のトレンチを設定した（第61図）。0.2～0.4mで遺構確認面＝暗褐色土層、黒褐色粘質土層・暗褐色粘質土層等に至る。遺構は、T3で土坑1基、T20で溝1条が確認されている。T1～3, 7～19で遺物の確認がある。小片で遺物の時期不詳なものも多いが、古墳時代の土師器（T1, 第58図7）、古代の土師器（T3）や8C代の瓦片（T14）、奈良・平安時代の須恵器（T13）、中世かわらけ（T12, 第58図6）など、比較的時期を絞れるものも認められた。図示した以外では、土師器片105点、須恵器片11点、瓦片5点、陶磁器片1点がある。

稲荷前遺跡では19本のトレンチを設定し、うちT12,13は未掘削である（第48図）。0.2～0.4mで遺構確認面＝暗褐色粘質土層、黒褐色粘質土層、褐色粘質土層などに至る。遺構は、T5で土坑1基、T1, 2, 9, 15, 17, 23で溝1条、T16で溝1条、土坑1基、小穴6基、T18でビット5基、T19で土坑1基、T20, 22で土坑1基・溝1条が認められている。遺物としては、T1, 2, 4, 5, 9, 10, 14～18, 22からの出土が認められた。土師器片が多く、T1, 5等で確認されている（第45図2）。T4, T9など須恵器片の出土は少数に留まる。T2では中近世の内耳土器、T17では内耳土器及び石臼片（第45図4）なども認められた。図示した以外ではT11で煙管の出土がある。図示可能なものは第45図下段1～4に示した。



久保田S101



久保田S108



久保田42-6



町田中里54-1



第3章 まとめ

今回の再整理では、確認調査・工事立会に伴う調査の中で、ほぼ出土遺物の整理が終了した3つの事業について調査概要を示した。最後に調査成果を整理し、今後の報告に向けての基礎としたい。

第1節で示した木村古墳群については、主に堅穴住居跡4軒の出土遺物について報告した。今回の報告では、記録類の追跡が適わず、遺構図の提示や調査時の所見を示すことができなかった。従って一括関係についての検討が為し得ないが、出土土器の特徴から、4軒いずれも概ねセット関係として捉えられよう。全体的な特徴として、須恵器の出土が認められない点、鉢や小形甕といった器種がやや目立つ点が注目される。甕では、長胴化しているものと、球形に近いものがある。埴や高坏ではやや古い様相を示す個体も認められ、詳細な型式論的な検討が必要となろうが、古墳時代後期前葉～中葉の範囲で捉えられる資料群であろう。

第2節の石橋南部地区関係では、岩波遺跡、前川原遺跡、前川原西遺跡及び車口北遺跡確認調査の一部を報告した。岩波遺跡では、幅約3mでL字状に屈曲する古墳時代の大きな溝が検出された。覆土の上位にHr-F Aと推定される火山灰が確認され、詳細な出土位置は不明であるが、火山灰層下位で比較的多くの遺物が出土している。溝覆土の観察・分層ではやや不自然な、不整合的なラインを見いだすこともでき、底面の段差の存在も含め、掘り直し等、単純な一時期の所産ではない可能性も考えられようか。遺物については、内斜口縁の埴形環、半球形環、須恵器蓋模倣環や高坏、壺の形態等から、古墳時代中期(5世紀)中葉～後半と考えられ、火山灰層との整合性ははかれる。調査時の所見として考えられたいわゆる居館跡とする根拠はなお不十分ではあるが、ここではその可能性を示すこととし、今後検討を行うこととしたい。

前川原遺跡S I 01では、甕・甕が顕著に確認されている。甕は長胴甕が多く、小形のものはハケ調整で仕上げられている点の特徴である。6世紀前葉～中葉と考えられる。前川原西遺跡S I 02も、一部の調査であるが出土土器は比較的多く、坏の特徴等から6世紀中葉と捉えられよう。姿川左岸の沖積低地内に、古墳時代後期の集落が展開していることが明らかになったことは成果の一つであろう。

第3節の江川・五千石地区関係では、田中下文扶遺跡横町鶴巻地区・同遺跡久保田地区等から良好な資料が出土している。とりわけ、田中下文扶遺跡横町鶴巻地区A地点S I 01の土坑内一括資料が注目される。ほぼ埴・坏類で占められるが、出土位置記録のある1～14.17は、その出土状態からも古墳時代中期の一括資料として問題ないであろう。同遺跡横町鶴巻地区のC地点S I 01では、古墳時代前期の資料がまとまっている。確認調査でもこの付近のトレンチからの古墳時代前期の土師器出土が目立っており、一定規模の集落が展開している可能性もあろう。同遺跡久保田地区では、古墳時代中期～後期にかけての住居跡群が密集して認められた。住居形態・付属施設には不明な点も残るが、カマド導入以前の住居跡とカマドを有する住居跡両者が認められ、出土土器との対応関係も齟齬がないように捉えられる。範囲の広い田中下文扶遺跡であるが、古墳時代前期以降古代までの各時期で、居住域の占地の差異・広がり・遺構の粗密を認めることができた。今回検討できなかったが、確認調査のトレンチ毎に、より詳細に遺物をチェックしてゆくことも必要となろう。ともあれ、田川右岸の沖積低地内に古墳時代の集落跡が確認できたことを、第一の調査成果として、その意義を示しておきたい。

写真図版

写真図版目次

図版1 石橋南部地区 岩波遺跡

- 岩波遺跡T1調査状況（南から）
- 岩波遺跡T2A・B SDO1（南から）
- 岩波遺跡T2A・B SDO1（南西から）
- 岩波遺跡SDO1（北から）
- SDO1コーナ一部土層断面（北から）
- SDO1土層断面A-A'（南から）
- SDO1土層断面B-B'（南から）
- SDO1土層断面C-C'（西から）

図版2 石橋南部地区 岩波遺跡・前川原遺跡

- 岩波遺跡SDO1土層断面A-A'（南西から）
- 岩波遺跡SKO1確認状況（南から）
- 岩波遺跡T3SKO2（南から）
- 岩波遺跡T2Bピット土層断面（南から）
- 岩波遺跡T3ピット（北から）
- 岩波遺跡T1（北から）
- 前川原遺跡遠景
- 前川原遺跡SIO1（北から）

図版3 石橋南部地区 前川原遺跡・前川原西遺跡・車口北遺跡

- 前川原遺跡SIO2（南東から）
- 前川原西遺跡調査地点
- 前川原西遺跡T1調査状況（北東から）
- 前川原西遺跡SIO1（南から）
- 前川原西遺跡SIO1・O2（南西から）
- 前川原西遺跡SIO3（南東から）
- 車口北遺跡T7遺構確認状況（南から）
- 車口北遺跡T7遺構確認状況（東から）

図版4 江川・五石石地区 田中下文挟遺跡 横町鶴巻地区

- 田中下文挟遺跡横町鶴巻地区A地点全景
- 横町鶴巻地区A地点SIO1・SB01（東から）
- 横町鶴巻地区A地点SB01（南から）
- 横町鶴巻地区A地点SIO1（北西から）
- 横町鶴巻地区A地点SIO1貯蔵穴遺物出土状況（東から）
- 横町鶴巻地区A地点SIO2（南から）
- 横町鶴巻地区A地点SKO1土層断面（南から）
- 横町鶴巻地区A地点SKO1（南東から）

図版5 田中下文挟遺跡 横町鶴巻地区・久保田地区

- 横町鶴巻地区C地点T2（南から）
- 横町鶴巻地区C地点SIO1（南から）
- 横町鶴巻地区D地点トレンチ遺構確認状況（南から）
- 横町鶴巻地区A地点SKO1出土遺物
- 田中下文挟遺跡久保田地区全景（南から）
- 久保田地区調査区遺構群（北から）
- 久保田地区SIO1（北から）
- 久保田地区SIO1カマド（南から）

図版6 田中下文挟遺跡 久保田地区

- 久保田地区SIO2・O3（南東から）
- 久保田地区SIO3（南東から）
- 久保田地区SIO4（南東から）
- 久保田地区SIO5（東から）
- 久保田地区SIO6（南東から）
- 久保田地区SIO6カマド（南から）
- 久保田地区SIO7（南東から）
- 久保田地区SII1（西から）

図版7 田中下文挟遺跡 反田地区

- 久保田地区SIO8及び周辺（北西から）
- 久保田地区SKO1（北から）
- 田中下文挟遺跡久保田地区確認調査T3（南から）
- 久保田地区確認調査T11（南から）
- 久保田地区確認調査T34遺構確認状況（南西から）
- 田中下文挟遺跡反田地区確認調査T3（南東から）
- 新規散布地Cトレンチ遺構確認状況
- 田中下文挟遺跡反田地区確認調査T6（南から）

図版8 田中下文挟遺跡 反田地区・薬師寺稲荷台遺跡・西の島遺跡等

- 田中下文挟遺跡反田地区確認調査T9（南東から）
- 薬師寺稲荷台遺跡全景（西から）
- 薬師寺稲荷台遺跡T8調査状況（南から）
- 薬師寺稲荷台遺跡SIO1確認状況（南から）
- 西の島遺跡全景（南から）
- 西の島遺跡T5（北から）
- 町田遺跡中里地区T5遺物出土状況（東から）
- 新規散布地A T9調査状況（西から）

図版9 木村古墳群出土遺物

図版10 岩波遺跡等出土遺物



岩渡遺跡T1調査状況（南から）



岩渡遺跡T2A・B SD01（南から）



岩渡遺跡T2A・B SD01（南西から）



岩渡遺跡SD01（北から）



SD01コーナー部土層断面（北から）



SD01土層断面A-A'（南から）



SD01土層断面B-B'（南から）



SD01土層断面C-C'（西から）



岩渡遺跡SD01土層断面A-A' (南西から)



岩渡遺跡SK01確認状況 (南から)



岩渡遺跡T3SK02 (南から)



岩渡遺跡T2Bビット土層断面 (南から)



岩渡遺跡T3ビット (北から)



岩渡遺跡T1 (北から)



前川原遺跡遠景



前川原遺跡SIO1 (北から)



前川原遺跡S102（南東から）



前川原西遺跡調査地点



前川原西遺跡T1調査状況（北東から）



前川原西遺跡S101（南から）



前川原西遺跡S101・02（南西から）



前川原西遺跡S103（南東から）



車口北遺跡T7遺構確認状況（南から）



車口北遺跡T7遺構確認状況（東から）



田中下文挟遺跡横町鶴巻地区A地点全景



横町鶴巻地区A地点SI01・SB01（東から）



横町鶴巻地区A地点SB01（南から）



横町鶴巻地区A地点SI01（北西から）



横町鶴巻地区A地点SI01貯蔵穴遺物出土状況（東から）



横町鶴巻地区A地点SI02（南から）



横町鶴巻地区A地点SK01土層断面（南から）



横町鶴巻地区A地点SK01（南東から）

木製品の
出土状況



横町鶴巻地区C地点T2（南から）



横町鶴巻地区C地点S101（南から）



横町鶴巻地区D地点トレンチ遺構確認状況（南から）



横町鶴巻地区A地点SK01出土遺物



田中下文挟遺跡久保田地区全景（南から）



久保田地区調査区遺構群（北から）



久保田地区S101（北から）



久保田地区S101カマド（南から）



久保田地区S102・03（南東から）



久保田地区S103（南東から）



久保田地区S104（南東から）



久保田地区S105（東から）



久保田地区S106（南東から）



久保田地区S106カマド（南から）



久保田地区S107（南東から）



久保田地区S111（西から）



久保田地区S108及び周辺（北西から）



久保田地区SK01（北から）



田中下文挟遺跡久保田地区確認調査T3（南から）



久保田地区確認調査T11（南から）



久保田地区確認調査T34 遺構確認状況（南西から）



田中下文挟遺跡反田地区確認調査T3（南東から）



新規散布地Cトレンチ遺構確認状況



田中下文挟遺跡反田地区確認調査T6（南から）



田中下文挾遺跡反田地区確認調査T9（南東から）



薬師寺稻荷台遺跡全景（西から）



薬師寺稻荷台遺跡T8調査状況（南から）



薬師寺稻荷台遺跡S101確認状況（南から）



西の島遺跡全景（南から）



西の島遺跡T5（北から）



町田遺跡中里地区T5遺物出土状況（東から）



新規散布地A T9調査状況（西から）



S103



S101 3-3



S103 5-13



S104



S104 7-24



S103 5-17



S101 3-5



S104 9-34



S104 7-21



S104 7-19



副物石



岩渡遺跡 SD01



横町鶴巻地区 A 地点 33-17



久保田地区 S104 43-3



前川原西遺跡 S101



薬師寺稲荷台遺跡 54-5



横町鶴巻地区 A 地点 S101



横町鶴巻地区 C 地点 S101



江川・五千石地区新規 A T5 SD02



横町鶴巻地区 A 地点 SK01



SK01

報告書抄録

ふりがな	けんえいはいじょうせいびじょうにともなうまいぞうふんかざいかくにんちようさこうじうちあいがいようほうこくしょ
書名	県営國場整備事業に伴う埋蔵文化財確認調査・工事立会概要報告書
副書名	平成21～23年度緊急雇用創出事業に係わる整理作業報告書
巻次	
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第344集
編著者名	江原英・大野淳史
編集機関	財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦 2012年3月30日 (平成24年3月30日)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
木村古墳群	栃木市都賀町	09203	5215	36° 26' 06"	139° 43' 19"	19950705～ 19950831	300	県営國場 整備事業
岩渡遺跡	下野市上大須	09216		36° 26' 10"	139° 50' 48"	20051107～ 20060831	460	
前川原遺跡	下野市上大須	09216	4263	36° 26' 04"	139° 50' 53"	20051107～ 20051110	476	
前川原西遺跡	下野市上大須	09216	4266	36° 25' 59"	139° 50' 48"	20050623～ 20050624	140	
車門北遺跡	下野市中大須	09216	5326	36° 25' 06"	139° 50' 27"	20051107～ 20051209	80	
田中下文扶遺跡 久保田地区	下野市田中	09216	5876	36° 23' 27"	139° 53' 03"	20080207～ 20080208	347	
田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区	下野市田中	09216	5877	36° 23' 26"	139° 53' 17"	20071108～ 20071120	712(立会) 200(確認)	
稲荷前遺跡	下野市仁良川	09216	5582	36° 23' 19"	139° 52' 50"	20061120～ 20061215	190	
栗跡寺稲荷台遺跡	下野市栗跡寺他	09216	5874	36° 23' 18"	139° 52' 36"	20081104～ 20081106	138	
町田遺跡	下野市町田	09216	6987	36° 24' 17"	139° 53' 18"	20061120～ 20061215	180	
西の島遺跡	下野市田中	09216	6995	36° 23' 52"	139° 53' 11"	20051219～ 20060324 20081104～ 20081106	340(立会) 300(確認)	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
木村古墳群	古墳・集落跡	縄文・弥生・古墳	竪穴住居跡 4軒	縄文土器、弥生土器、土師器、埴輪	住居跡から古墳時代後期の土器がまとまって出土 幅約3mの溝を1字状に確認
岩渡遺跡	集落跡	古墳	溝1条、土坑2基、ピット2基	土師器	住居跡は古墳時代後期
前川原遺跡	集落跡	古墳	竪穴住居跡2軒	土師器	住居跡は古墳時代後期
前川原西遺跡	集落跡	古墳	竪穴住居跡3軒	土師器	住居跡は古墳時代後期
車門北遺跡	集落跡	縄文・古代	溝1条、土坑3基	石器、土師器、須恵器、瓦	トレンチ内の溝から遺物出土
田中下文扶遺跡 久保田地区	集落跡	古墳・古代・中世	住居跡11軒、溝1条	土師器、須恵器、土師質土器、陶磁器、内耳土器、砥石	住居跡は古墳時代中～後期
田中下文扶遺跡 横町鶴巻地区	集落跡	古墳・古代・中世	A地点：住居跡2軒、竪穴住居跡1基、土坑2基 C地点：住居跡1軒、溝1条	土師器、須恵器、木製品	古墳時代の土坑より木製品 A地点住居跡は古墳時代中期 C地点住居跡は古墳時代前期
稲荷前遺跡	集落跡	縄文・古墳～中世		石器、土師器、石臼	確認調査のみ
栗跡寺稲荷台遺跡	集落跡	古墳・古代	竪穴住居跡1軒	土師器、須恵器	住居跡は古代
町田遺跡	集落跡	弥生・古墳		弥生土器	確認調査のみ
西の島遺跡	集落跡	古墳		土師器	立会及び確認調査

要約	木村古墳群は、栃木市都賀町に所在する古墳群で、工事立会調査により古墳時代の集落跡が確認されていることが明らかとなった。 岩渡遺跡・前川原遺跡・前川原西遺跡・車門北遺跡は、國場整備事業右城南地区に属する下野市の遺跡で、委川左岸の沖積低地に位置する。岩渡遺跡では古墳時代中期の「居間跡」に關する可能性もある大形の溝が確認された。 田中下文扶遺跡以下は、國場整備事業江川・五千石地区に属する下野市の遺跡で、田川右岸の沖積低地に位置する。田中下文扶遺跡・横町鶴巻地区・久保田地区において竪穴住居跡が複数確認され、古墳時代前期～後期の集落が展開していることが明らかとなった。
----	---

栃木県埋蔵文化財調査報告書第344集

県営圃場整備事業に伴う
埋蔵文化財確認調査・工事立会概要報告書

—平成21～23年度緊急雇用創出事業に係わる整理作業報告書—

発行 栃 木 県 教 育 委 員 会

宇都宮市堀田1-1-20
TEL 028 (623) 3424

財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町1-8
TEL 028 (643) 1011
平成24年3月30日発行

編集 財団法人とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター

下野市紫 474 番地
TEL 0285 (44) 8441

印刷 下野印刷株式会社
